

茨木市次世代育成支援対策推進法に係る
市民意向調査

調査結果報告書

平成 21 年 3 月

茨木市

目次

調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 回収状況	1
6. 調査結果の表示方法	1
就学前児童・小学生の保護者の調査結果	3
1. 子どものいる家族の状況	3
2. 保護者の就労状況	11
3. 保育サービスの利用状況・利用意向	26
4. 病児・病後児保育の利用意向	45
5. 一時預かりの利用意向	54
6. ショートステイの利用意向	58
7. 留守家庭児童会の利用状況・利用意向	62
8. ベビーシッターの利用状況	70
9. ファミリーサポートセンターの利用状況	71
10. 地域子育て支援拠点事業の利用状況	74
11. 育児休業制度の利用状況等	77
12. 子どものふだんの過ごし方	85
13. 子育てについて	90
14. 子どもの健康について	99
15. 子どもの食生活について	102
16. 子育てを支援する生活環境の整備について	105
17. 子どもの安全確保について	109
18. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	113
19. 行政サービスへの要望について	123
中学生・高校生本人の調査結果	126

調査の概要

1. 調査の目的

次世代育成支援対策推進法（平成 15 年法律第 120 号）に基づく後期市町村行動計画（計画期間：平成 22～26 年度）の策定に必要な現状分析、ニーズ調査に基づく目標事業量の設定のための基礎資料を得ることを目的としています。

2. 調査対象

本調査は、就学前児童（0～5 歳）の保護者から 1,500 人、小学生（1～6 年）の保護者から 1,500 人、中学生、高校生の本人から 1,155 人、合計 4,155 人を無作為に抽出し実施しました。

3. 調査期間

平成 21 年 2 月に実施しました。

4. 調査方法

就学前児童、小学生の保護者に対して、郵便による配布、回収
中学生、高校生の本人に対して、学校を通じた直接配布、回収

5. 回収状況

	配布数	回収数	回収率
就学前児童（0～5 歳）の保護者	1,500	829	55.3%
小学生（1～6 年）の保護者	1,500	808	53.9%
中学生の本人	517	467	90.3%
高校生の本人	638	600	94.0%
合計	4,155	2,704	65.1%

6. 調査結果の表示方法

- ・グラフに表示されている N 値は有効回答数です。
- ・集計結果の % 表示は、小数点以下第 2 位を四捨五入してありますので、内訳の合計がちょうど 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

- ・クロス集計表において、上位3つまでを網掛けにしています。(1位：■■■■、2位：■■■■、3位：■■■■)
- ・本報告書に掲載している家庭類型は、調査の客対数等を考慮し「ひとり親の家庭」「フルタイム共働きの家庭」「フルタイム・パートタイム共働き家庭」「専業主婦(夫)の家庭」「その他の家庭」の5類型としています。
- ・本報告書に掲載している家庭類型(潜在)は、「母親の就労希望」に関する項目(就学前児童：問9-1 小学生：問9-1)において、「有(すぐにでももしくは1年以内に希望がある)」「有(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」と答えた人の、希望する働き方(フルタイム・パートタイム)に基づき推計し、集計しています。

就学前児童・小学生の保護者の調査結果

1. 子どものいる家族の状況

子どもの年齢・学年については、1歳・1学年ごとに十分な標本数が得られました。

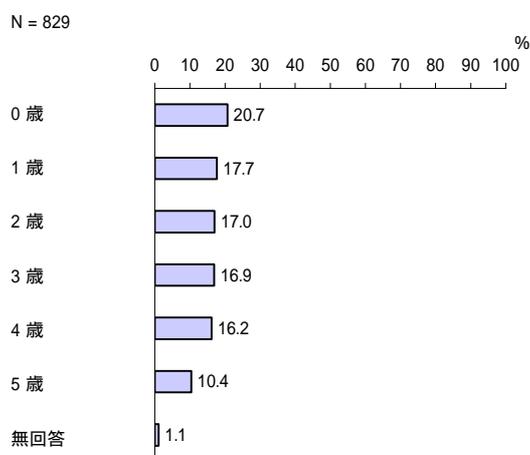
家族の同居・近居の状況については、小学生に比べ就学前児童において「祖父近居」「祖母近居」の割合が高くなっています。その一方で、日頃、子どもを預かってもらえる人の有無については、就学前児童に比べ小学生において「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」の割合が高くなっています。また、親族に預かってもらっている状況については、小学生に比べ就学前児童において、「祖父母の身体的負担が大きく心配である」など、何らかの負担を感じている割合が高くなっています。

(1) 子どもの年齢（就学前児童：問1 小学生：問1）

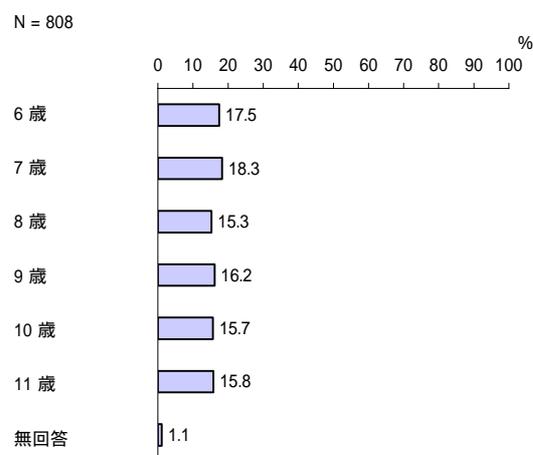
就学前児童では、「0歳」の割合が20.7%と最も高く、次いで「1歳」の割合が17.7%、「2歳」の割合が17.0%となっています。

小学生では、「7歳」の割合が18.3%と最も高く、次いで「6歳」の割合が17.5%、「9歳」の割合が16.2%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



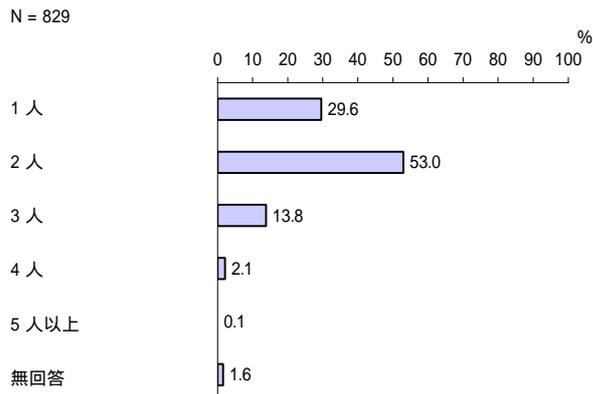
(2) 子どもの人数・末子の年齢 (就学前児童：問2 小学生：問2)

子どもの人数

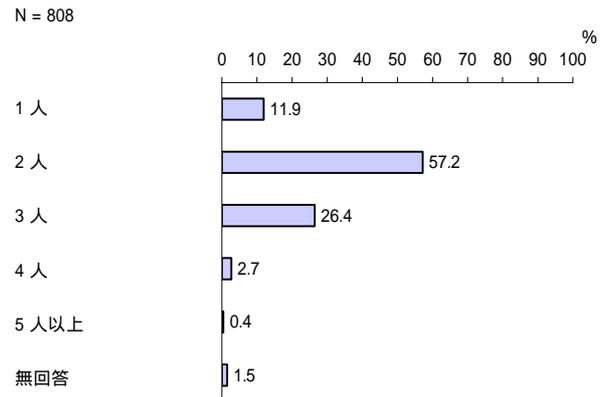
就学前児童では、「2人」の割合が53.0%と最も高く、次いで「1人」の割合が29.6%、「3人」の割合が13.8%となっています。

小学生では、「2人」の割合が57.2%と最も高く、次いで「3人」の割合が26.4%、「1人」の割合が11.9%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

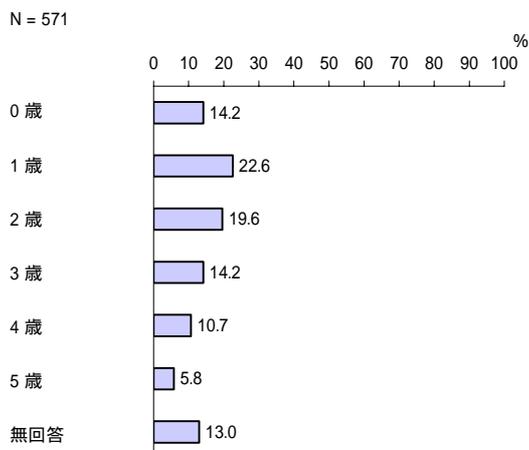


末子の年齢

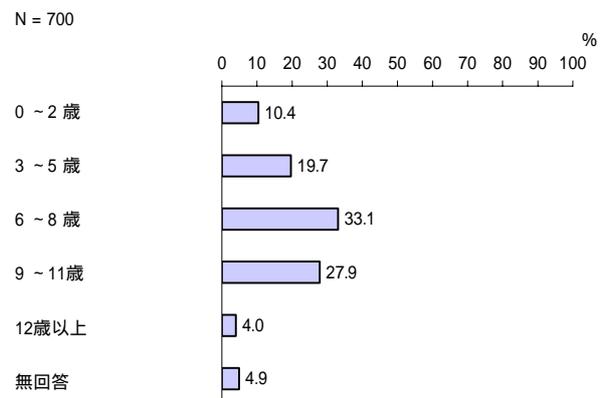
就学前児童では、「1歳」の割合が22.6%と最も高く、次いで「2歳」の割合が19.6%、「0歳」の割合が14.2%となっています。

小学生では、「6~8歳」の割合が33.1%と最も高く、次いで「9~11歳」の割合が27.9%、「3~5歳」の割合が19.7%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

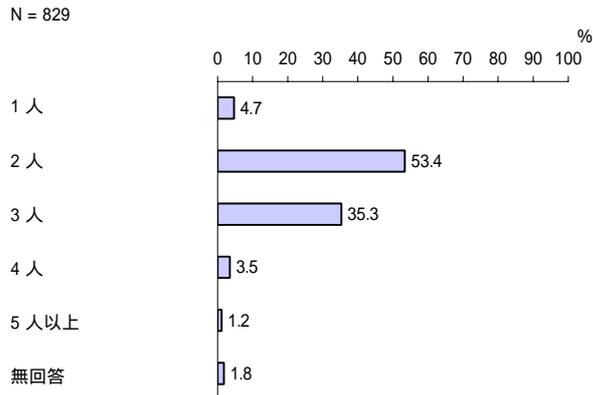


(3) 希望する子どもの人数 (就学前児童 : 問 3 小学生 : 問 3)

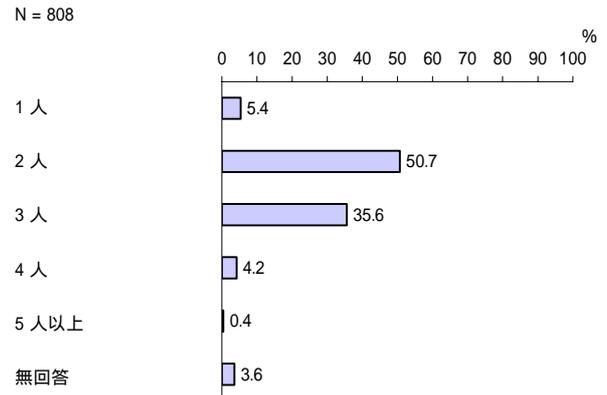
就学前児童では、「2人」の割合が53.4%と最も高く、次いで「3人」の割合が35.3%となっています。

小学生では、「2人」の割合が50.7%と最も高く、次いで「3人」の割合が35.6%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

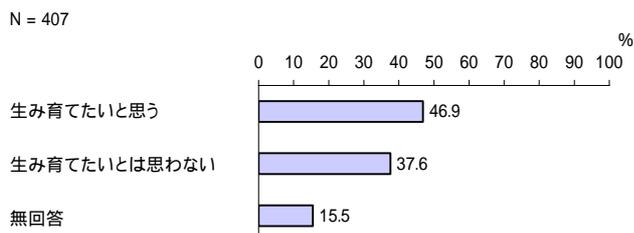


(4) 現在の家庭・教育環境をふまえ、もう一人生み育てたいか (就学前児童 : 問 4 小学生 : 問 4)

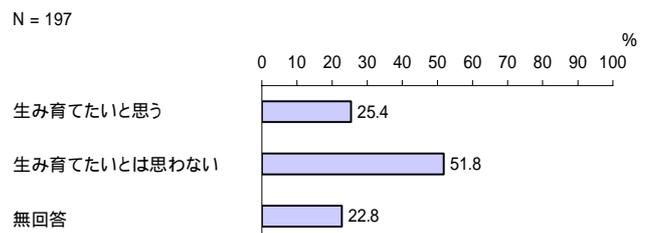
就学前児童では、「生み育てたいと思う」の割合が46.9%、「生み育てたいとは思わない」の割合が37.6%となっています。

小学生では、「生み育てたいとは思わない」の割合が51.8%、「生み育てたいと思う」の割合が25.4%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



(5) どのような環境が整えば、もう一人子どもを生ま育てられるか
 (就学前児童：問 4-1 小学生：問 4-1)

就学前児童では、「経済的な環境が整えば生ま育てたい」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「保育環境が整えば生ま育てたい」の割合が 18.3%となっています。

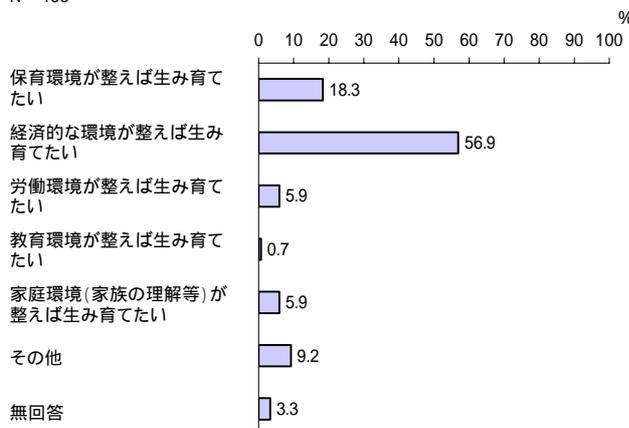
その他意見として、「1人目がまだ小さいので、子育てに余裕があれば考える」「高齢出産・育児になるので悩む」などがあります。

小学生では、「経済的な環境が整えば生ま育てたい」の割合が 54.9%と最も高くなっています。

その他意見として、「近所の親戚が子育てをサポートしてもらえるなら」「高年齢出産のリスクがなければ考える」などがあります。

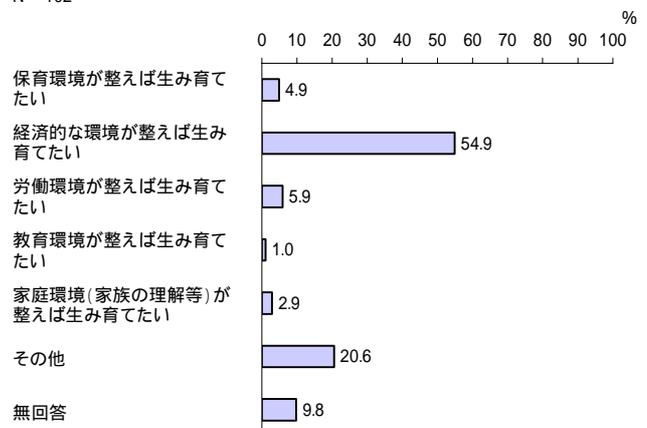
【就学前児童】

N = 153



【小学生】

N = 102

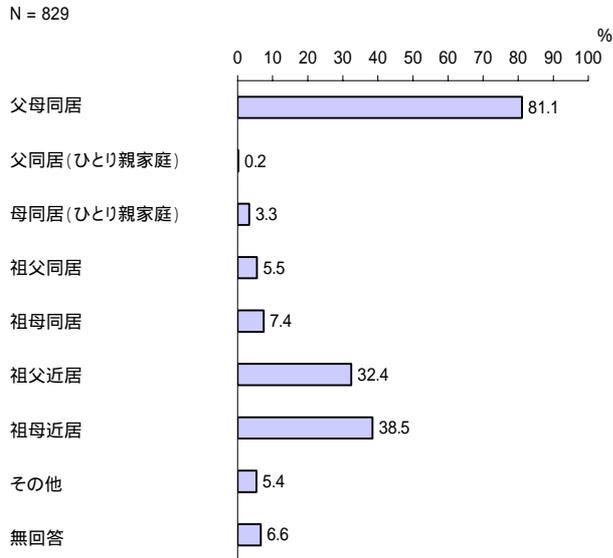


(6) 同居・近居の状況 (就学前児童：問5 小学生：問5)

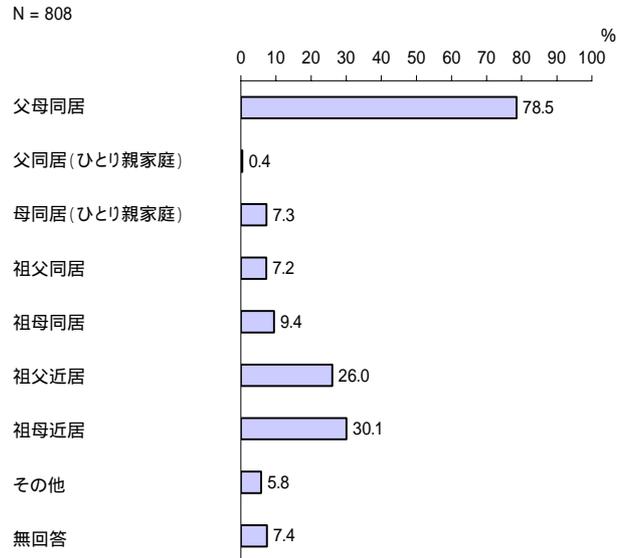
就学前児童では、「父母同居」の割合が81.1%と最も高く、次いで「祖母近居」の割合が38.5%、「祖父近居」の割合が32.4%となっています。

小学生では、「父母同居」の割合が78.5%と最も高く、次いで「祖母近居」の割合が30.1%、「祖父近居」の割合が26.0%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

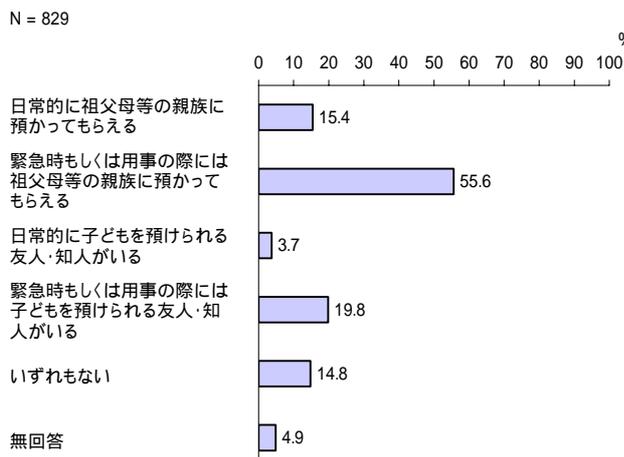


(7) 日頃、子どもを預かってもらえる人の有無 (就学前児童：問6 小学生：問6)

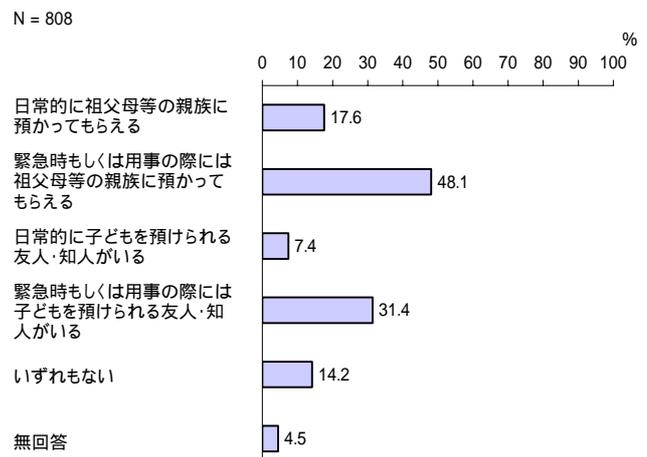
就学前児童では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」の割合が55.6%と最も高く、次いで「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」の割合が19.8%、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」の割合が15.4%となっています。

小学生では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」の割合が48.1%と最も高く、次いで「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」の割合が31.4%、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」の割合が17.6%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



	有効回答数(件)	日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる	日常的に子どもを預けられる友人知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人知人がいる	いずれもない	無回答
就学前児童	829	15.4	55.6	3.7	19.8	14.8	4.9
ひとり親の家庭	29	34.5	58.6	-	3.4	3.4	3.4
フルタイム共働きの家庭	142	12.7	55.6	0.7	11.3	19.7	4.9
フルタイム・パートタイム共働きの家庭	117	17.1	58.1	5.1	22.2	7.7	5.1
専業主婦(夫)の家庭	502	15.5	56.0	4.6	22.3	15.3	4.2
その他の家庭	39	5.1	41.0	2.6	23.1	20.5	15.4
小学生	808	17.6	48.1	7.4	31.4	14.2	4.5
ひとり親の家庭	62	37.1	38.7	1.6	27.4	12.9	3.2
フルタイム共働きの家庭	117	23.9	46.2	9.4	16.2	16.2	5.1
フルタイム・パートタイム共働きの家庭	259	16.6	54.1	7.3	33.6	11.2	4.6
専業主婦(夫)の家庭	340	12.6	48.2	8.5	36.5	15.0	2.9
その他の家庭	30	16.7	23.3	-	23.3	26.7	20.0

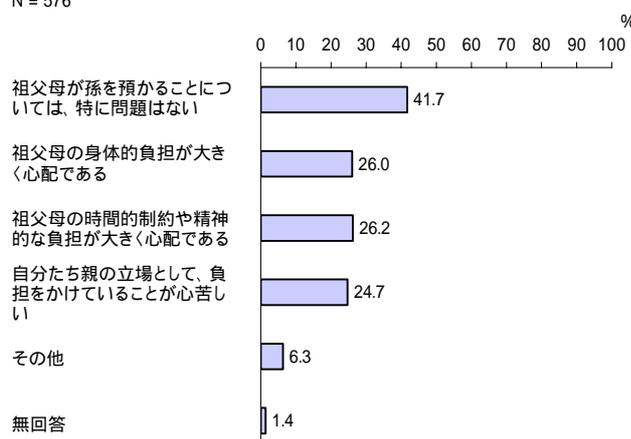
(8) 親族に預かってもらっている状況(就学前児童：問6-1 小学生：問6-1)

就学前児童では、「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」の割合が41.7%と最も高く、次いで「祖父母の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」の割合が26.2%、「祖父母の身体的負担が大きく心配である」の割合が26.0%となっています。

小学生では、「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」の割合が53.7%と最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」の割合が20.2%、「祖父母の身体的負担が大きく心配である」の割合が18.6%となっています。

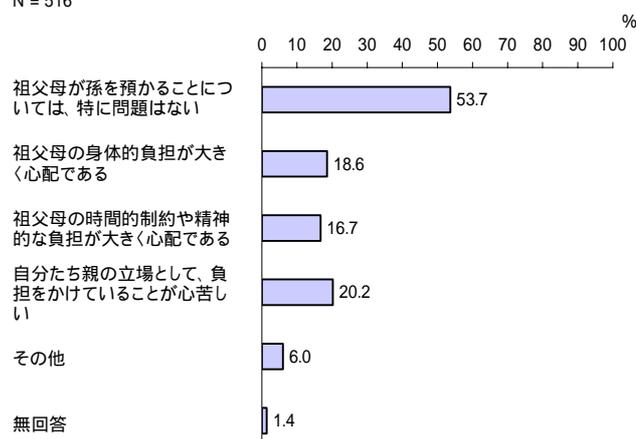
【就学前児童】

N = 576



【小学生】

N = 516



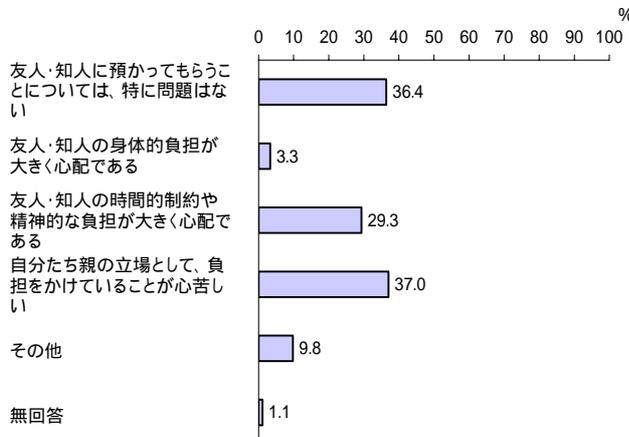
(9) 友人や知人に預かってもらっている状況 (就学前児童：問6-2 小学生：問6-2)

就学前児童では、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」の割合が37.0%と最も高く、次いで「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」の割合が36.4%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」の割合が29.3%となっています。

小学生では、「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」の割合が39.3%と最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」の割合が35.3%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」の割合が23.4%となっています。

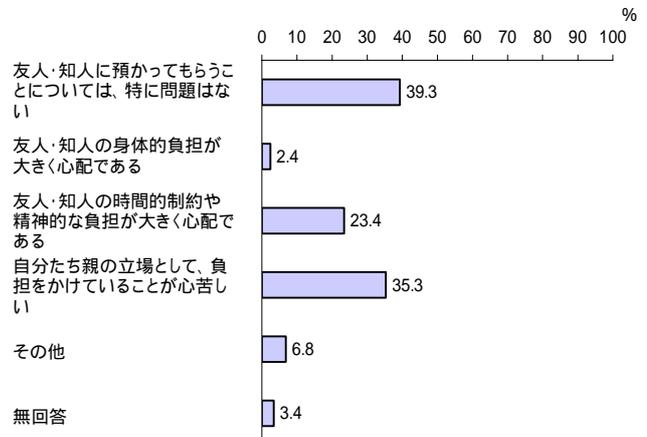
【就学前児童】

N = 184



【小学生】

N = 295

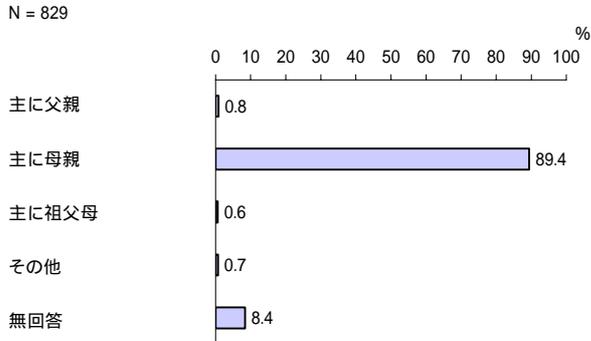


(10) 身の回りの世話を主にする人 (就学前児童：問7 小学生：問7)

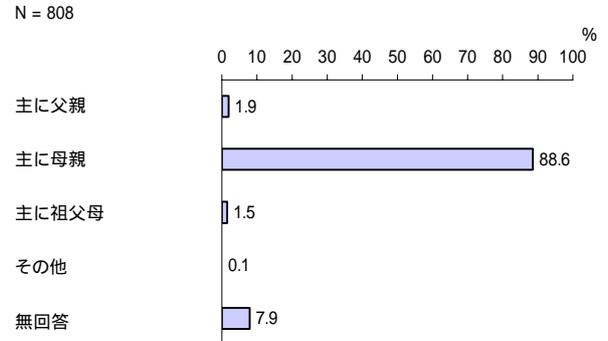
就学前児童では、「主に母親」の割合が89.4%と最も高くなっています。

小学生では、「主に母親」の割合が88.6%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】



(11) 居住小学校区 (就学前児童：問8 小学生：問8)

【就学前児童】

単位：%

有効回答数 (件)	茨木	春日	春日丘	三島	中条	玉櫛	安威	玉島	福井	清溪	忍頂寺	大池	豊川	中津	東	水尾	郡山
829	2.8	5.8	3.0	2.4	5.9	3.5	1.3	3.4	1.4	-	0.1	4.2	1.1	4.1	3.1	2.8	0.6
	太田	天王	葦原	郡	庄栄	沢池	畑田	山手台	耳原	穂積	白川	東奈良	西	西河原	彩都西	無回答	
	4.6	6.3	3.6	2.1	2.7	3.3	0.7	1.3	3.4	1.7	2.2	2.9	1.8	1.0	4.6	12.4	

【小学生】

単位：%

有効回答数 (件)	茨木	春日	春日丘	三島	中条	玉櫛	安威	玉島	福井	清溪	忍頂寺	大池	豊川	中津	東	水尾	郡山
808	4.0	4.1	2.4	3.5	5.3	4.3	1.0	2.5	1.6	-	0.7	4.1	0.5	3.2	5.4	4.2	0.6
	太田	天王	葦原	郡	庄栄	沢池	畑田	山手台	耳原	穂積	白川	東奈良	西	西河原	彩都西	無回答	
	5.0	5.9	3.8	3.0	2.8	4.2	1.0	2.2	2.1	1.9	3.0	1.7	1.6	1.4	4.5	8.5	

2. 保護者の就労状況

母親の就労状況をみると、就学前児童では約6割、小学生では約4割強が現在未就労の状況です。また、今後の就労意向については、就学前児童では8割強、小学生では7割強が今後の就労希望をもっています。しかし、就労希望がありながら現在働いていない理由については、就学前児童、小学生ともに、「働きながら子育てができる適当な仕事がない」の割合が最も高くなっており、短時間労働やフレックス制など子育てしながら働きやすい就労の場の確保が困難であることがうかがえます。

(1) 父親の就労状況 (就学前児童：問9(2) 小学生：問9(2))

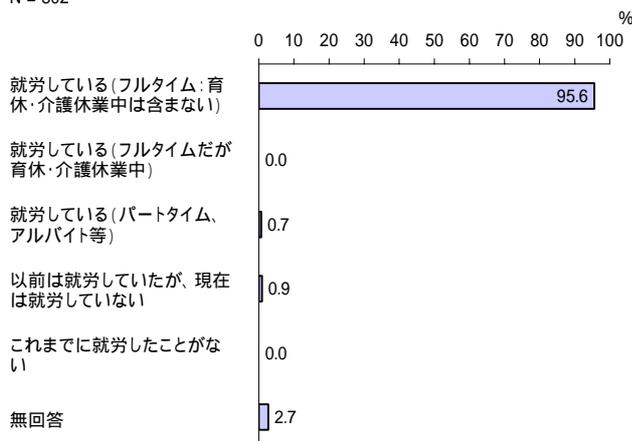
父親の就労状況

就学前児童では、「就労している(フルタイム：育休・介護休業中は含まない)」の割合が95.6%と最も高くなっています。

小学生では、「就労している(フルタイム：育休・介護休業中は含まない)」の割合が95.3%と最も高くなっています。

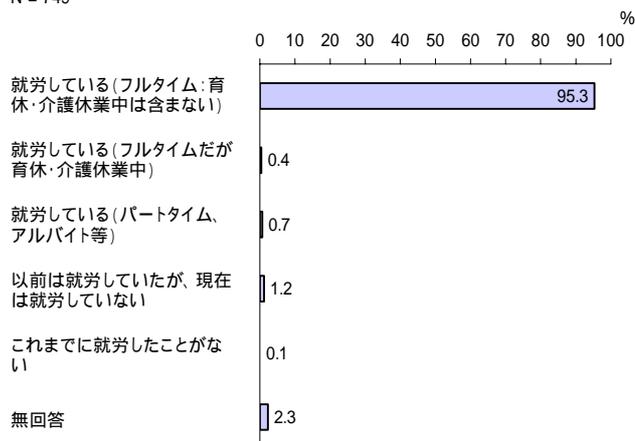
【就学前児童】

N = 802



【小学生】

N = 749



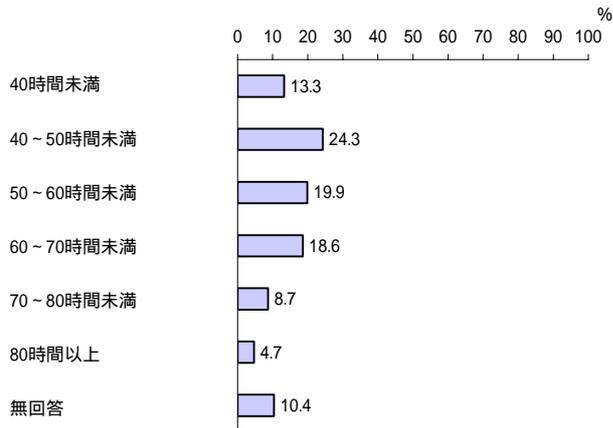
フルタイムで就労している父親の1週間の平均的な就労時間

就学前児童では、「40～50時間未満」の割合が24.3%と最も高く、次いで「50～60時間未満」の割合が19.9%、「60～70時間未満」の割合が18.6%となっています。

小学生では、「40～50時間未満」の割合が27.2%と最も高く、次いで「50～60時間未満」の割合が22.0%、「60～70時間未満」の割合が16.7%となっています。

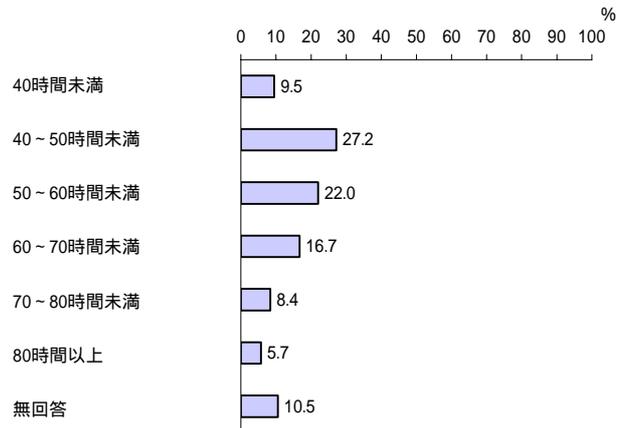
【就学前児童】

N = 767



【小学生】

N = 714



フルタイムで就労している父親の勤務時間帯

出発時間については、就学前児童では、「7時～8時前」の割合が40.2%と最も高く、次いで「8時～9時前」の割合が33.2%、「7時より前」の割合が13.8%となっています。

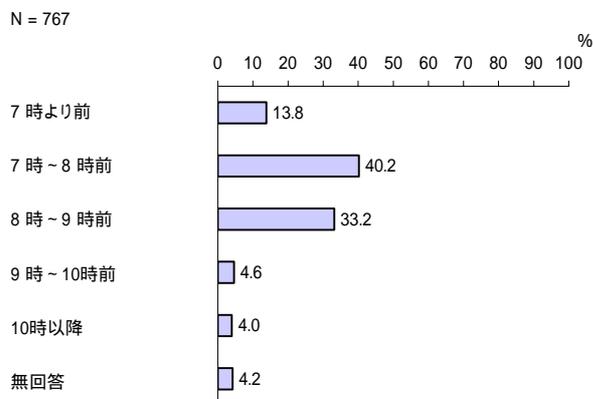
小学生では、「7時～8時前」の割合が42.7%と最も高く、次いで「8時～9時前」の割合が30.4%、「7時より前」の割合が14.8%となっています。

帰宅時間については、就学前児童では、「18時より前」の割合が25.7%と最も高く、次いで「20時～21時前」の割合が15.5%、「21時～22時前」の割合が15.1%となっています。

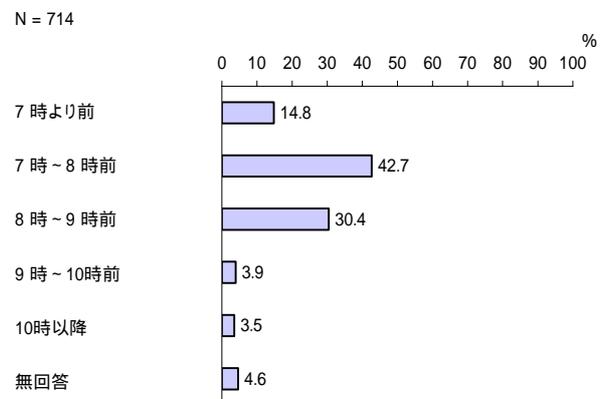
小学生では、「18時より前」の割合が31.7%と最も高く、次いで「21時～22時前」の割合が16.4%、「20時～21時前」の割合が12.2%となっています。

< 出発時間 >

【就学前児童】

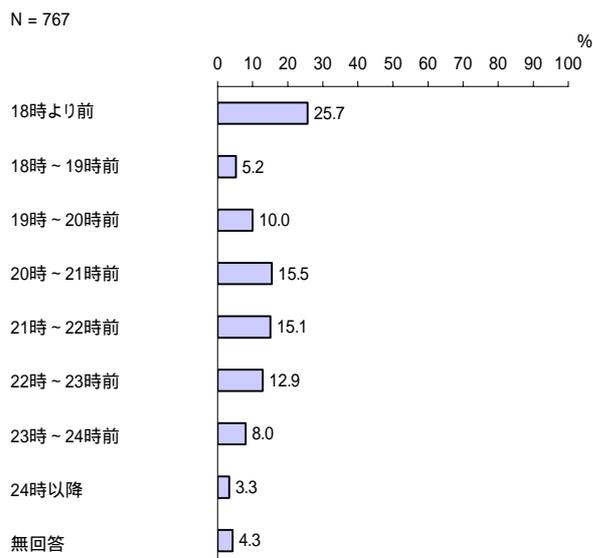


【小学生】

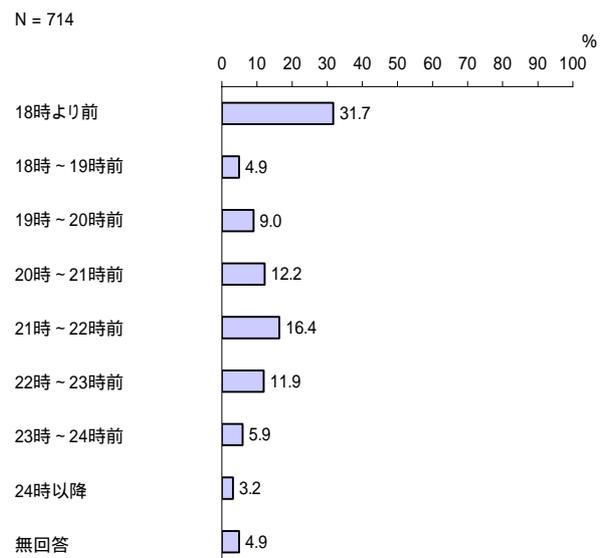


< 帰宅時間 >

【就学前児童】



【小学生】



フルタイムで就労している父親の土曜日・日曜日、祝日の勤務の有無

土曜日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」の割合が61.3%、「ない」の割合が34.8%となっています。

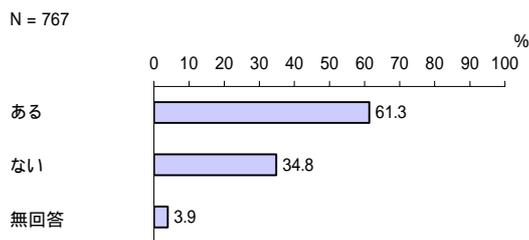
小学生では、「ある」の割合が59.1%、「ない」の割合が36.0%となっています。

日曜日、祝日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」の割合が40.8%、「ない」の割合が53.7%となっています。

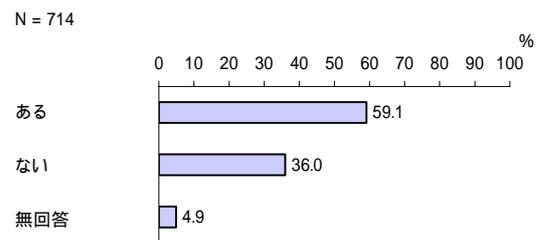
小学生では、「ある」の割合が42.2%、「ない」の割合が51.3%となっています。

<土曜日>

【就学前児童】

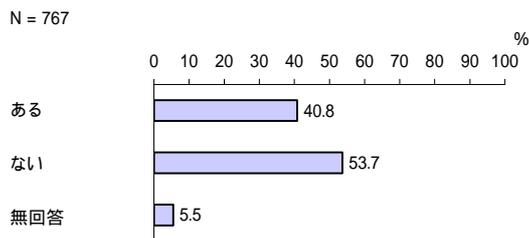


【小学生】

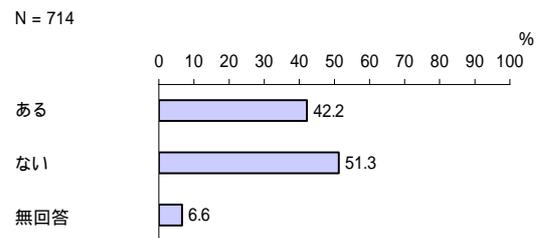


<日曜日、祝日>

【就学前児童】



【小学生】



パートタイム、アルバイト等で就労している父親の1週間の平均的な就労時間

就学前児童では、「30時間以上」が5件となっています。

小学生では、「30時間以上」が3件、「15～20時間未満」が1件となっています。

パートタイム、アルバイト等で就労している父親の勤務時間帯

出発時間については、就学前児童では、「9時～10時前」が3件、「10時以降」が2件、「8時～9時前」が1件となっています。

小学生では、「7時～8時前」が2件、「8時～9時前」「10時以降」がともに1件となっています。

帰宅時間については、就学前児童では、「19時以降」が5件、「15時より前」が1件となっています。

小学生では、「19時以降」が2件、「15時より前」「17時～18時前」がともに1件となっています。

パートタイム、アルバイト等で就労している父親の土曜日・日曜日、祝日の勤務の有無

土曜日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」が5件となっています。

小学生では、「ある」が3件、「ない」が1件となっています。

日曜日、祝日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」が5件となっています。

小学生では、「ある」が3件、「ない」が1件となっています。

パートタイム、アルバイト等で就労している父親のフルタイムへの就労希望

就学前児童では、「希望がある」が4件、「希望があるが予定はない」「希望はない」がともに1件となっています。

小学生では、「希望がある」が3件、「希望はない」が1件となっています。

(2) 母親の就労状況 (就学前児童：問9(1) 小学生：問9(1))

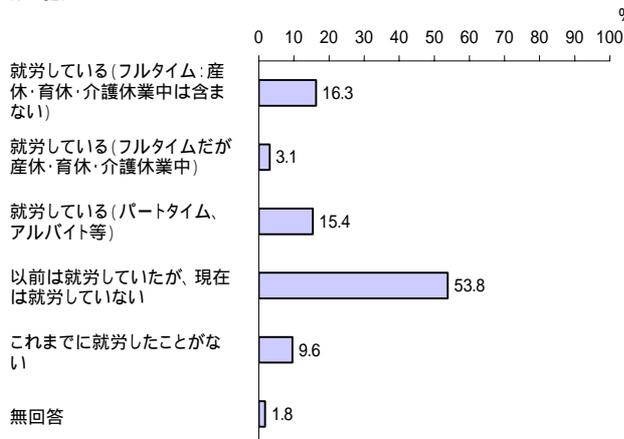
母親の就労状況

就学前児童では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が53.8%と最も高く、次いで「就労している(フルタイム：産休・育休・介護休業中は含まない)」の割合が16.3%、「就労している(パートタイム、アルバイト等)」の割合が15.4%となっています。

小学生では、「就労している(パートタイム、アルバイト等)」の割合が35.9%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が30.7%、「就労している(フルタイム：産休・育休・介護休業中は含まない)」の割合が18.5%となっています。

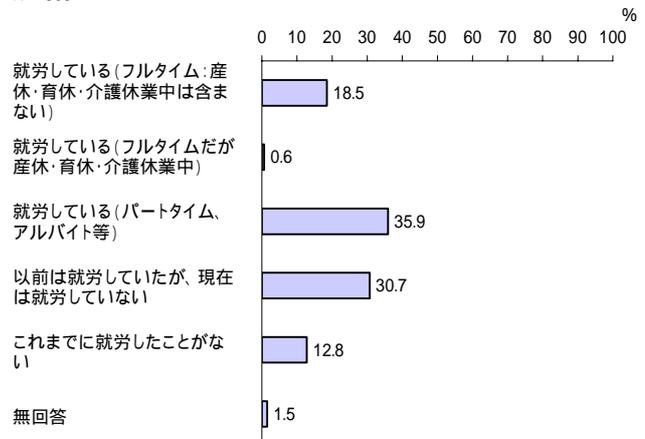
【就学前児童】

N = 827



【小学生】

N = 805



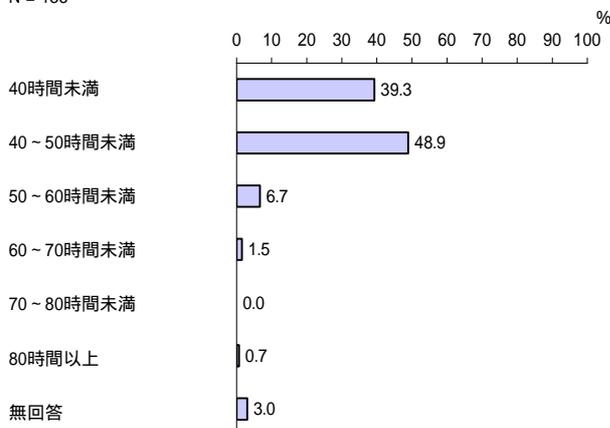
フルタイムで就労している母親の1週間の平均的な就労時間

就学前児童では、「40～50時間未満」の割合が48.9%と最も高く、次いで「40時間未満」の割合が39.3%となっています。

小学生では、「40～50時間未満」の割合が54.4%と最も高く、次いで「40時間未満」の割合が32.2%となっています。

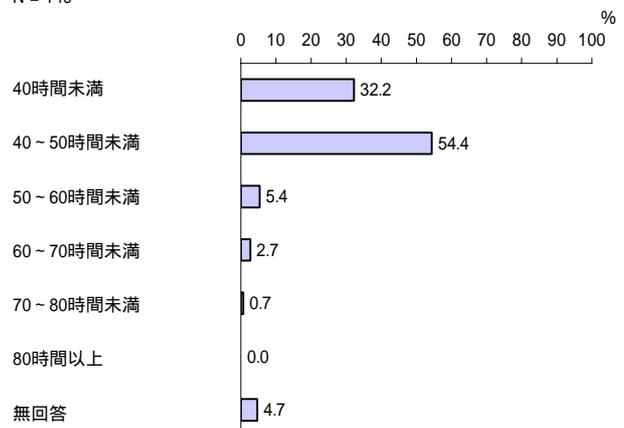
【就学前児童】

N = 135



【小学生】

N = 149



フルタイムで就労している母親の勤務時間帯

出発時間については、就学前児童では、「8時～9時前」の割合が53.3%と最も高く、次いで「7時～8時前」の割合が33.3%となっています。

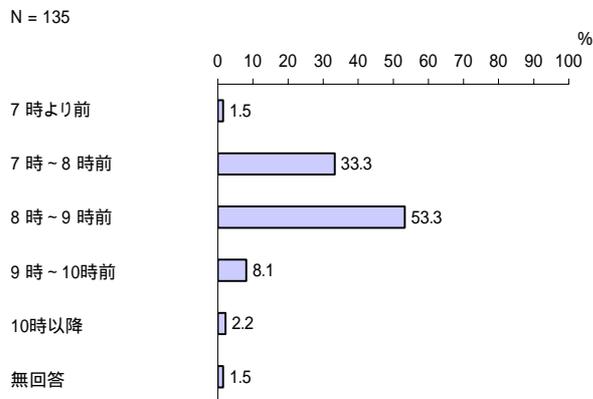
小学生では、「8時～9時前」の割合が53.7%と最も高く、次いで「7時～8時前」の割合が24.8%、「9時～10時前」の割合が11.4%となっています。

帰宅時間については、就学前児童では、「18時～19時前」の割合が40.7%と最も高く、次いで「18時より前」「19時～20時前」の割合がともに27.4%となっています。

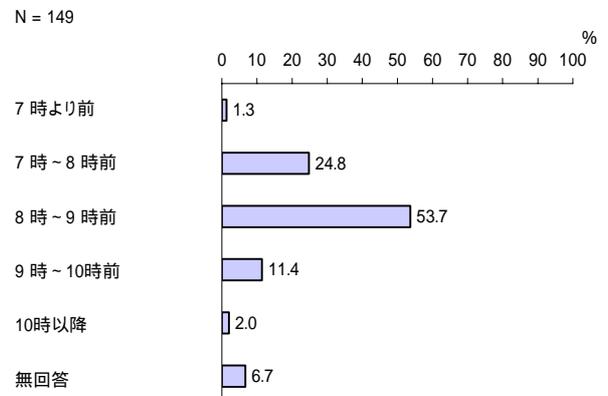
小学生では、「18時～19時前」の割合が34.2%と最も高く、次いで「18時より前」の割合が30.2%、「19時～20時前」の割合が19.5%となっています。

< 出発時間 >

【就学前児童】

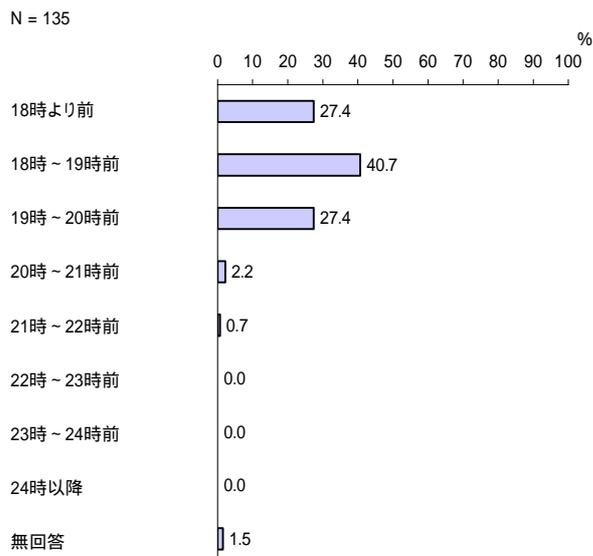


【小学生】

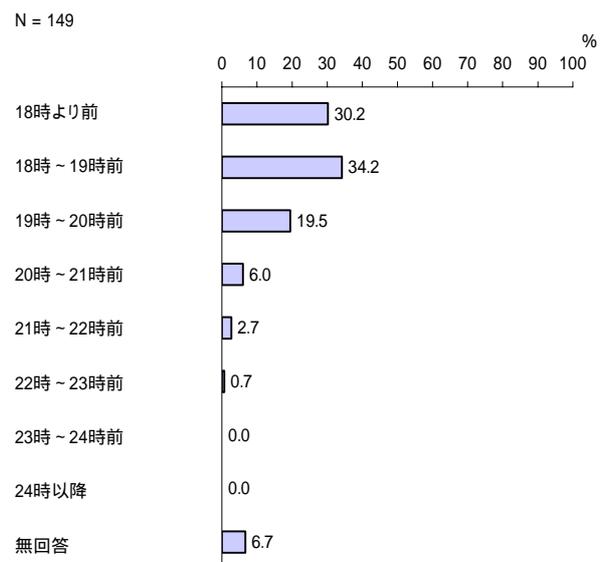


< 帰宅時間 >

【就学前児童】



【小学生】



フルタイムで就労している母親の土曜日・日曜日、祝日の勤務の有無

土曜日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」の割合が51.9%、「ない」の割合が47.4%となっています。

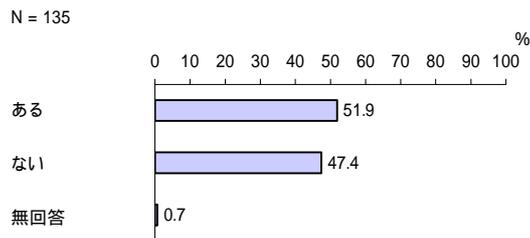
小学生では、「ある」の割合が51.0%、「ない」の割合が45.6%となっています。

日曜日、祝日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」の割合が29.6%、「ない」の割合が67.4%となっています。

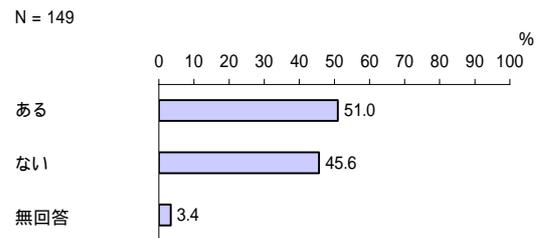
小学生では、「ある」の割合が26.2%、「ない」の割合が68.5%となっています。

<土曜日>

【就学前児童】

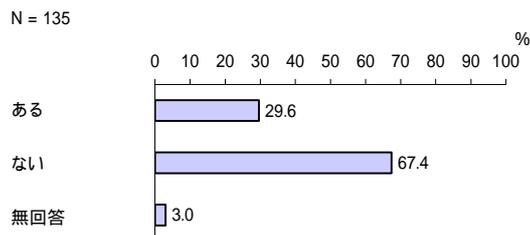


【小学生】

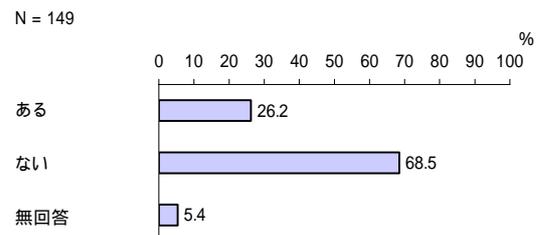


<日曜日、祝日>

【就学前児童】



【小学生】

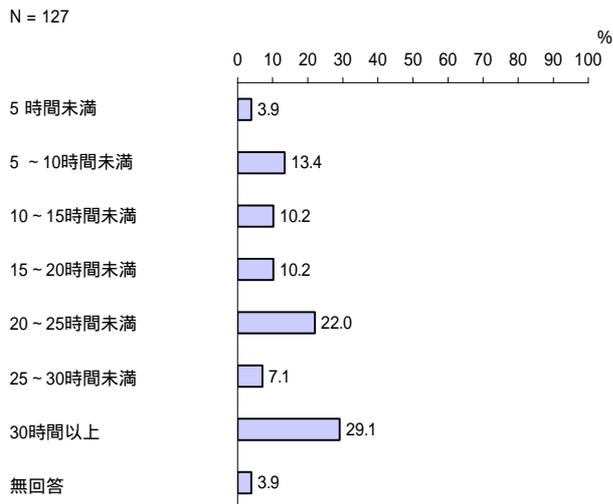


パートタイム、アルバイト等で就労している母親の1週間の就労時間

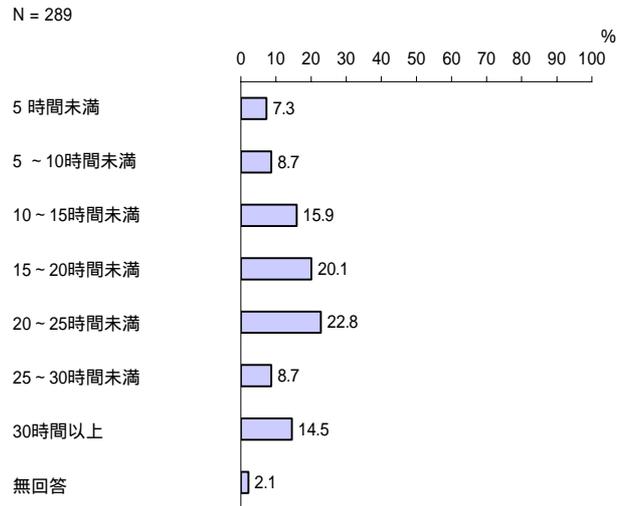
就学前児童では、「30時間以上」の割合が29.1%と最も高く、次いで「20～25時間未満」の割合が22.0%、「5～10時間未満」の割合が13.4%となっています。

小学生では、「20～25時間未満」の割合が22.8%と最も高く、次いで「15～20時間未満」の割合が20.1%、「10～15時間未満」の割合が15.9%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



パートタイム、アルバイト等で就労している母親の勤務時間帯

出発時間については、就学前児童では、「8時～9時前」の割合が41.7%と最も高く、次いで「9時～10時前」の割合が23.6%、「10時以降」の割合が12.6%となっています。

小学生では、「8時～9時前」の割合が34.3%と最も高く、次いで「9時～10時前」の割合が32.5%、「10時以降」の割合が16.6%となっています。

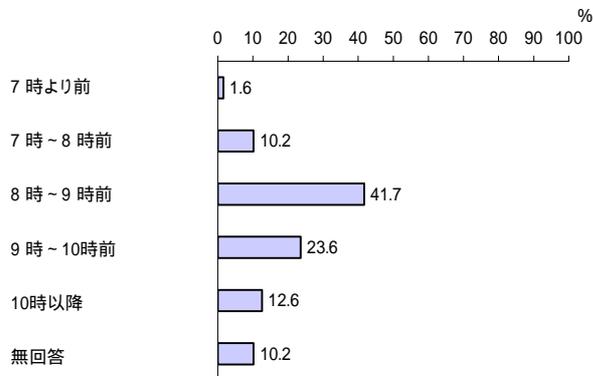
帰宅時間については、就学前児童では、「15時より前」の割合が29.1%と最も高く、次いで「17時～18時前」の割合が21.3%、「18時～19時前」の割合が18.9%となっています。

小学生では、「15時より前」の割合が50.5%と最も高く、次いで「17時～18時前」の割合が11.8%、「15時～16時前」の割合が10.7%となっています。

< 出発時間 >

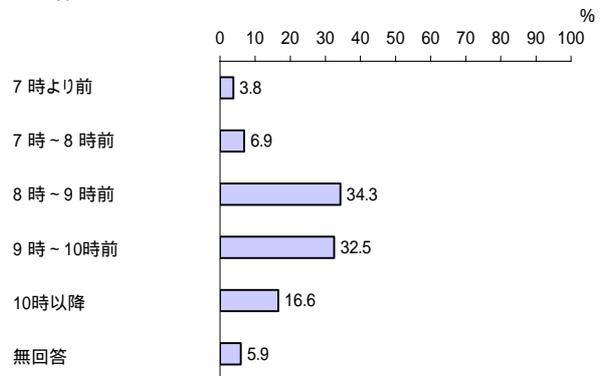
【就学前児童】

N = 127



【小学生】

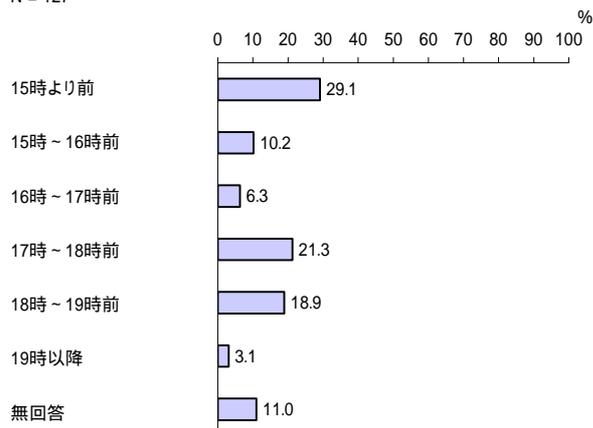
N = 289



< 帰宅時間 >

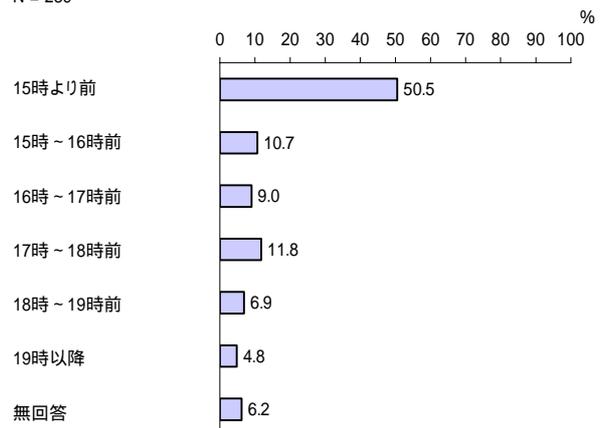
【就学前児童】

N = 127



【小学生】

N = 289



パートタイム、アルバイト等で就労している母親の土曜日・日曜日、祝日の勤務の有無

土曜日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」の割合が42.5%、「ない」の割合が51.2%となっています。

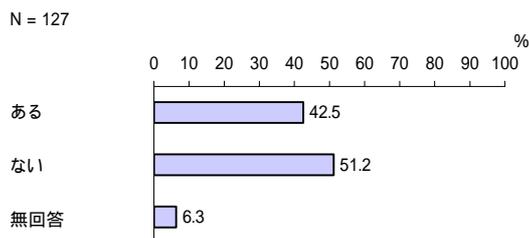
小学生では、「ある」の割合が43.6%、「ない」の割合が51.6%となっています。

日曜日、祝日の勤務の有無については、就学前児童では、「ある」の割合が21.3%、「ない」の割合が73.2%となっています。

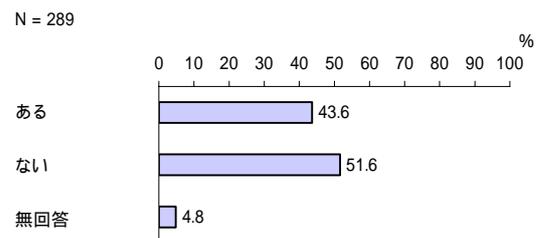
小学生では、「ある」の割合が26.3%、「ない」の割合が68.9%となっています。

<土曜日>

【就学前児童】

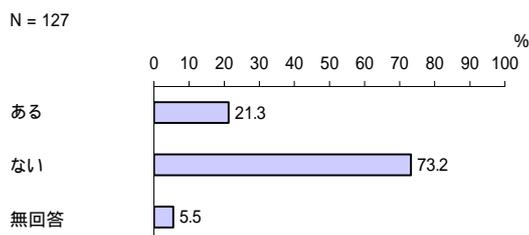


【小学生】

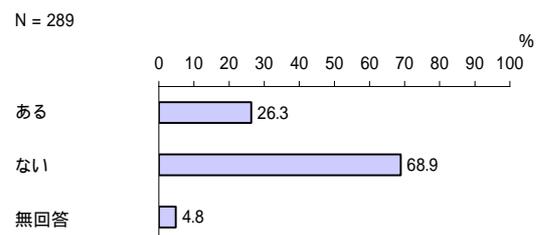


<日曜日、祝日>

【就学前児童】



【小学生】

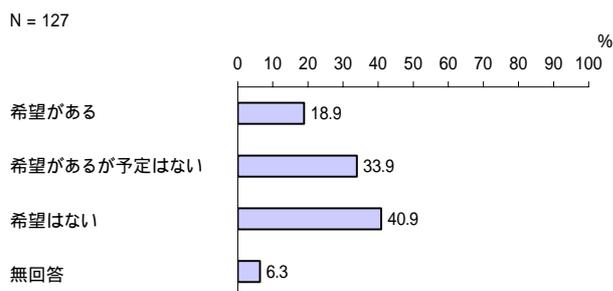


パートタイム、アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの就労希望

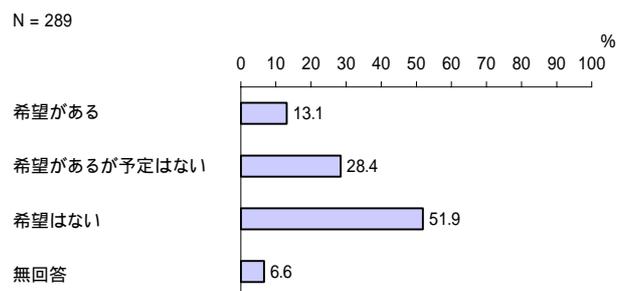
就学前児童では、「希望はない」の割合が40.9%と最も高く、次いで「希望があるが予定はない」の割合が33.9%、「希望がある」の割合が18.9%となっています。

小学生では、「希望はない」の割合が51.9%と最も高く、次いで「希望があるが予定はない」の割合が28.4%、「希望がある」の割合が13.1%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



(3) 母親の今後の就労意向 (就学前児童：問9-1、問9-4 小学生：問9-1、問9-4)

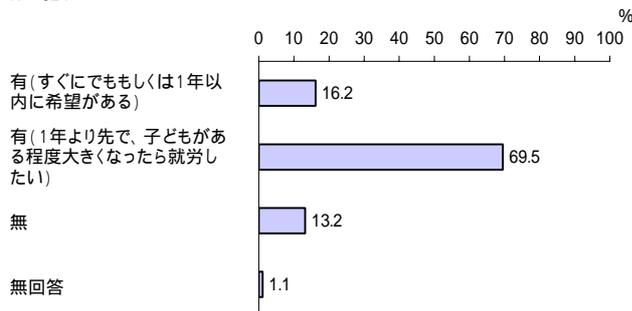
母親の今後の就労意向

就学前児童では、「有(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」の割合が69.5%と最も高く、次いで「有(すぐにでももしくは1年以内に希望がある)」の割合が16.2%、「無」の割合が13.2%となっています。

小学生では、「有(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」の割合が48.3%と最も高く、次いで「有(すぐにでももしくは1年以内に希望がある)」の割合が30.0%、「無」の割合が18.6%となっています。

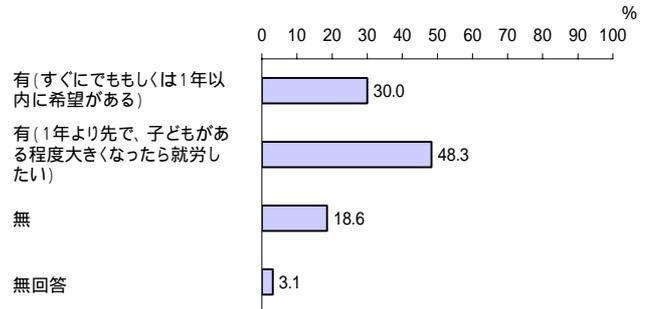
【就学前児童】

N = 524



【小学生】

N = 350



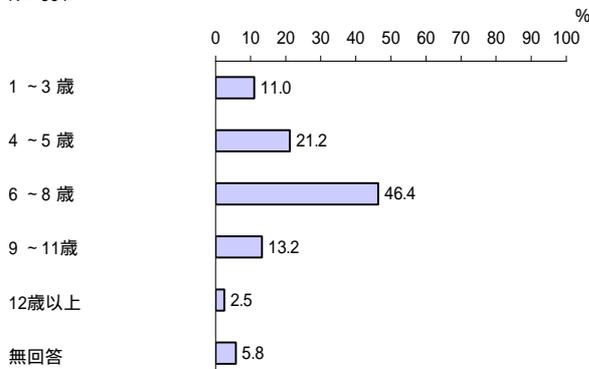
就労したいときの1番小さい子どもの年齢

就学前児童では、「6~8歳」の割合が46.4%と最も高く、次いで「4~5歳」の割合が21.2%、「9~11歳」の割合が13.2%となっています。

小学生では、「6~8歳」の割合が34.3%と最も高く、次いで「9~11歳」の割合が29.6%、「12歳以上」の割合が18.3%となっています。

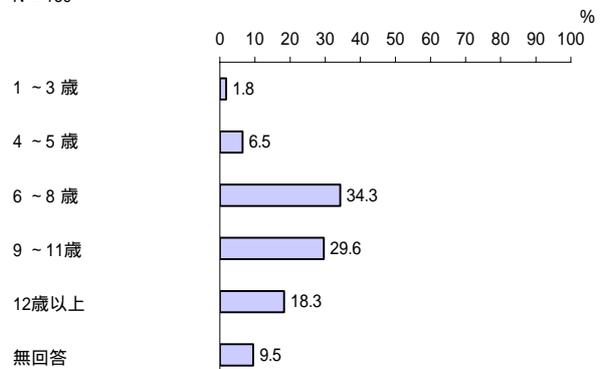
【就学前児童】

N = 364



【小学生】

N = 169



(4) 希望する就労の形態 (就学前児童 : 問 9-2 小学生 : 問 9-2)

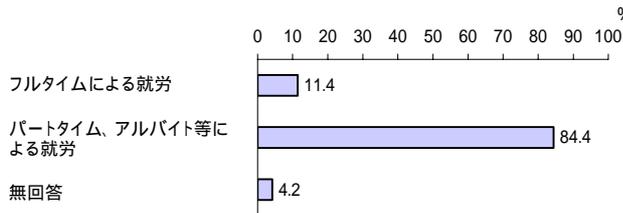
希望する就労の形態

就学前児童では、「フルタイムによる就労」の割合が 11.4%、「パートタイム、アルバイト等による就労」の割合が 84.4%となっています。

小学生では、「フルタイムによる就労」の割合が 5.5%、「パートタイム、アルバイト等による就労」の割合が 93.1%となっています。

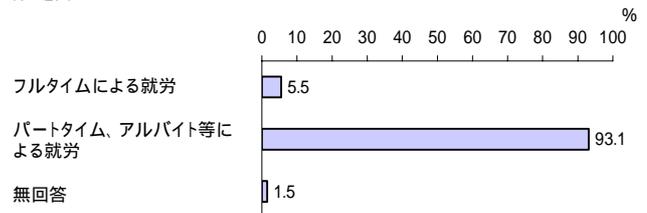
【就学前児童】

N = 449



【小学生】

N = 274



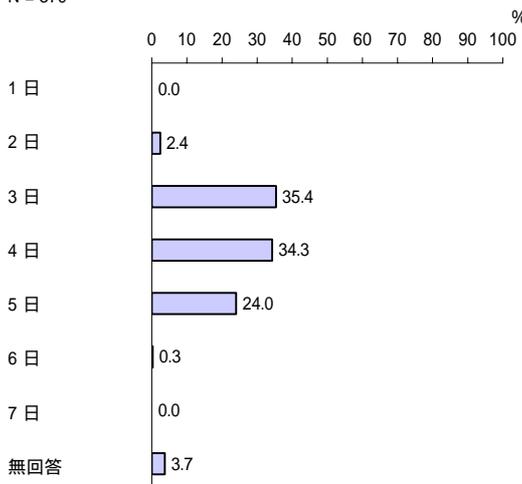
1 週間の就労希望日数

就学前児童では、「3日」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「4日」の割合が 34.3%、「5日」の割合が 24.0%となっています。

小学生では、「3日」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「4日」の割合が 30.6%、「5日」の割合が 19.6%となっています。

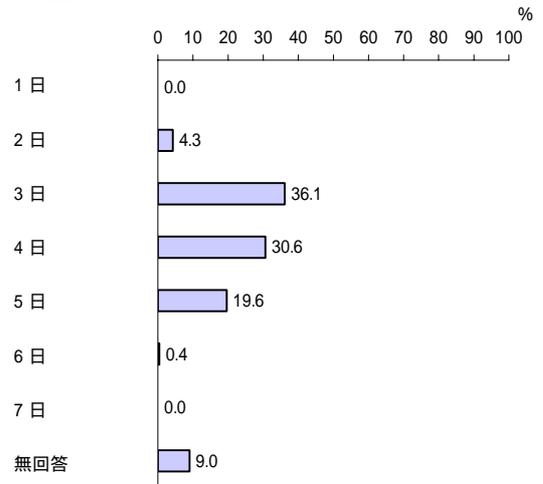
【就学前児童】

N = 379



【小学生】

N = 255



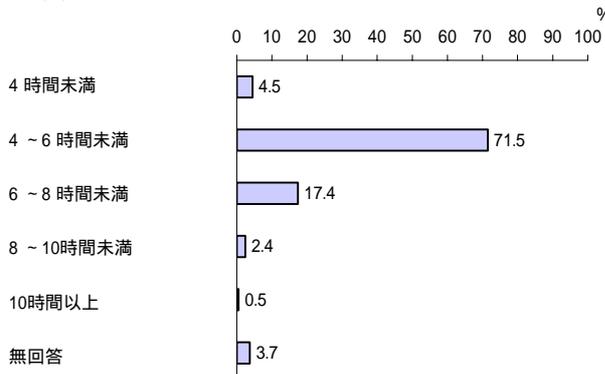
1日の就労希望時間

就学前児童では、「4～6時間未満」の割合が71.5%と最も高く、次いで「6～8時間未満」の割合が17.4%となっています。

小学生では、「4～6時間未満」の割合が74.5%と最も高く、次いで「6～8時間未満」の割合が12.2%となっています。

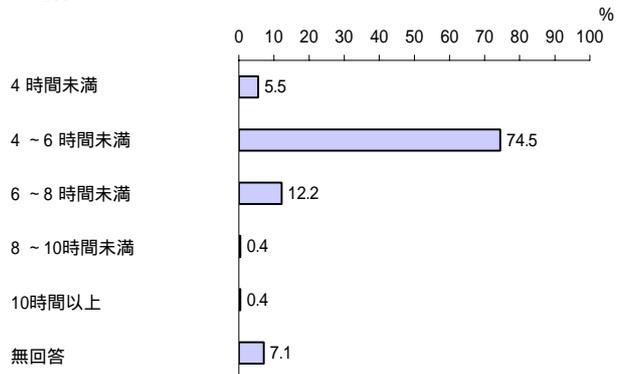
【就学前児童】

N = 379



【小学生】

N = 255



(5) 就労希望がありながら、現在働いていない理由 (就学前児童：問9-3 小学生：問9-3)

就学前児童では、「その他」を除くと、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」の割合が37.0%と最も高く、次いで「利用できる保育サービスがない」の割合が10.5%となっています。

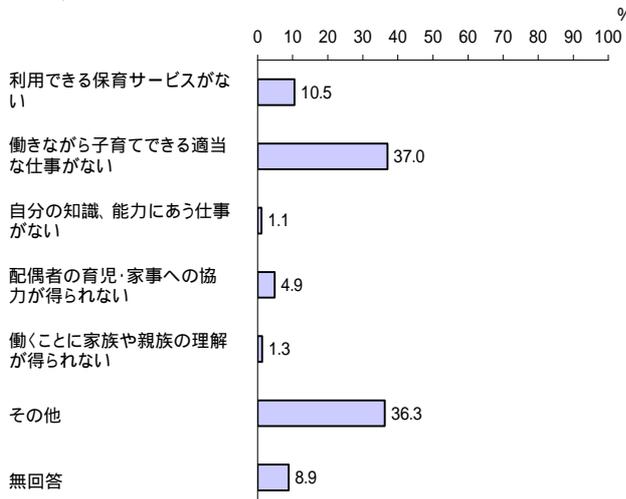
その他意見として、「まだ子どもが小さいから」「希望する時間帯の仕事がない」「保育料が高いので、預けられない」などがあります。

小学生では、「その他」を除くと、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」の割合が49.3%と最も高くなっています。

その他意見として、「長期の休みのときに困る」「夏休み等長期休暇に休める仕事が見つからない」などがあります。

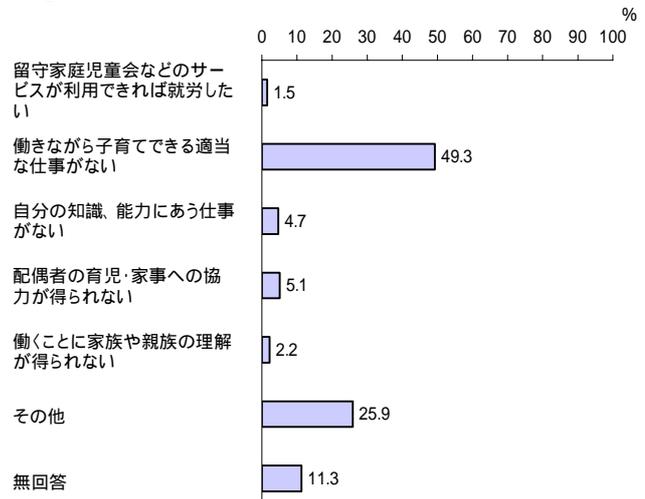
【就学前児童】

N = 449



【小学生】

N = 274

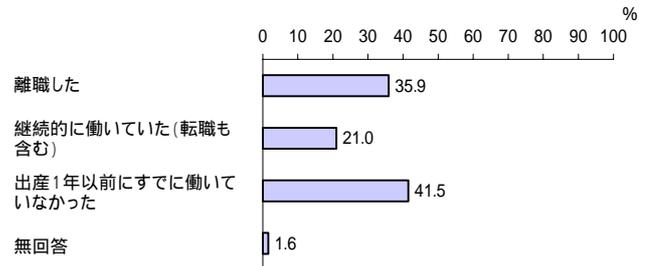


(6) 出産前後の就労状況 (就学前児童 : 問 10)

就学前児童では、「出産1年以前にすでに働いていなかった」の割合が41.5%と最も高く、次いで「離職した」の割合が35.9%、「継続的に働いていた(転職も含む)」の割合が21.0%となっています。

【就学前児童】

N = 829

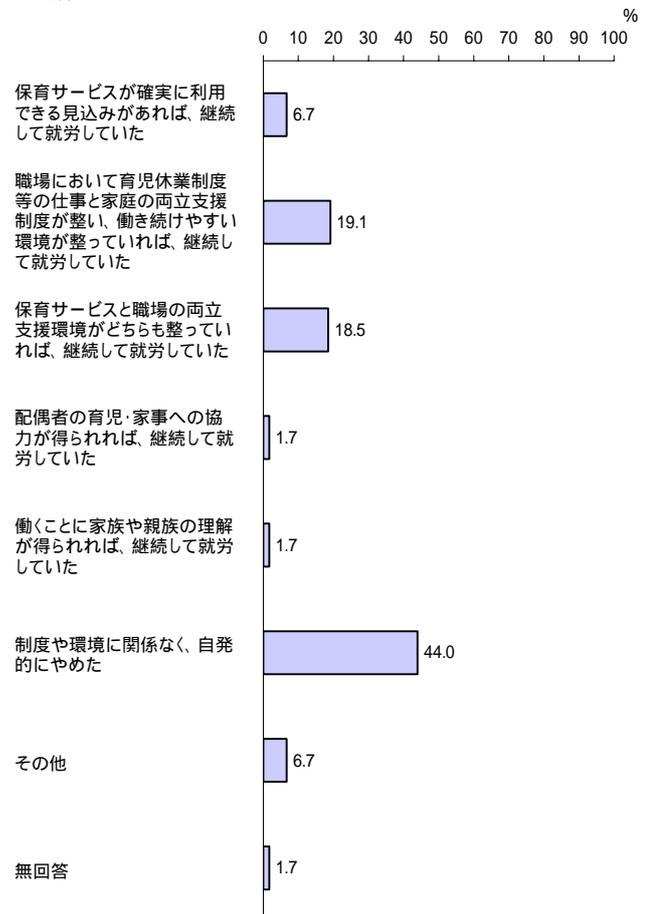


(7) 仕事と家庭の両立を支援する環境整備と就労の継続 (就学前児童 : 問 10-1)

就学前児童では、「制度や環境に関係なく、自発的にやめた」の割合が44.0%と最も高く、次いで「職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた」の割合が19.1%、「保育サービスと職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、継続して就労していた」の割合が18.5%となっています。

【就学前児童】

N = 298



3. 保育サービスの利用状況・利用意向

現在利用している保育サービスの種類をみると、「認可保育所(園)」が5割強、「幼稚園」が3割強となっています。今後の保育サービスの利用意向から、病児・病後児保育、延長保育、幼稚園の預かり保育、一時預かりについては、潜在的なニーズがあり、多様な保育サービスの提供が求められています。

保育サービスを利用していない理由から、“ひとり親の家庭”、“フルタイム共働きの家庭”における「預けたいが、保育サービスに空きがない」の割合が半数近く占めていることは着目すべきところです。また、“フルタイム・パートタイム共働きの家庭”で「子どもの祖父母や親戚の人がみている」の割合が4割となっており、今後、働き方をパートタイムからフルタイムに移行した時の潜在的なニーズがあることがうかがえます。

また、土日・祝日の保育サービスの利用希望については、全体では2割強にとどまっているものの、家庭類型別をみると、“ひとり親の家庭”、“フルタイム共働きの家庭”の半数以上の家庭が、月に1日以上は保育サービスを希望していることがうかがえます。

(1) 保育サービスの利用状況(就学前児童：問11)

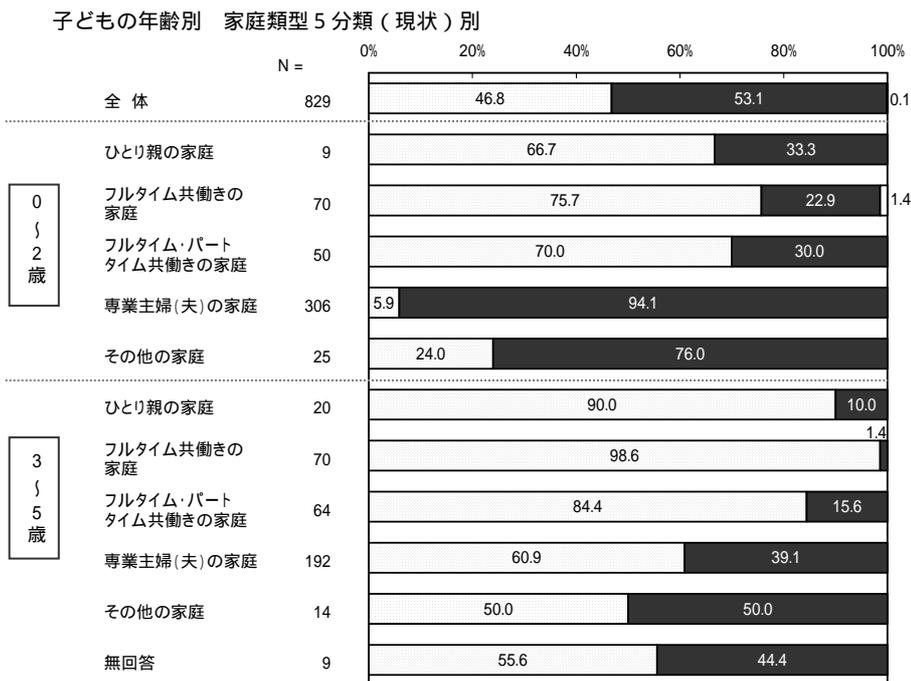
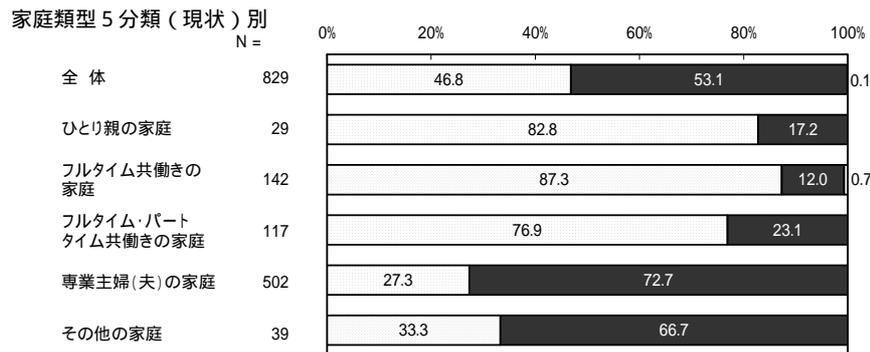
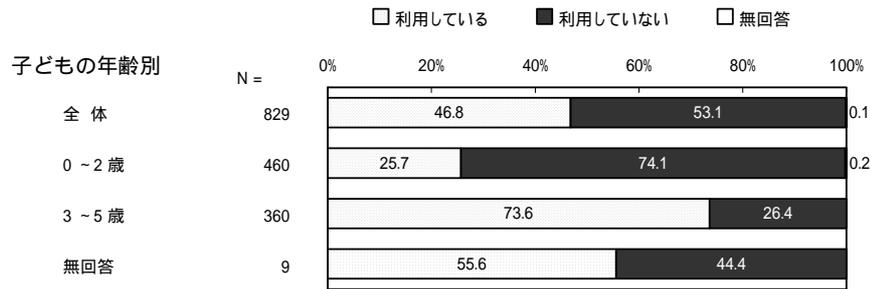
就学前児童では、「利用している」の割合が46.8%、「利用していない」の割合が53.1%となっています。

就学前児童の子どもの年齢別でみると、3～5歳で「利用している」の割合が約7割となっています。

就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、ひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭で「利用している」の割合が8割を超えています。

就学前児童の子どもの年齢別家庭類型5分類(現状)別でみると、0～2歳のフルタイム共働きの家庭、フルタイム・パートタイム共働きの家庭で「利用している」の割合が7割を超えています。3～5歳のひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭で「利用している」の割合が9割以上となっています。

【就学前児童】

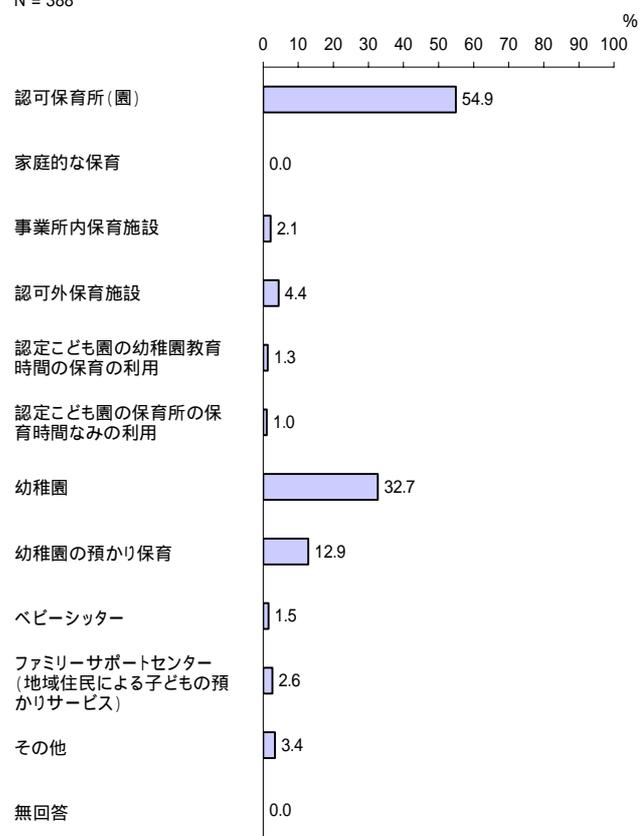


(2) 利用している保育サービスの種類 (就学前児童：問 11-1)

就学前児童では、「認可保育所(園)」の割合が 54.9%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 32.7%、「幼稚園の預かり保育」の割合が 12.9%となっています。

【就学前児童】

N = 388

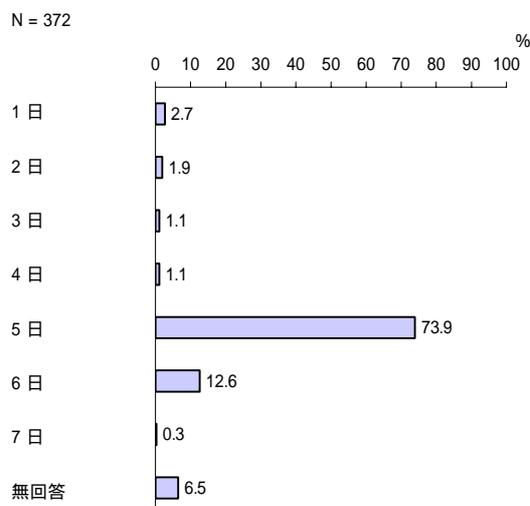


(3) 保育サービスの利用日数・時間(就学前児童:問11-2)

1週間の利用日数

就学前児童では、「5日」の割合が73.9%と最も高く、次いで「6日」の割合が12.6%となっています。

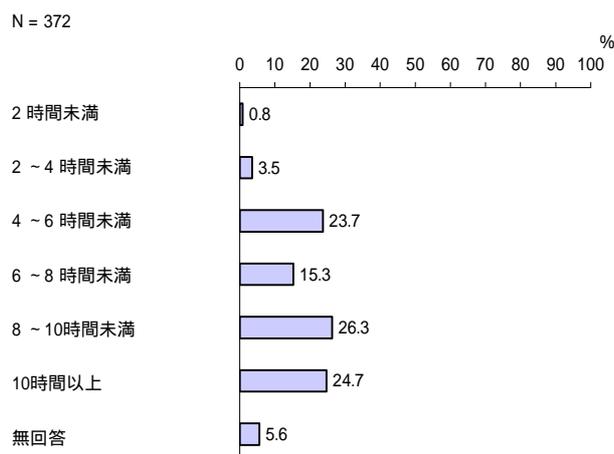
【就学前児童】



1日の利用時間

就学前児童では、「8～10時間未満」の割合が26.3%と最も高く、次いで「10時間以上」の割合が24.7%、「4～6時間未満」の割合が23.7%となっています。

【就学前児童】

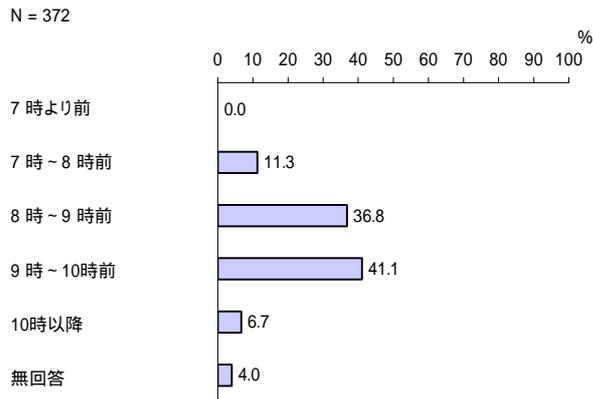


利用時間帯

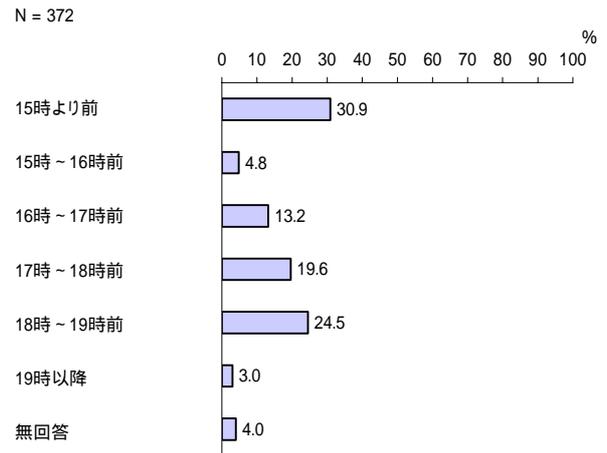
利用開始時刻については、就学前児童では、「9時～10時前」の割合が41.1%と最も高く、次いで「8時～9時前」の割合が36.8%、「7時～8時前」の割合が11.3%となっています。

利用終了時刻については、就学前児童では、「15時より前」の割合が30.9%と最も高く、次いで「18時～19時前」の割合が24.5%、「17時～18時前」の割合が19.6%となっています。

【就学前児童】 利用開始時刻



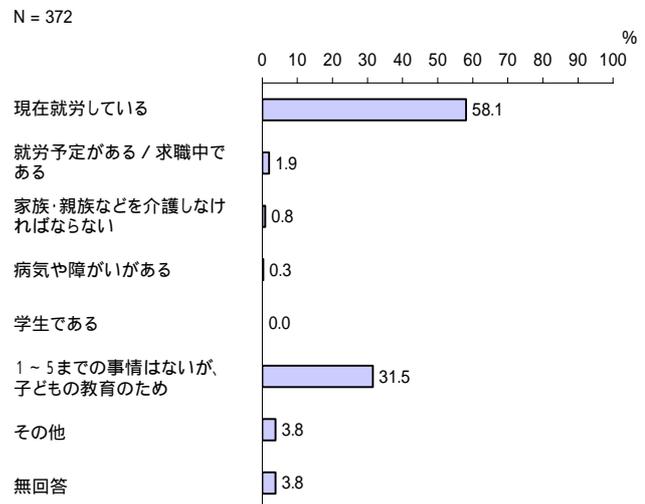
利用終了時刻



(4) 保育サービスを利用している理由 (就学前児童：問 11-3)

就学前児童では、「現在就労している」の割合が58.1%と最も高く、次いで「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」の割合が31.5%となっています。

【就学前児童】



「1～5までの事情」とは、「現在就労している」「就労予定がある / 求職中である」「家族・親族などを介護しなければならない」「病気や障がいがある」「学生である」を指します。

(5) 保育サービスを利用していない理由 (就学前児童：問 11-5)

就学前児童では、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」の割合が56.1%と最も高くなっています。

就学前児童の子どもの年齢別でみると、3~5歳に比べ0~2歳で「預けたいが、保育サービスに空きがない」「子どもがまだ小さいため」の割合が高くなっています。また0~2歳に比べ3~5歳で「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」の割合が高くなっています。

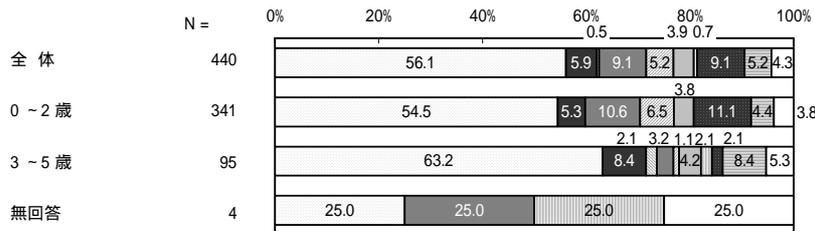
就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、他の家庭類型に比べひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭で「預けたいが、保育サービスに空きがない」の割合が高くなっています。

就学前児童の子どもの年齢別家庭類型5分類(現状)別でみると、0~2歳の専業主婦(夫)の家庭で「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」の割合が高くなっています。3~5歳の専業主婦(夫)の家庭で「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」の割合が高くなっています。

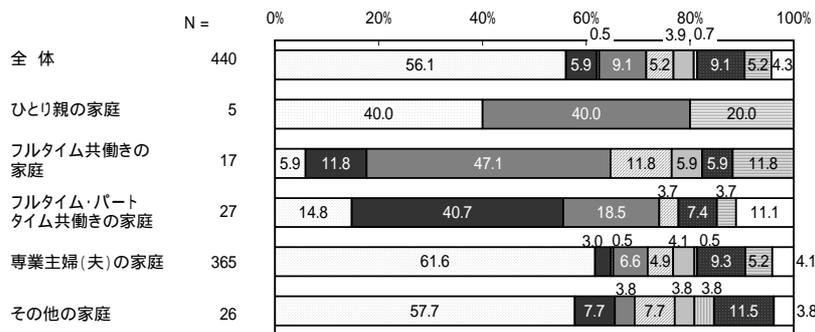
【就学前児童】

- (子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない
- 子どもの祖父母や親戚の人がみている
- 近所の人や父母の友人・知人がみている
- 預けたいが、保育サービスに空きがない
- 預けたいが、経済的な理由でサービスを利用できない
- 預けたいが、場所や時間帯の条件が整わない
- 預けたいが、サービスの質など、納得できるサービスがない
- 子どもがまだ小さいため
- その他
- 無回答

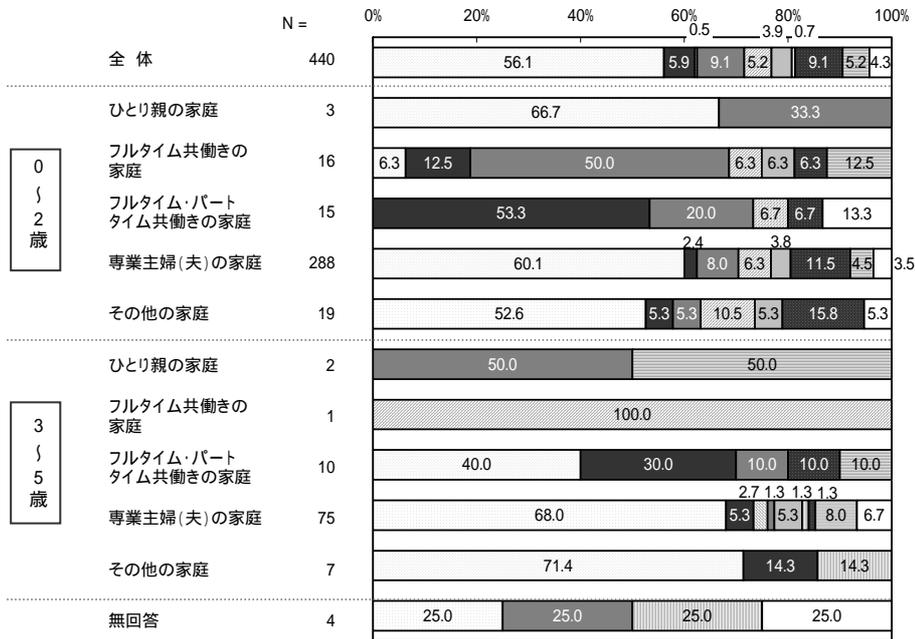
子どもの年齢別



家庭類型5分類(現状)別



子どもの年齢別 家庭類型 5 分類（現状）別

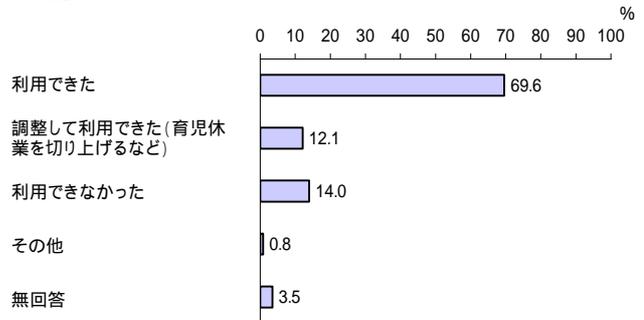


(6) ニーズに応じた保育サービスの利用状況（就学前児童：問 11-4）

就学前児童では、「利用できた」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「利用できなかった」の割合が 14.0%、「調整して利用できた（育児休業を切り上げるなど）」の割合が 12.1%となっています。

【就学前児童】

N = 372



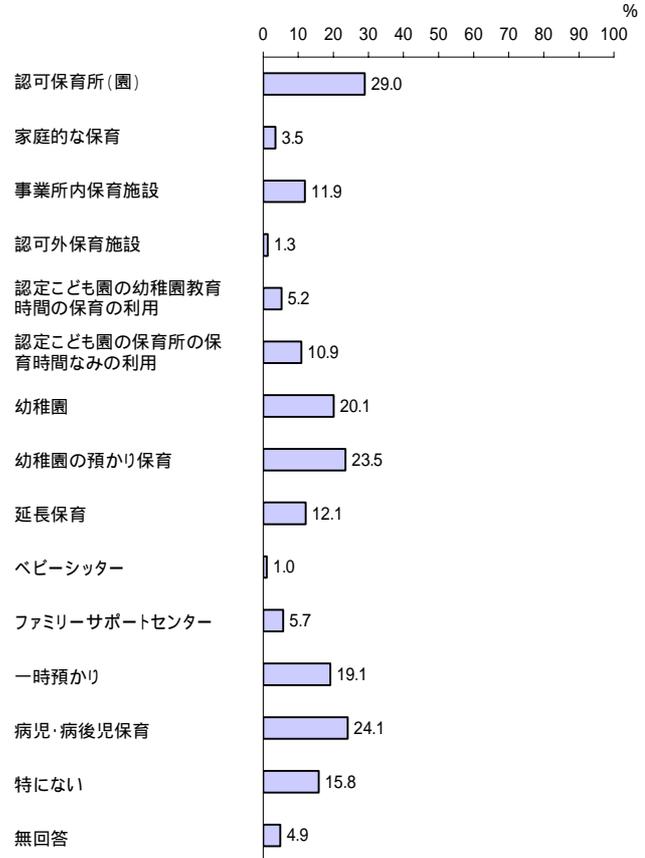
(7) 保育サービスの利用意向 (就学前児童：問12)

就学前児童では、「認可保育所(園)」の割合が29.0%と最も高く、次いで「病児・病後児保育」の割合が24.1%、「幼稚園の預かり保育」の割合が23.5%となっています。

就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、他の家庭類型に比べ専業主婦(夫)の家庭で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」の割合が高くなっています

【就学前児童】

N = 829



家庭類型5分類(現状)別

単位：%

	有効回答数(件)	認可保育所(園)	家庭的な保育	事業所内保育施設	認可外保育施設	認定こども園の幼稚園教育時間の保育の利用	認定こども園の保育所の保育時間なみの利用	幼稚園	幼稚園の預かり保育	延長保育	ベビーシッター	ファミリーサポートセンター	一時預かり	病児・病後児保育	特にない	無回答
ひとり親の家庭	29	34.5	6.9	10.3	3.4	3.4	13.8	3.4	6.9	17.2	-	3.4	13.8	34.5	10.3	6.9
フルタイム共働きの家庭	142	35.2	3.5	12.0	2.1	2.1	11.3	2.8	7.0	21.1	3.5	10.6	14.8	40.1	12.0	8.5
フルタイム・パートタイム共働きの家庭	117	27.4	5.1	10.3	1.7	4.3	6.8	12.8	16.2	7.7	-	2.6	21.4	38.5	17.1	6.0
専業主婦(夫)の家庭	502	26.9	2.8	12.2	1.0	6.2	11.2	28.3	31.1	10.6	0.4	5.6	20.3	16.3	16.7	3.4
その他の家庭	39	33.3	5.1	15.4	-	7.7	15.4	12.8	20.5	7.7	2.6	-	15.4	15.4	17.9	7.7

(8) 各保育サービスの利用希望日数・時間・時間帯 (就学前児童 : 問 12-1)

認可保育所 (園)

1 週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5 日」の割合が 55.4% と最も高く、次いで「6 日」の割合が 14.2% となっています。

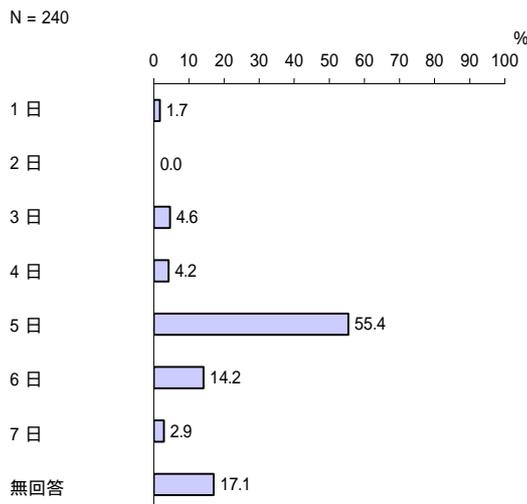
1 日の利用希望時間については、就学前児童では、「10 時間以上」の割合が 34.6% と最も高く、次いで「8~10 時間未満」の割合が 29.6%、「6~8 時間未満」の割合が 11.3% となっています。

希望利用時間帯 (開始時間) については、就学前児童では、「8 時~9 時前」の割合が 34.2% と最も高く、次いで「9 時~10 時前」の割合が 27.5%、「7 時~8 時前」の割合が 16.3% となっています。

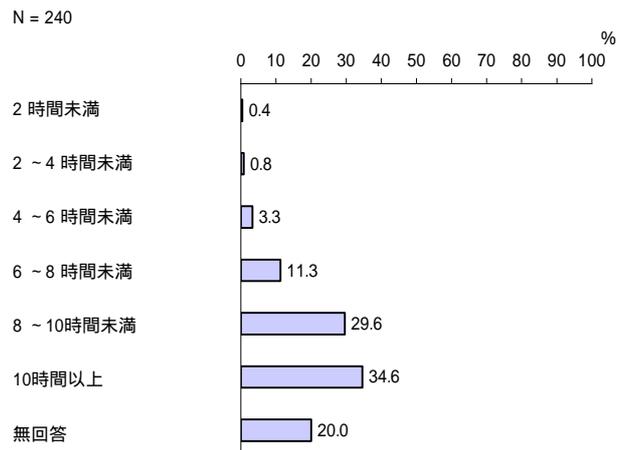
希望利用時間帯 (終了時間) については、就学前児童では、「18 時~19 時前」の割合が 24.6% と最も高く、次いで「17 時~18 時前」の割合が 21.7%、「19 時以降」の割合が 17.5% となっています。

【就学前児童】

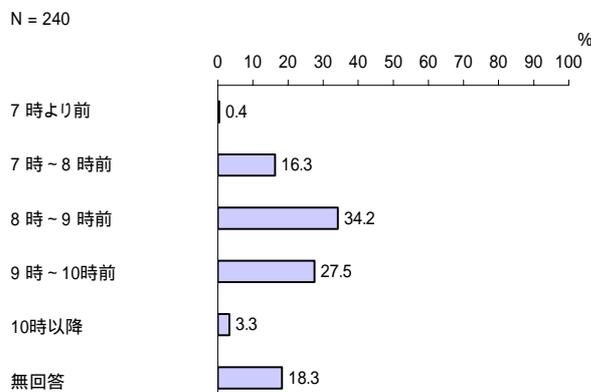
1 週あたりの利用希望日数



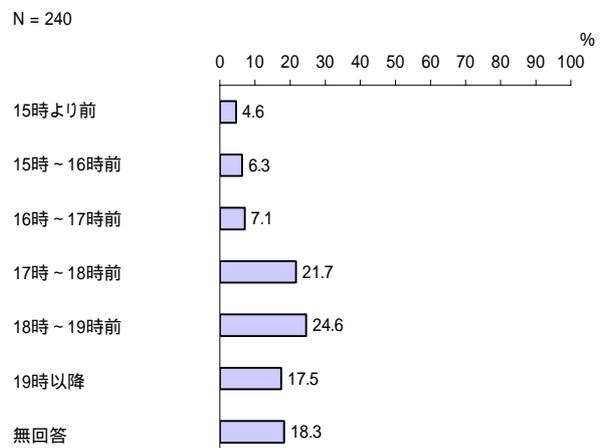
1 日の利用希望時間



希望利用時間帯 (開始時間)



希望利用時間帯 (終了時間)



家庭的な保育（保育ママ）

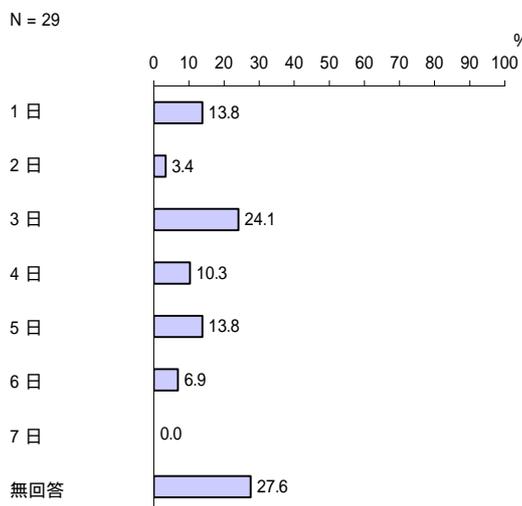
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「3日」の割合が24.1%と最も高く、次いで「1日」「5日」の割合がともに13.8%となっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「8～10時間未満」の割合が20.7%と最も高く、次いで「4～6時間未満」の割合が17.2%、「2～4時間未満」「6～8時間未満」の割合がともに13.8%となっています。

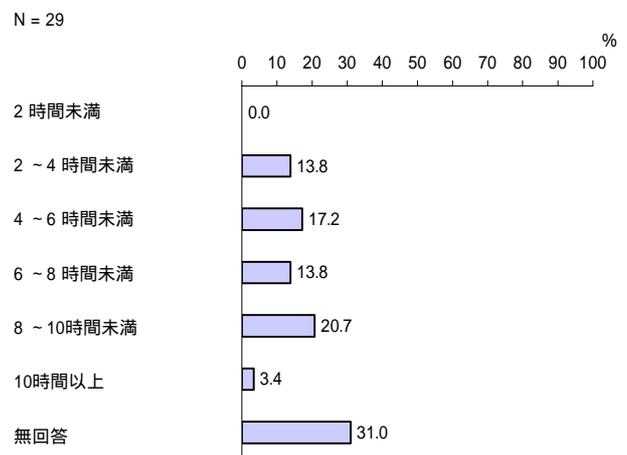
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「10時以降」の割合が31.0%と最も高く、次いで「9時～10時前」の割合が24.1%、「8時～9時前」の割合が13.8%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「17時～18時前」の割合が27.6%と最も高く、次いで「15時より前」の割合が13.8%、「18時～19時前」の割合が10.3%となっています。

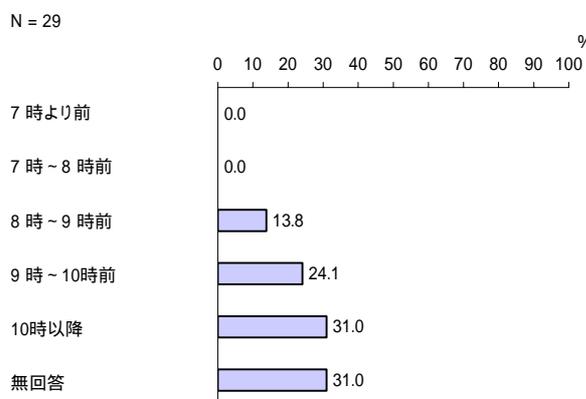
1週あたりの利用希望日数



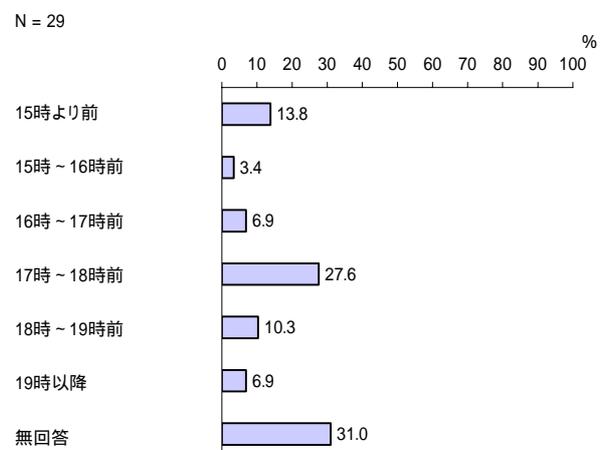
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



事業所内保育施設

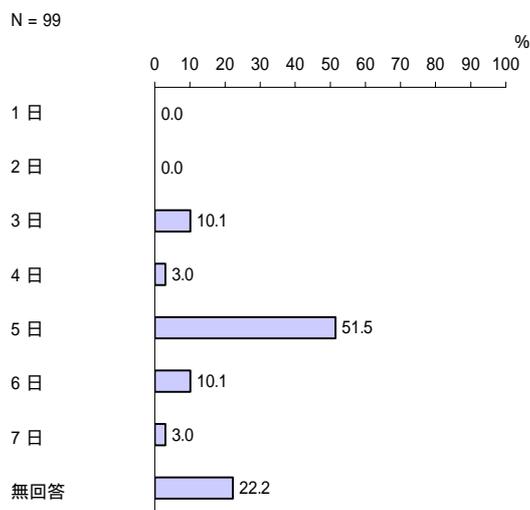
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が51.5%と最も高く、次いで「3日」「6日」の割合がともに10.1%となっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「8～10時間未満」の割合が42.4%と最も高く、次いで「10時間以上」の割合が17.2%となっています。

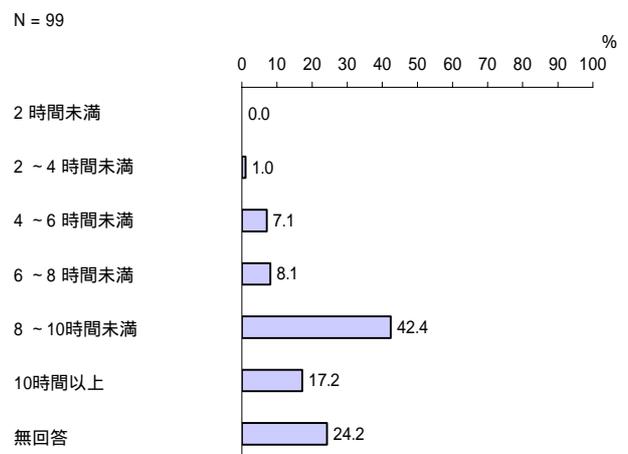
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「9時～10時前」の割合が46.5%と最も高く、次いで「8時～9時前」の割合が21.2%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「18時～19時前」の割合が33.3%と最も高く、次いで「17時～18時前」の割合が19.2%となっています。

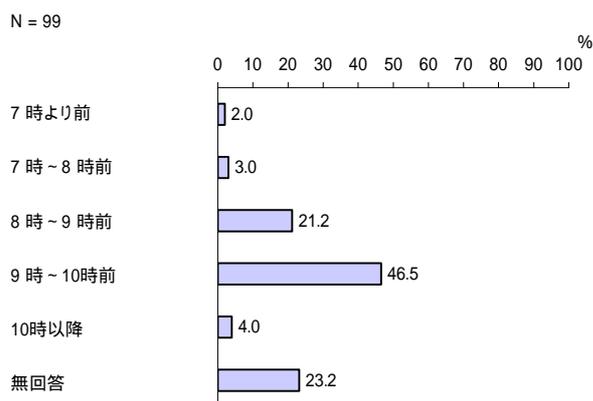
1週あたりの利用希望日数



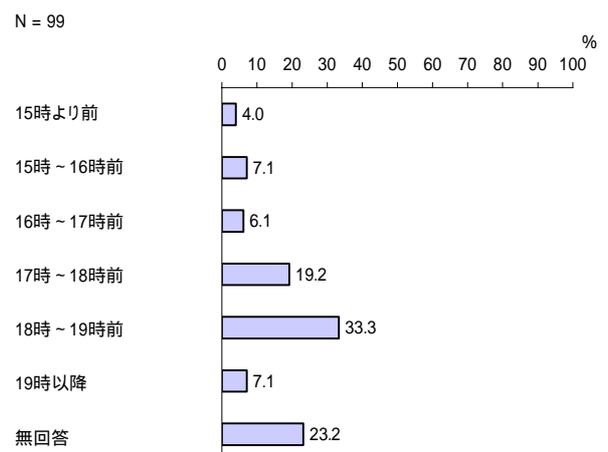
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



認可外保育施設

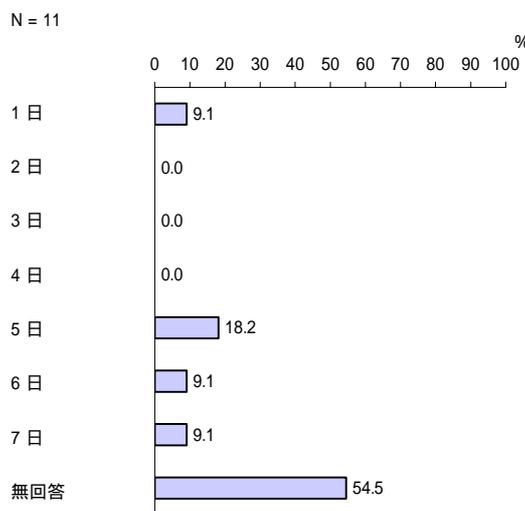
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が18.2%と最も高くなっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「8～10時間未満」の割合が27.3%と最も高くなっています。

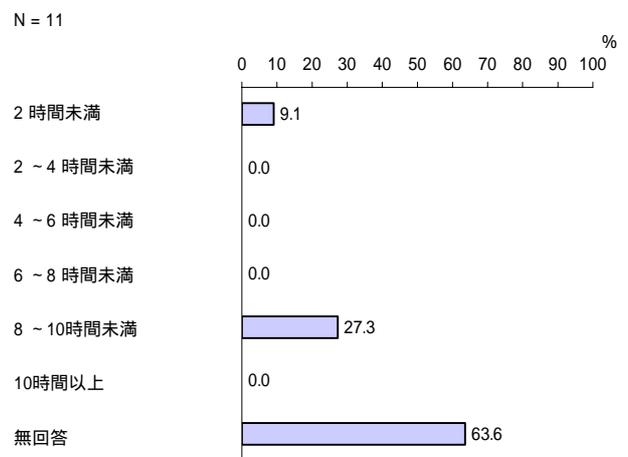
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「9時～10時前」の割合が27.3%と最も高くなっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「17時～18時前」の割合が18.2%と最も高くなっています。

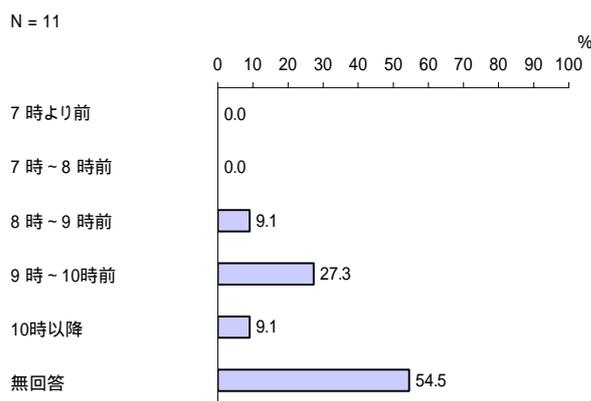
1週あたりの利用希望日数



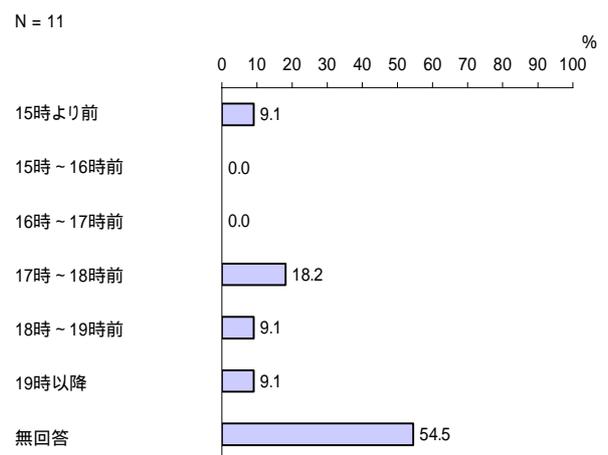
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



認定子ども園の幼稚園教育時間の保育の利用

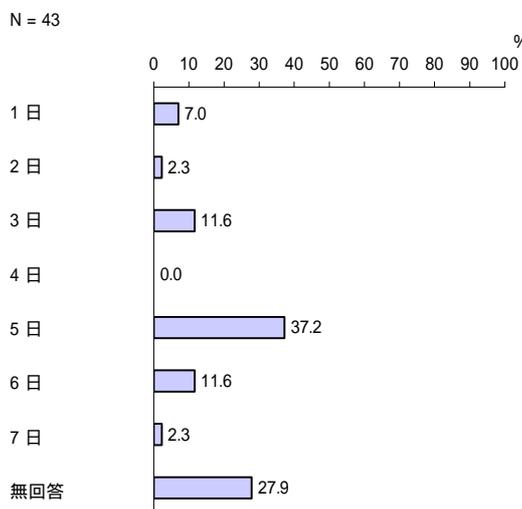
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が37.2%と最も高く、次いで「3日」「6日」の割合がともに11.6%となっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「4～6時間未満」「8～10時間未満」の割合がともに18.6%と最も高く、次いで「6～8時間未満」の割合が14.0%となっています。

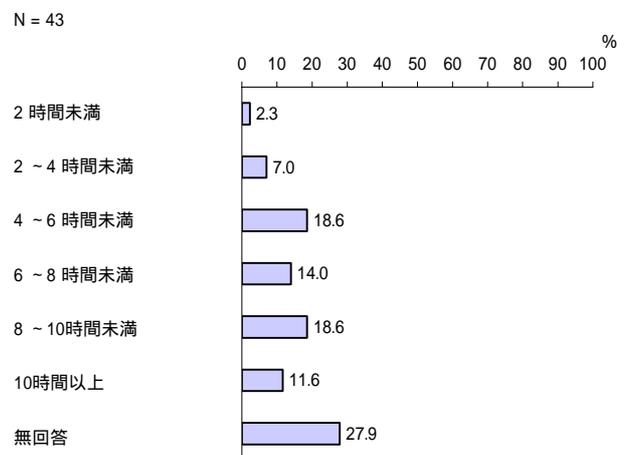
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「9時～10時前」の割合が32.6%と最も高く、次いで「10時以降」の割合が18.6%、「8時～9時前」の割合が16.3%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「16時～17時前」「18時～19時前」の割合がともに16.3%と最も高く、次いで「15時より前」「15時～16時前」の割合がともに14.0%となっています。

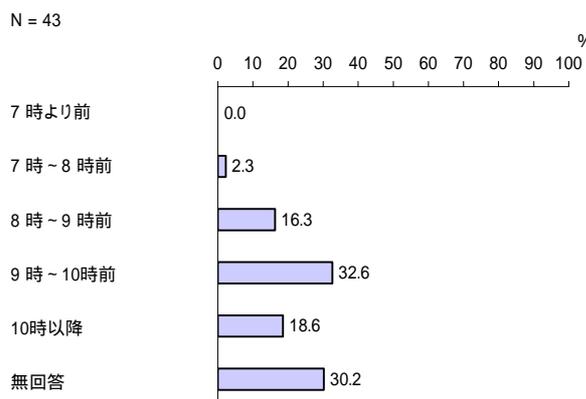
1週あたりの利用希望日数



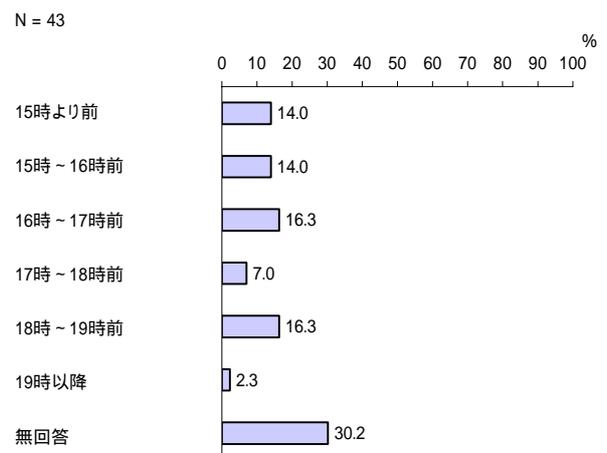
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



認定子ども園の保育所の保育時間なみの利用

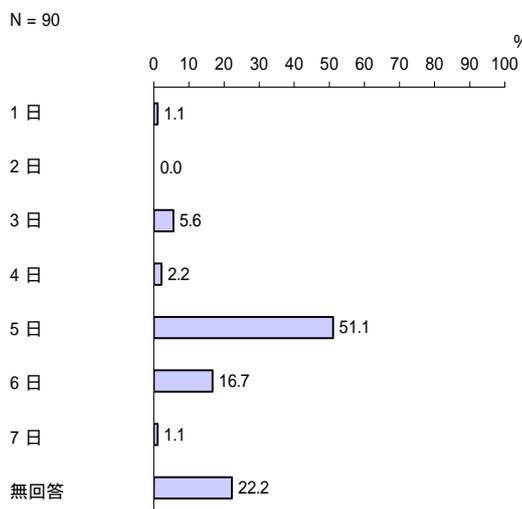
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が51.1%と最も高く、次いで「6日」の割合が16.7%となっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「8～10時間未満」の割合が34.4%と最も高く、次いで「10時間以上」の割合が28.9%となっています。

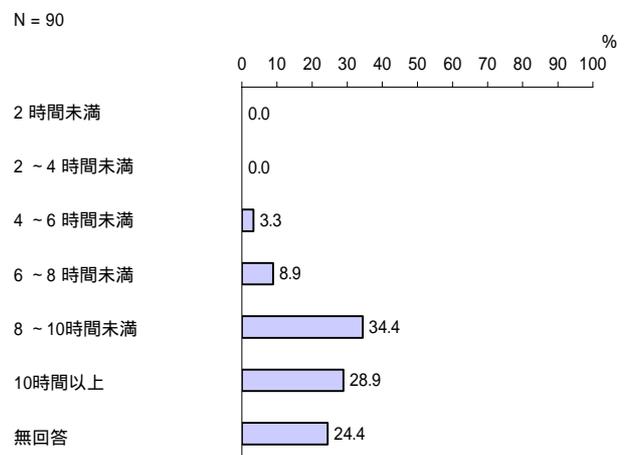
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「8時～9時前」の割合が31.1%と最も高く、次いで「9時～10時前」の割合が30.0%、「7時～8時前」の割合が10.0%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「18時～19時前」の割合が26.7%と最も高く、次いで「17時～18時前」の割合が22.2%、「19時以降」の割合が14.4%となっています。

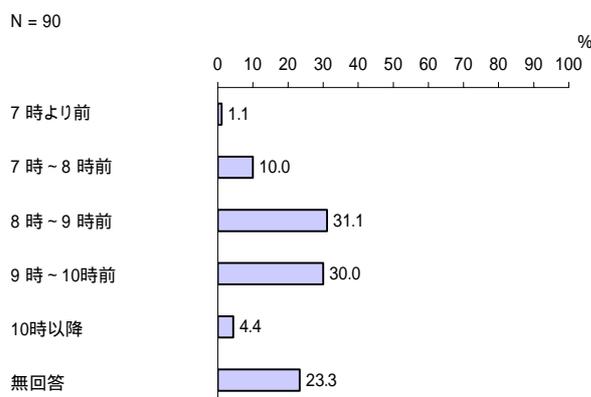
1週あたりの利用希望日数



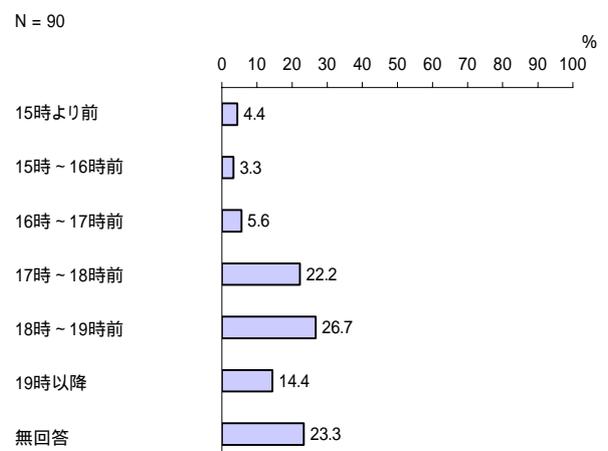
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



幼稚園（通常の就園時間）

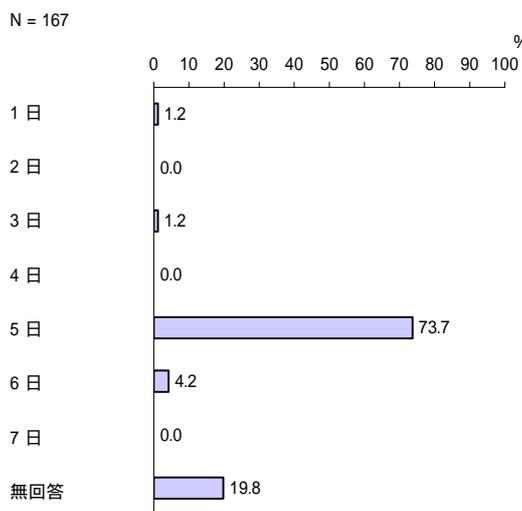
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が73.7%と最も高くなっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「4～6時間未満」の割合が34.1%と最も高く、次いで「6～8時間未満」の割合が32.9%となっています。

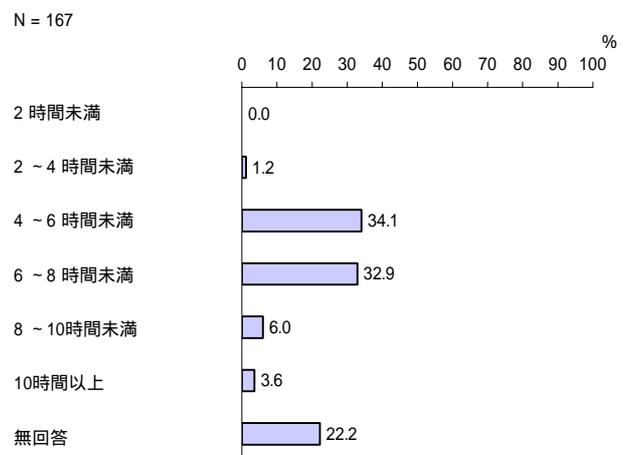
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「9時～10時前」の割合が65.3%と最も高く、次いで「8時～9時前」の割合が11.4%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「15時より前」の割合が36.5%と最も高く、次いで「15時～16時前」の割合が28.7%となっています。

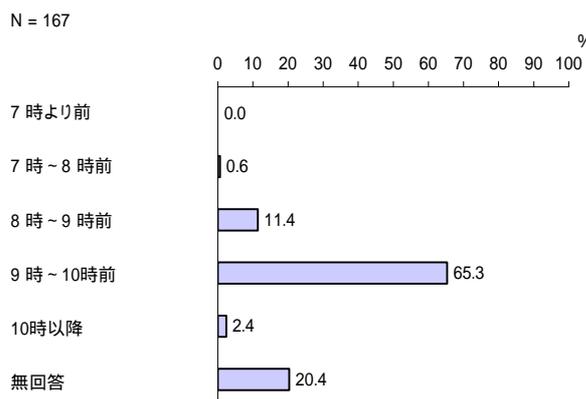
1週あたりの利用希望日数



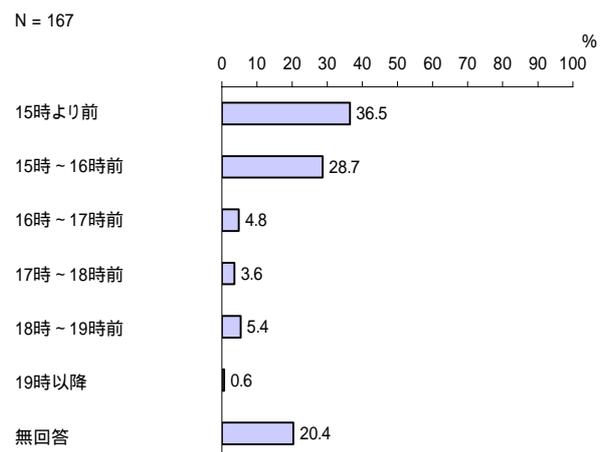
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



幼稚園の預かり保育

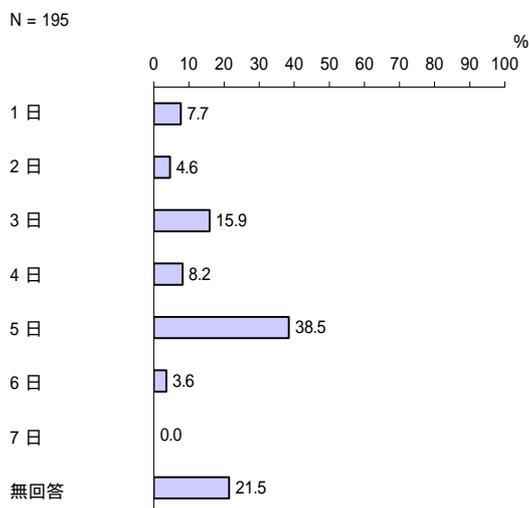
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が38.5%と最も高く、次いで「3日」の割合が15.9%となっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「2～4時間未満」の割合が33.3%と最も高く、次いで「8～10時間未満」の割合が15.9%、「4～6時間未満」の割合が13.3%となっています。

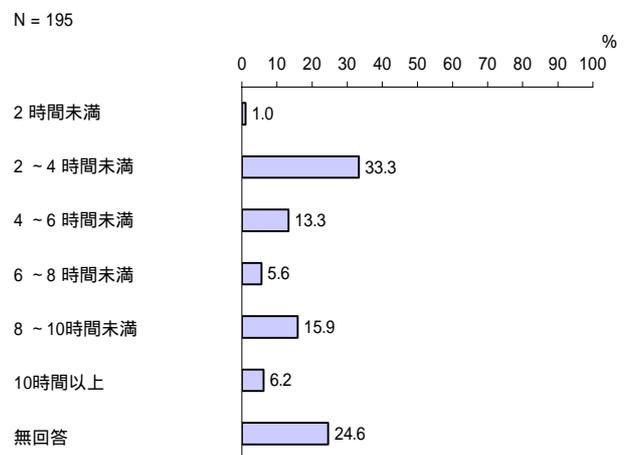
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「15時より前」の割合が66.2%と最も高く、次いで「15時～16時前」の割合が10.8%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「17時～18時前」の割合が31.8%と最も高く、次いで「18時～19時前」の割合が22.6%、「16時～17時前」の割合が13.8%となっています。

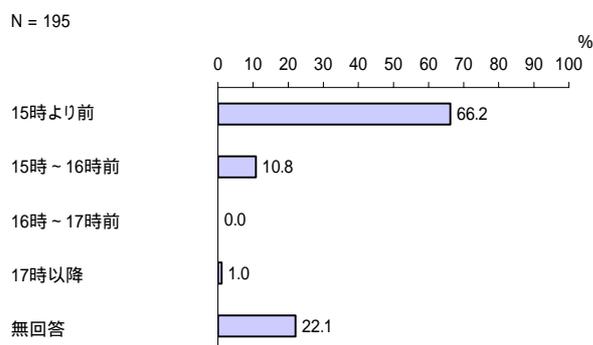
1週あたりの利用希望日数



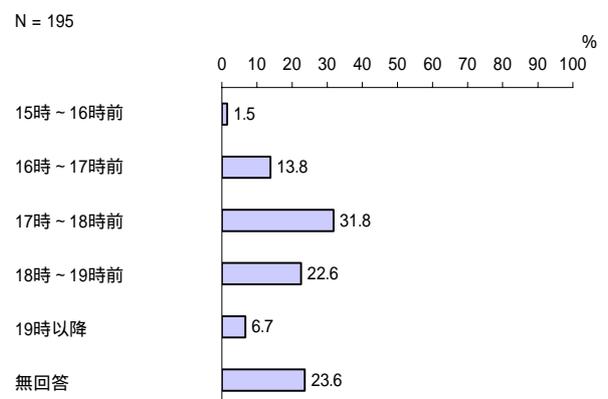
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）



延長保育

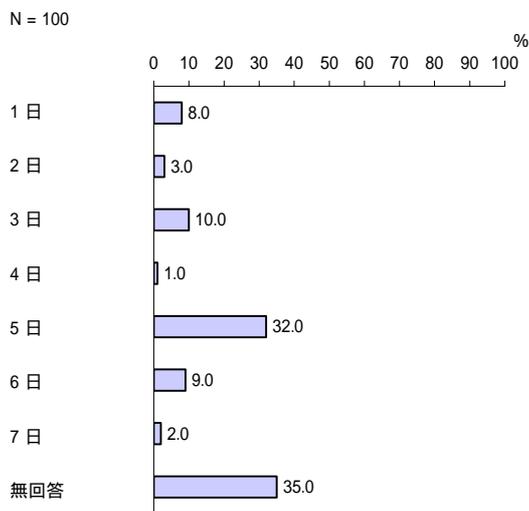
1週あたりの利用希望日数については、就学前児童では、「5日」の割合が32.0%と最も高く、次いで「3日」の割合が10.0%となっています。

1日の利用希望時間については、就学前児童では、「2～4時間未満」の割合が25.0%と最も高く、次いで「10時間以上」の割合が23.0%となっています。

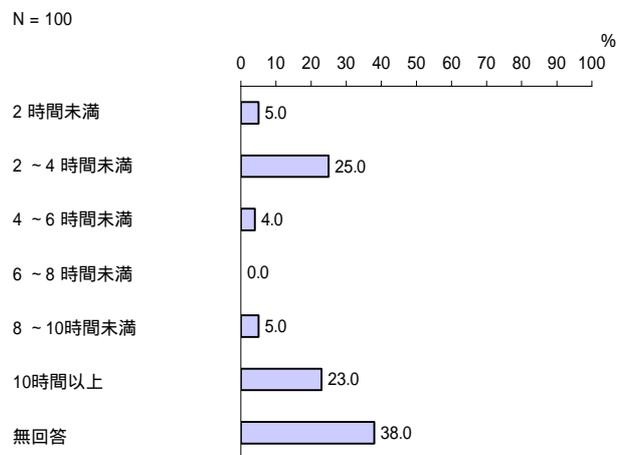
希望利用時間帯（開始時間）については、就学前児童では、「18時以降」の割合が33.0%と最も高く、次いで「15時～16時前」の割合が15.0%、「16時～17時前」の割合が12.0%となっています。

希望利用時間帯（終了時間）については、就学前児童では、「19時以降」の割合が42.0%と最も高く、次いで「18時～19時前」の割合が13.0%となっています。

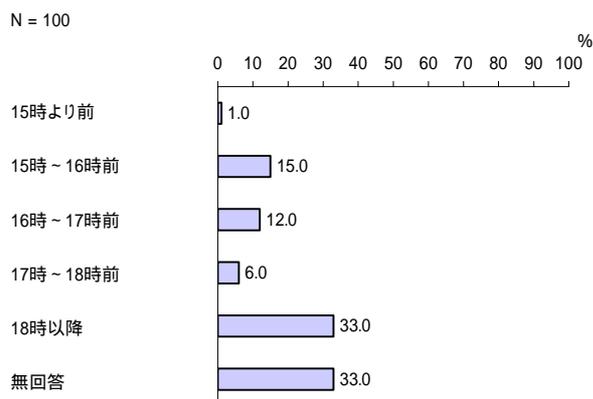
1週あたりの利用希望日数



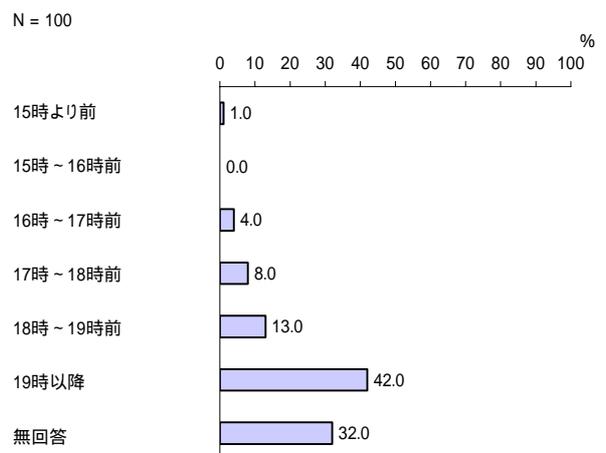
1日の利用希望時間



希望利用時間帯（開始時間）



希望利用時間帯（終了時間）

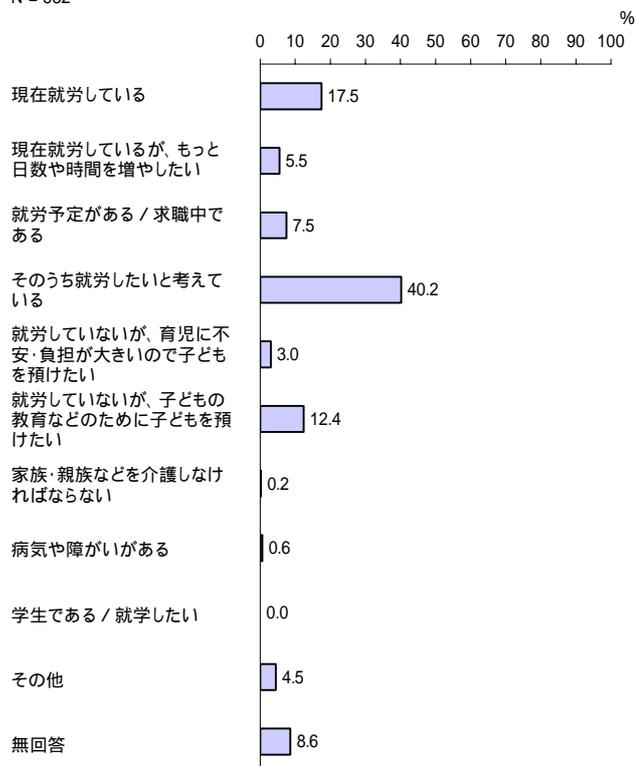


(9) 保育サービスを利用したい理由 (就学前児童 : 問 12-2)

就学前児童では、「そのうち就労したいと考えている」の割合が 40.2% と最も高く、次いで「現在就労している」の割合が 17.5%、「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい」の割合が 12.4% となっています。

【就学前児童】

N = 532



(10) 土日・祝日の保育サービスの利用希望 (就学前児童：問13)

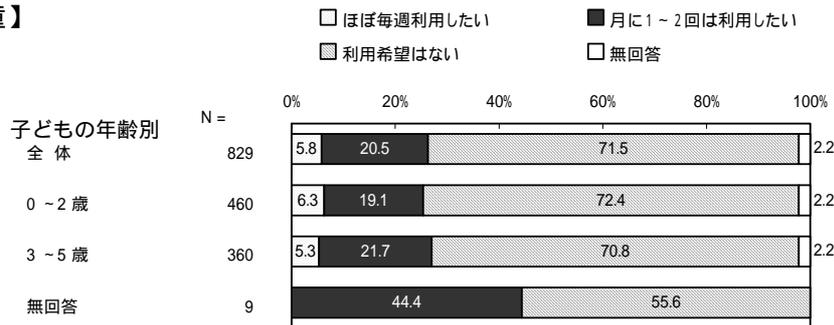
就学前児童では、「利用希望はない」の割合が71.5%と最も高く、次いで「月に1~2回は利用したい」の割合が20.5%となっています。

就学前児童の子どもの年齢別でみると、大きな差異は見られません。

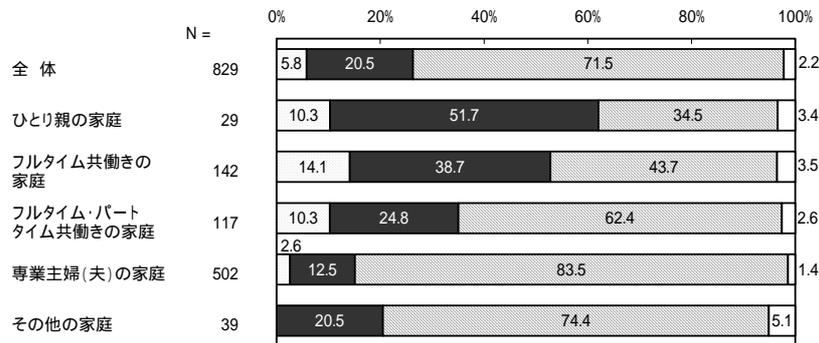
就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、他の家庭類型に比べひとり親の家庭で「月に1~2回は利用したい」の割合が高くなっています。

就学前児童の家庭類型5分類(潜在)別でみると、家庭類型5分類(現状)別と同様の傾向が見られます。

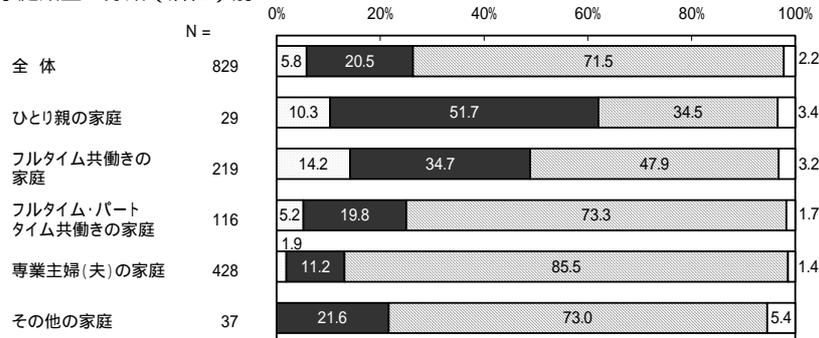
【就学前児童】



家庭類型5分類(現状)別



家庭類型5分類(潜在)別



4 . 病児・病後児保育の利用意向

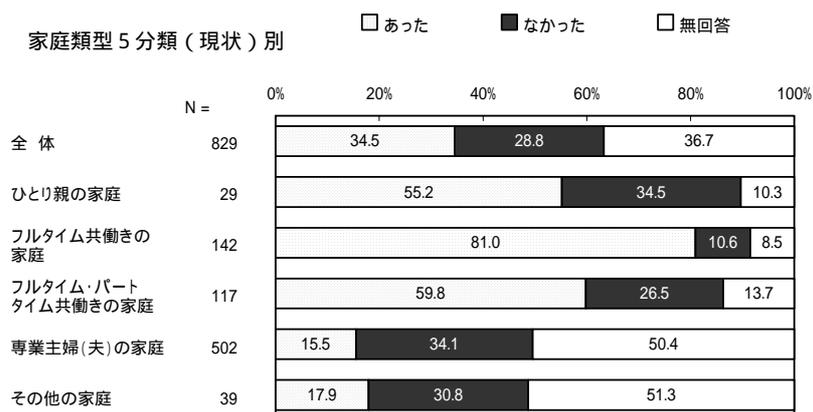
子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった経験や、学校を休んだ経験をみると、「あった」の割合が就学前児童で3割、小学生で6割を超えています。また、その対処方法として、就学前児童の“ひとり親の家庭”、“フルタイム共働きの家庭”、“フルタイム・パートタイム共働きの家庭”で「母親が仕事を休んだ」の割合が8割以上となっており、さらに、病児・病後児保育サービスなどの利用を希望している家庭が7割近くになることから、病児・病後児保育サービスなどの充実が期待されていることがうかがえます。

(1) 子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった経験 (就学前児童：問14)

就学前児童では、「あった」の割合が34.5%、「なかった」の割合が28.8%となっています。

就学前児童の家庭類型5分類(現状)別で見ると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭で「あった」の割合が高く、8割を超えています。

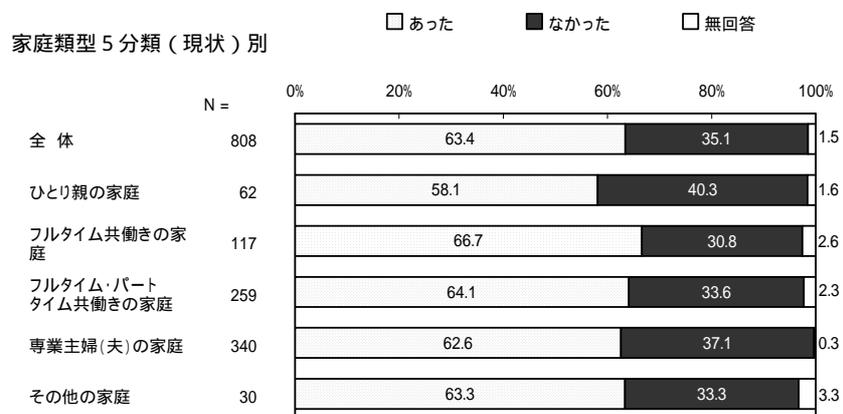
【就学前児童】



(2) 子どもの病気やケガで学校を休んだ経験 (小学生 : 問 11)

小学生では、「あった」の割合が 63.4%、「なかった」の割合が 35.1%となっています。
小学生の家庭類型 5 分類 (現状) 別でみると、大きな差異は見られません。

【小学生】



(3) 1年間の対処方法(就学前児童:問14-1 小学生:問11-1)

就学前児童では、「母親が休んだ」の割合が66.8%と最も高く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に預けた」の割合が33.6%、「就労していない保護者がみた」の割合が28.0%となっています。

小学生では、「就労していない保護者がみた」の割合が45.7%と最も高く、次いで「母親が休んだ」の割合が35.4%、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」の割合が14.6%となっています。

就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、ひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭、フルタイム・パートタイム共働きの家庭で「母親が休んだ」の割合が8割を超えています。また、フルタイム共働きの家庭で「父親が休んだ」の割合が高く、約4割となっています。

小学生の家庭類型5分類(現状)別でみると、ひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭、フルタイム・パートタイム共働きの家庭で「母親が休んだ」の割合が5割を超えています。

家庭類型5分類(現状)別

単位: %

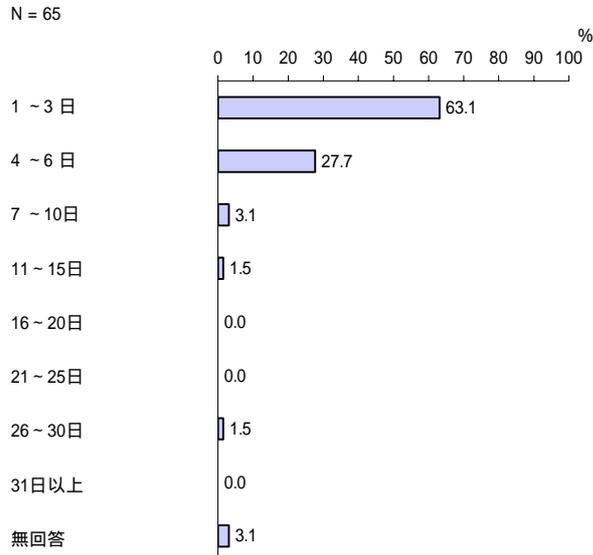
	有効回答数(件)	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に預けた (同居者を含む)	就労していない 保護者がみた	病児・病後児の保育 サービスを利用した	ベビーシッターなどを 頼んだ	ファミリーサポート センターにお願した	仕方なく子どもだけで 留守番をさせた	その他	無回答
就学前児童	286	22.7	66.8	33.6	28.0	0.7	1.0	0.3	1.7	2.4	0.3
ひとり親の家庭	16	6.3	81.3	37.5	6.3	-	-	-	12.5	-	-
フルタイム共働きの 家庭	115	39.1	89.6	42.6	5.2	-	2.6	0.9	0.9	5.2	-
フルタイム・パート タイム共働きの家庭	70	21.4	92.9	44.3	7.1	1.4	-	-	1.4	-	1.4
専業主婦(夫)の家庭	78	5.1	10.3	9.0	83.3	1.3	-	-	1.3	1.3	-
その他の家庭	7	-	28.6	42.9	42.9	-	-	-	-	-	-
小学生	512	6.4	35.4	12.5	45.7	0.2	0.2	0.2	14.6	4.9	2.3
ひとり親の家庭	36	2.8	55.6	30.6	11.1	-	-	-	33.3	2.8	-
フルタイム共働きの 家庭	78	17.9	61.5	30.8	6.4	-	-	1.3	17.9	10.3	1.3
フルタイム・パート タイム共働きの家庭	166	7.2	60.2	13.9	11.4	-	0.6	-	23.5	7.2	2.4
専業主婦(夫)の家庭	213	2.8	4.2	2.3	91.5	0.5	-	-	4.2	0.9	3.3
その他の家庭	19	-	21.1	5.3	57.9	-	-	-	5.3	10.5	-

父親が休んだ日数

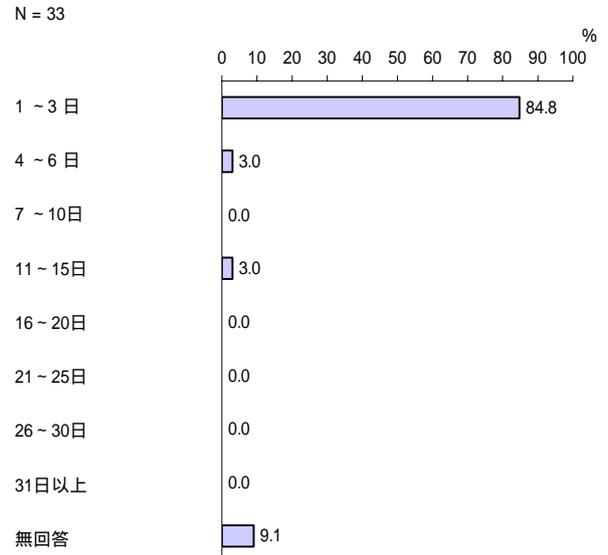
就学前児童では、「1～3日」の割合が63.1%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が27.7%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が84.8%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

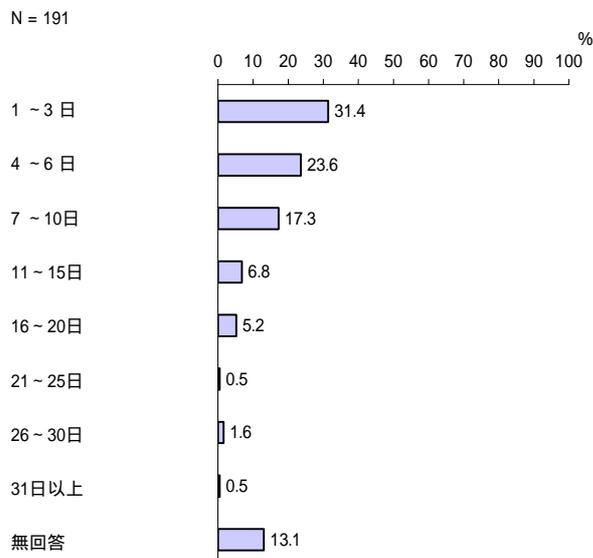


母親が休んだ日数

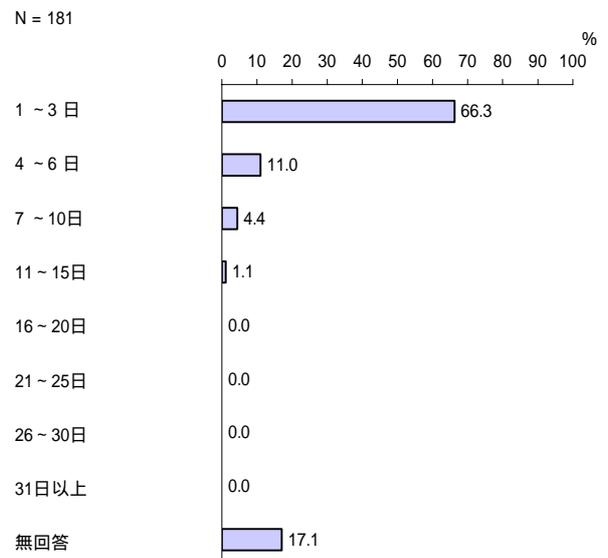
就学前児童では、「1～3日」の割合が31.4%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が23.6%、「7～10日」の割合が17.3%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が66.3%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が11.0%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

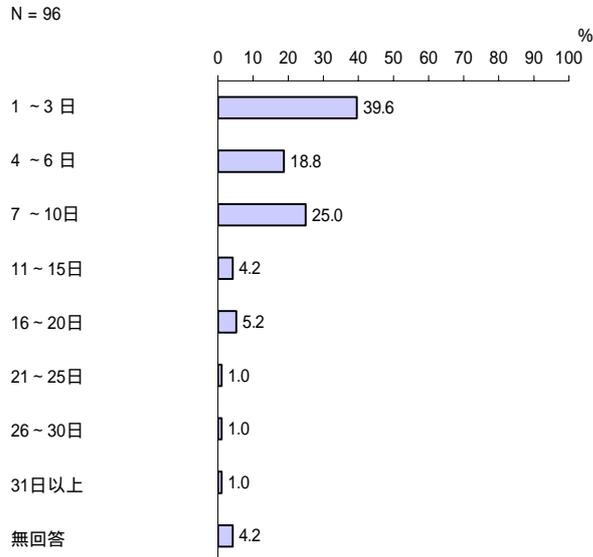


(同居者を含む) 親族・知人に預けた日数

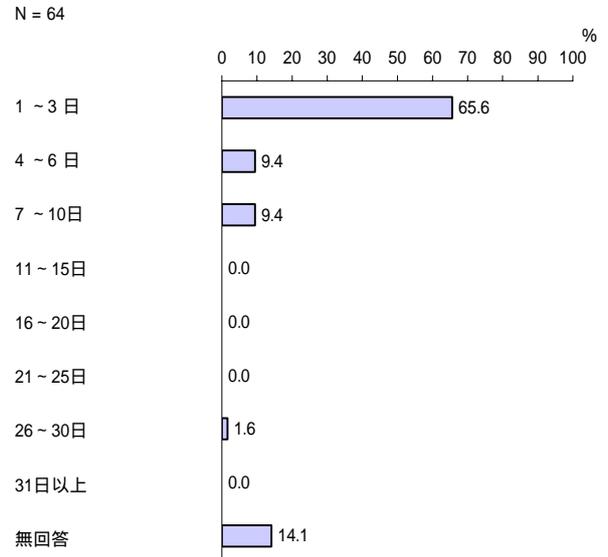
就学前児童では、「1～3日」の割合が39.6%と最も高く、次いで「7～10日」の割合が25.0%、「4～6日」の割合が18.8%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が65.6%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

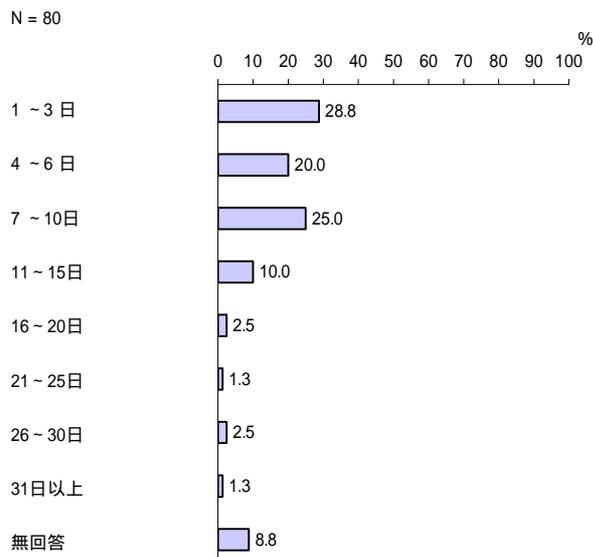


就労していない保護者がみた日数

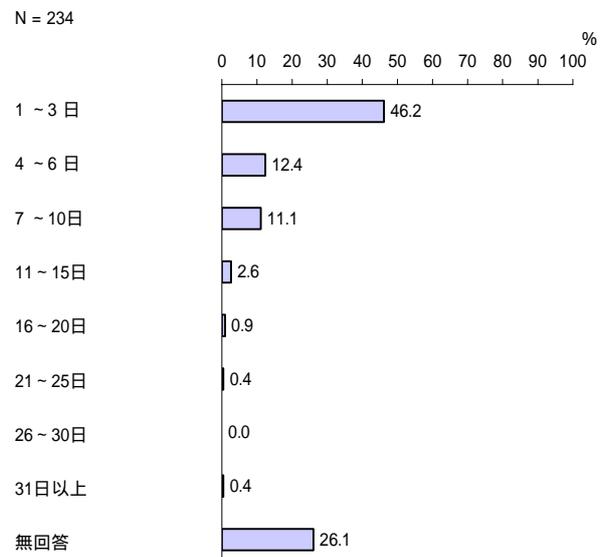
就学前児童では、「1～3日」の割合が28.8%と最も高く、次いで「7～10日」の割合が25.0%、「4～6日」の割合が20.0%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が46.2%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が12.4%、「7～10日」の割合が11.1%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



病児・病後児の保育サービスを利用した日数

就学前児童では、「1～3日」「4～6日」がともに1件となっています。

小学生では、「4～6日」が1件となっています。

ベビーシッターなどを頼んだ日数

就学前児童では、「1～3日」が2件、「7～10日」が1件となっています。

小学生では、「1～3日」が1件となっています。

ファミリーサポートセンターにお願いした日数

就学前児童では、「1～3日」が1件となっています。

小学生では、「31日以上」が1件となっています。

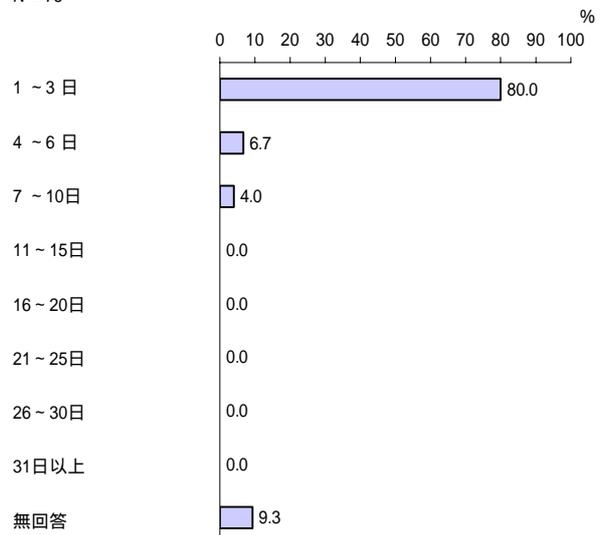
仕方なく子どもだけで留守番させた日数

就学前児童では、「1～3日」が3件、「4～6日」が2件となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が80.0%と最も高くなっています。

【小学生】

N = 75



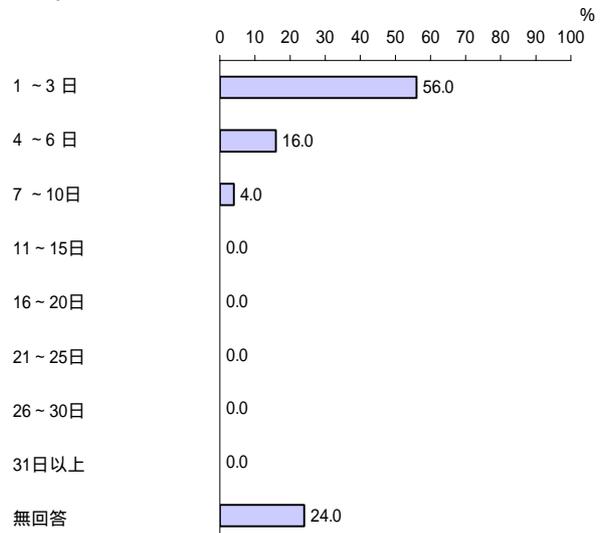
その他の日数

就学前児童では、「1～3日」が4件、「4～6日」が3件となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が56.0%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が16.0%となっています。

【小学生】

N = 25



(4) この1年間で、できれば病児・病後児保育サービスなどを利用したいと思った日数
(就学前児童：問 14-2 小学生：問 11-2)

就学前児童では、「1～3日」の割合が28.0%と最も高く、次いで「7～10日」の割合が19.4%、「4～6日」の割合が15.2%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が23.3%と最も高くなっています。

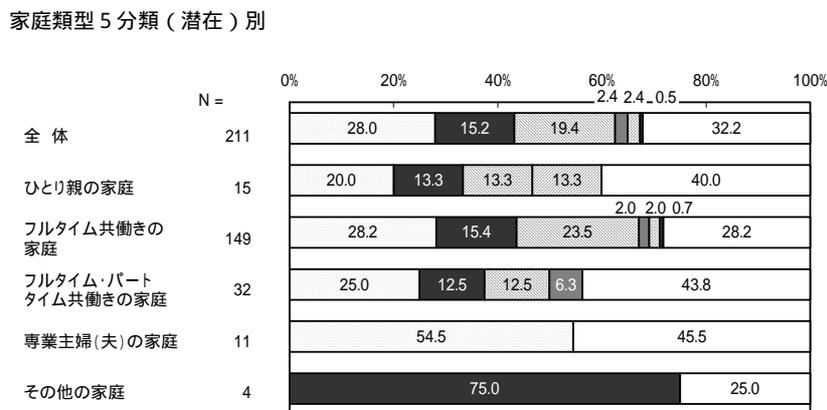
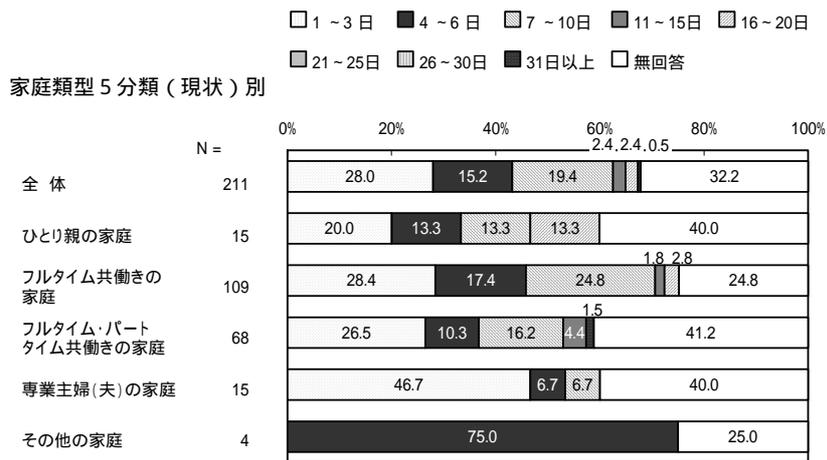
就学前児童の家庭類型5分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べ専業主婦（夫）の家庭で「1～3日」の割合が高く、フルタイム共働きの家庭で「7～10日」の割合が高くなっています。

就学前児童の家庭類型5分類（潜在）別でみると、家庭類型5分類（現状）別と同様の傾向が見られます。

小学生の家庭類型5分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べ専業主婦（夫）の家庭で「1～3日」の割合が高くなっています。

小学生の家庭類型5分類（潜在）別でみると、家庭類型5分類（現状）別と同様の傾向が見られます。

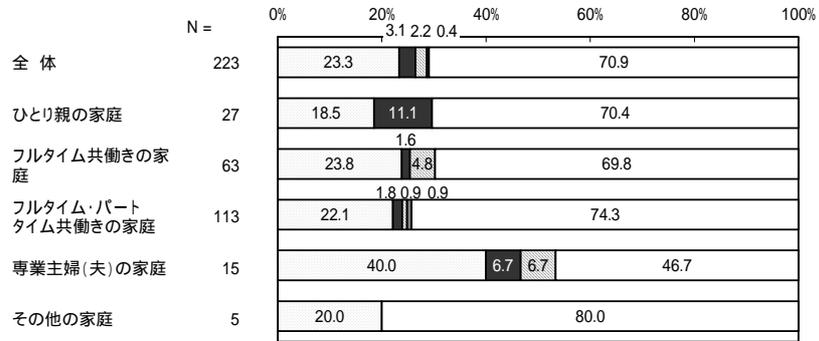
【就学前児童】



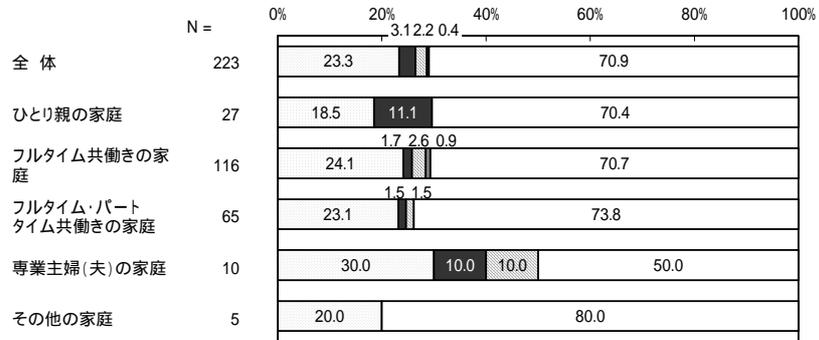
【小学生】

□ 1～3日 ■ 4～6日 ▨ 7～10日 ▩ 11～15日 ▪ 16～20日
 ▫ 21～25日 ▬ 26～30日 ■ 31日以上 □ 無回答

家庭類型5分類（現状）別



家庭類型5分類（潜在）別



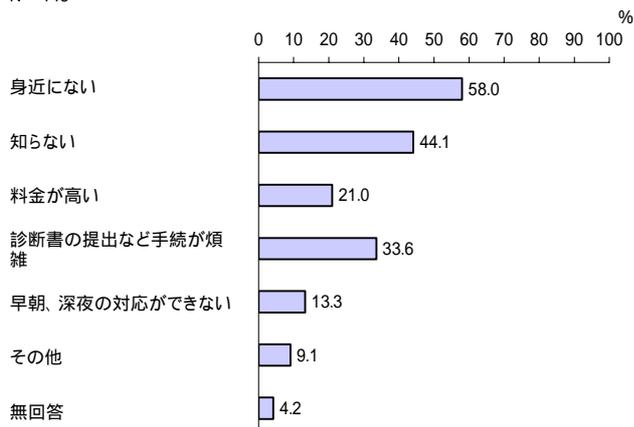
(5) 病児・病後児保育サービスを利用しなかった理由
 (就学前児童：問 14-3 小学生：問 11-3)

就学前児童では、「身近にない」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 44.1%、「診断書の提出など手続きが煩雑」の割合が 33.6%となっています。

小学生では、「知らない」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「身近にない」の割合が 52.3%、「診断書の提出など手続きが煩雑」の割合が 23.1%となっています。

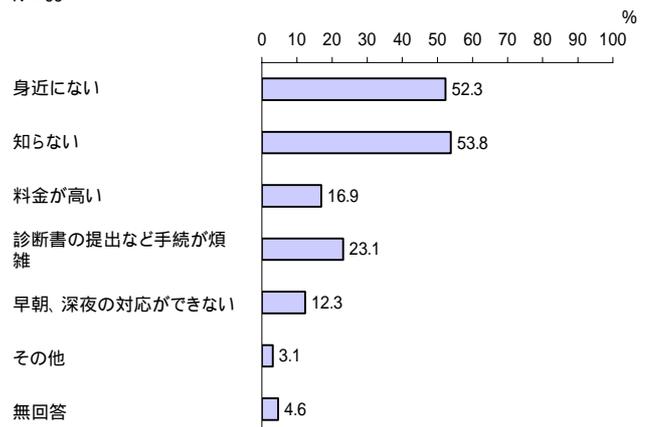
【就学前児童】

N = 143



【小学生】

N = 65



5. 一時預かりの利用意向

この1年間の一時預かりの経験を見ると、「ある」の割合が、就学前児童で約4割、小学生で約3割となっています。さらに理由別にみると私用（買い物、習い事等）・リフレッシュ目的、冠婚葬祭・子どもの親の病気、就労のすべての理由において「1～3日」の割合が最も高くなっています。

(1) この1年間の一時預かりの経験（就学前児童：問15 小学生：問12）

この1年間の一時預かりの経験

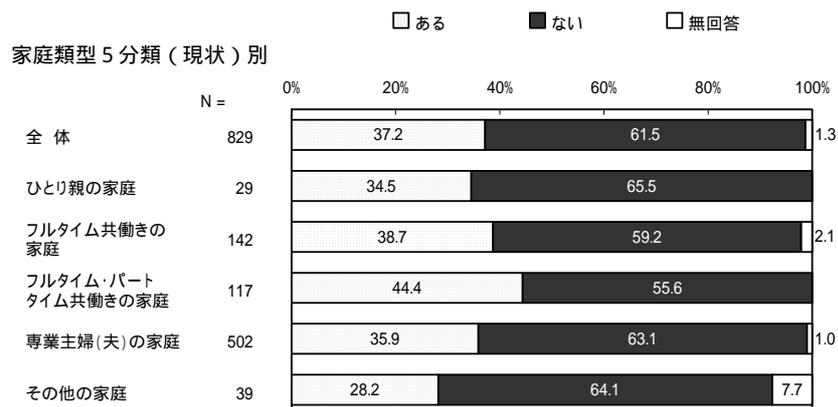
就学前児童では、「ある」の割合が37.2%、「ない」の割合が61.5%となっています。

小学生では、「ある」の割合が26.7%、「ない」の割合が72.2%となっています。

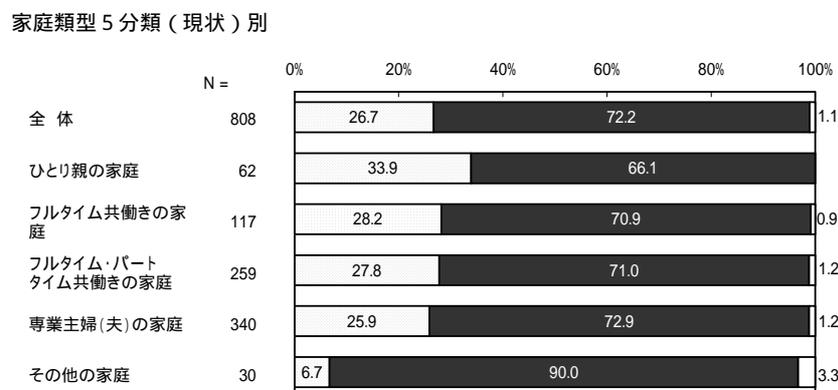
就学前児童の家庭類型5分類（現状）別で見ると、他の家庭類型に比べフルタイム・パートタイム共働きの家庭で「ある」の割合が高くなっています。

小学生の家庭類型5分類（現状）別で見ると、他の家庭類型に比べひとり親の家庭で「ある」の割合が高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

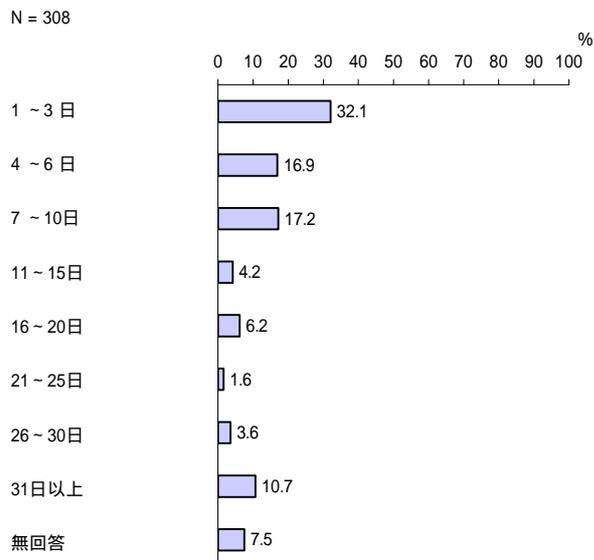


一時預かりを利用した年間日数

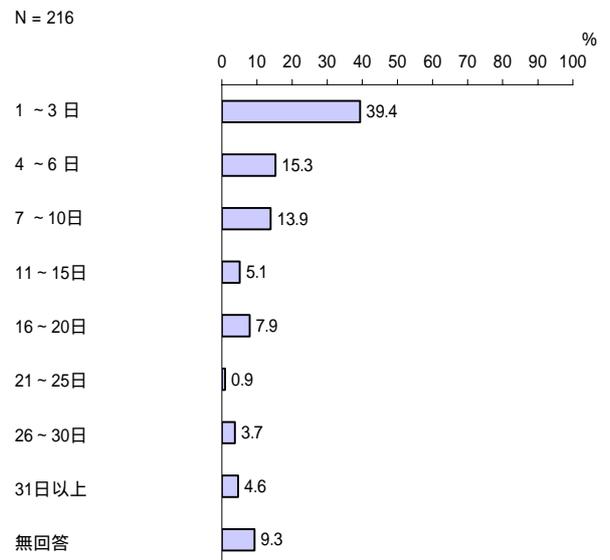
就学前児童では、「1～3日」の割合が32.1%と最も高く、次いで「7～10日」の割合が17.2%、「4～6日」の割合が16.9%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が39.4%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が15.3%、「7～10日」の割合が13.9%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

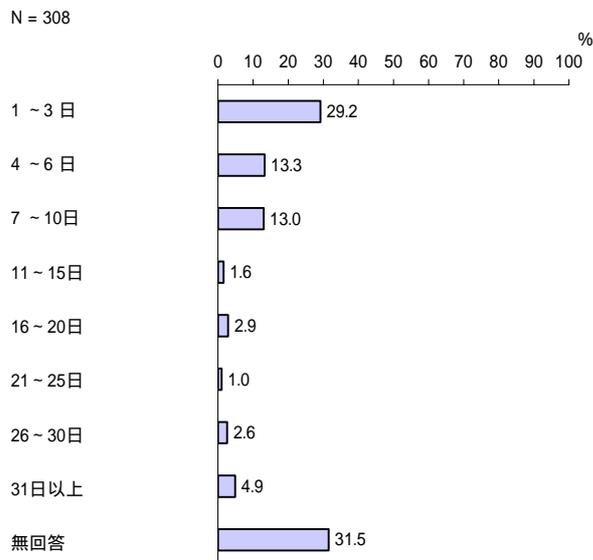


私用（買物、習い事等）・リフレッシュ目的の日数

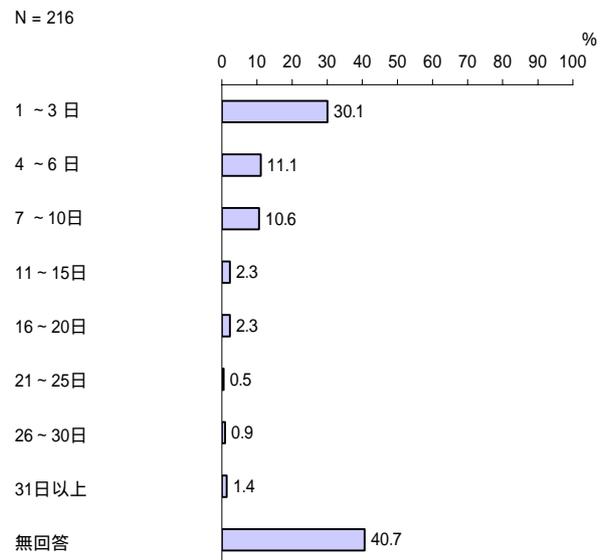
就学前児童では、「1～3日」の割合が29.2%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が13.3%、「7～10日」の割合が13.0%となっています。

小学生では、「1～3日」の割合が30.1%と最も高く、次いで「4～6日」の割合が11.1%、「7～10日」の割合が10.6%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

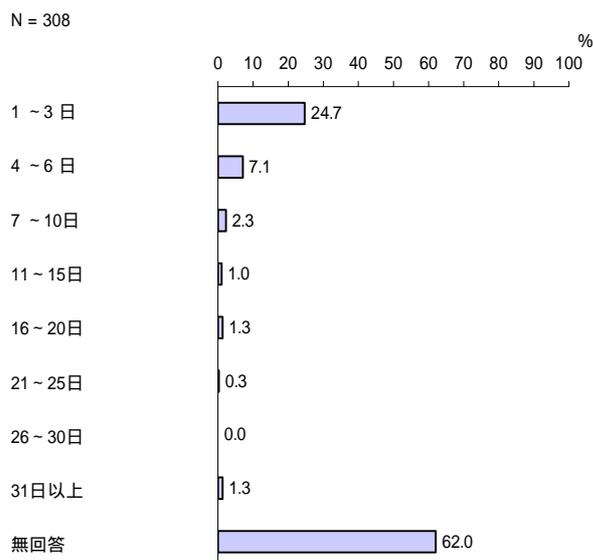


冠婚葬祭・子どもの親の病気の日数

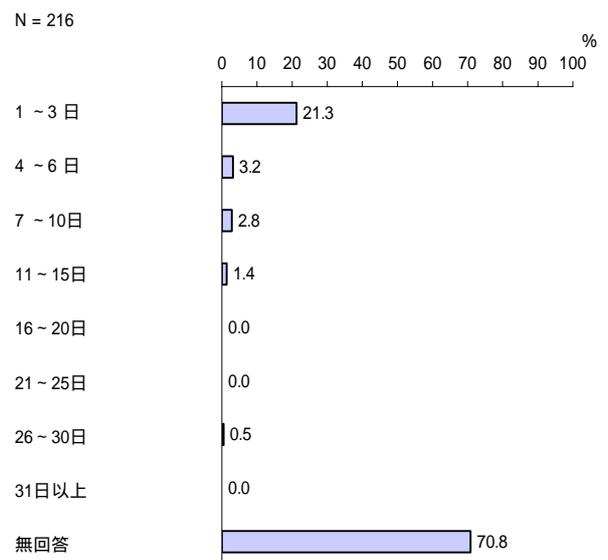
就学前児童では、「1～3日」の割合が24.7%と最も高くなっています。

小学生では、「1～3日」の割合が21.3%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

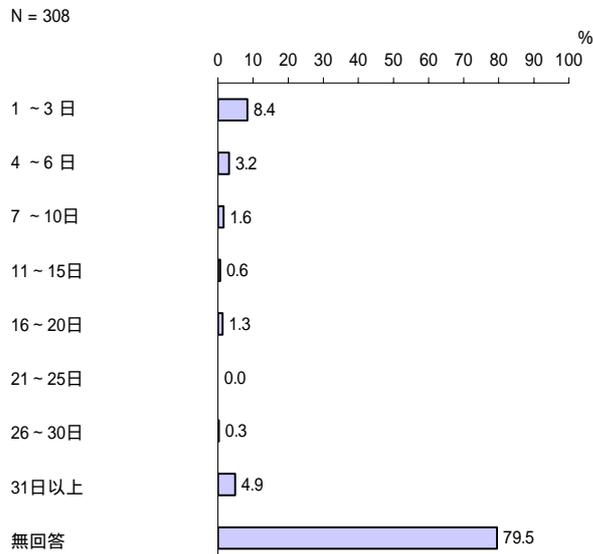


就労の日数

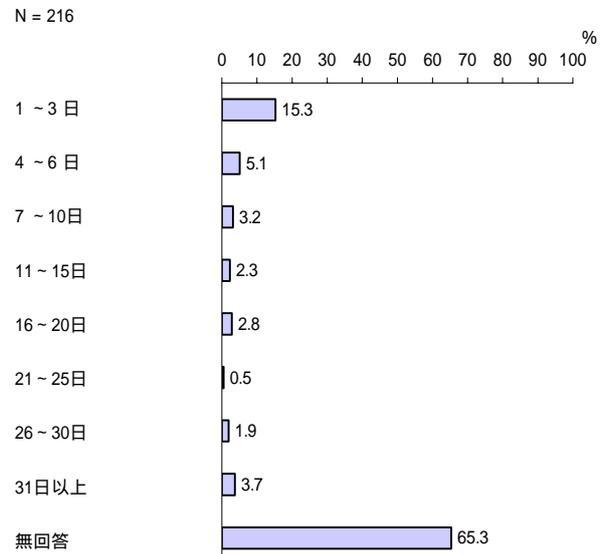
就学前児童では、「1～3日」の割合が8.4%と最も高くなっています。

小学生では、「1～3日」の割合が15.3%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

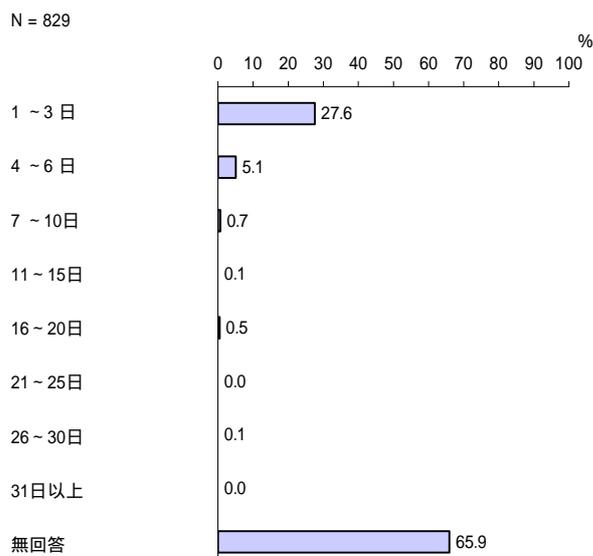


(2) 今後の利用意向 (就学前児童：問 15-1 小学生：問 12-1)

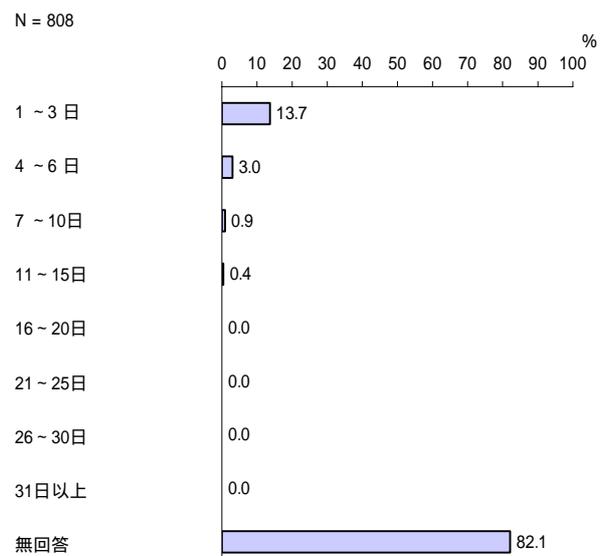
就学前児童では、「1～3日」の割合が27.6%と最も高くなっています。

小学生では、「1～3日」の割合が13.7%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】



6. ショートステイの利用意向

宿泊を伴う一時預かりについては、就学前児童、小学生ともに、「なかった」の割合が約8割近くであったものの、宿泊を伴う一時預かりの経験のある人では、「親族や知人に預けた」の割合が9割を超えており、公的な保育サービスに依存せず親族や知人に預けることで対応している現状がうかがえます。

(1) 宿泊を伴う一時預かりの経験（就学前児童：問16 小学生：問13）

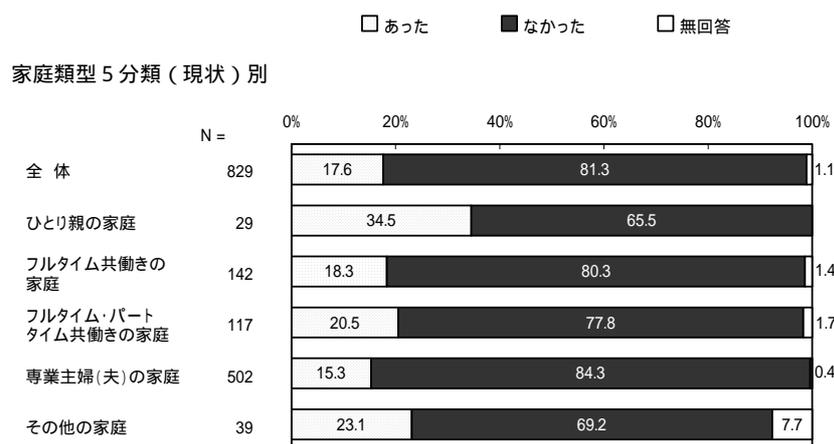
就学前児童では、「あった」の割合が17.6%、「なかった」の割合が81.3%となっています。

小学生では、「あった」の割合が12.9%、「なかった」の割合が86.0%となっています。

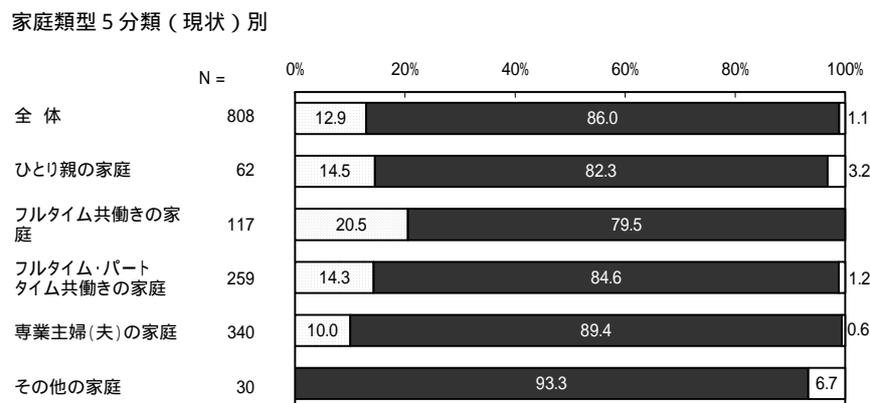
就学前児童の家庭類型5分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べひとり親の家庭で「あった」の割合が高くなっています。

小学生の家庭類型5分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭で「あった」の割合が高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】



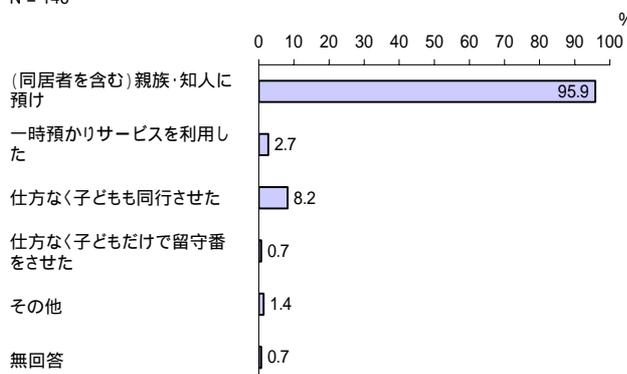
(2) この1年間の対処 (就学前児童 : 問 16-1 小学生 : 問 13-1)

就学前児童では、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」の割合が95.9%と最も高くなっています。

小学生では、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」の割合が96.2%と最も高くなっています。

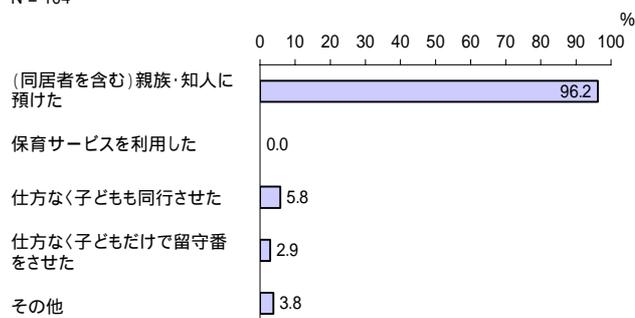
【就学前児童】

N = 146



【小学生】

N = 104

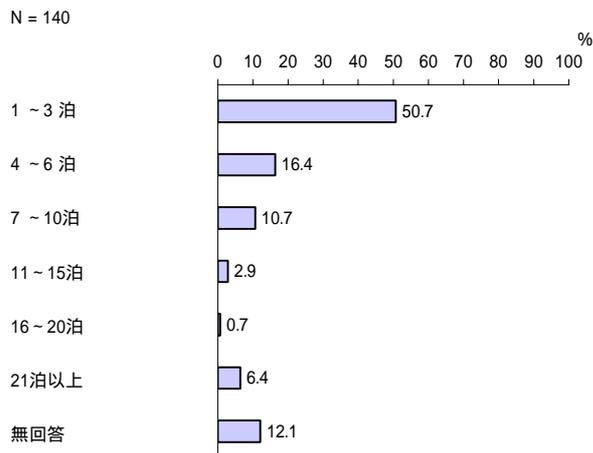


(同居者を含む) 親族・知人に預けた泊数

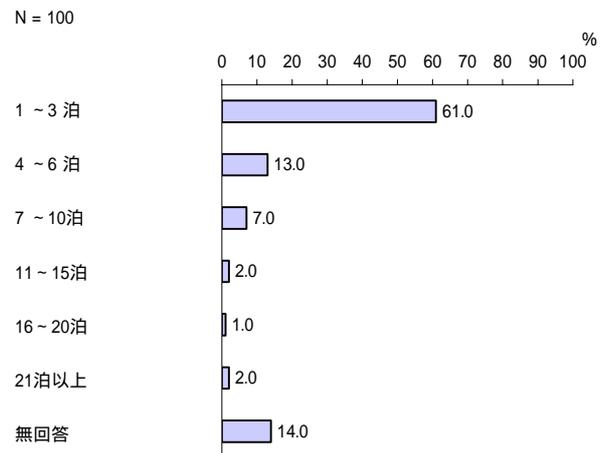
就学前児童では、「1～3泊」の割合が50.7%と最も高く、次いで「4～6泊」の割合が16.4%、「7～10泊」の割合が10.7%となっています。

小学生では、「1～3泊」の割合が61.0%と最も高く、次いで「4～6泊」の割合が13.0%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



一時預かりサービスを利用した泊数

就学前児童では、「1～3泊」が2件、「21泊以上」が1件となっています。

小学生では、回答がありませんでした。

仕方なく子どもを同行させた泊数

就学前児童では、「1～3泊」が9件、「4～6泊」が1件となっています。

小学生では、「1～3泊」が3件、「4～6泊」が2件となっています。

仕方なく子どもだけで留守番をさせた泊数

就学前児童では、回答がありませんでした。

小学生では、「1～3泊」が1件となっています。

その他の泊数

就学前児童では、「1～3泊」が2件となっています。

小学生では、「1～3泊」「4～6泊」「7～10泊」「21泊以上」がそれぞれ1件となっています。

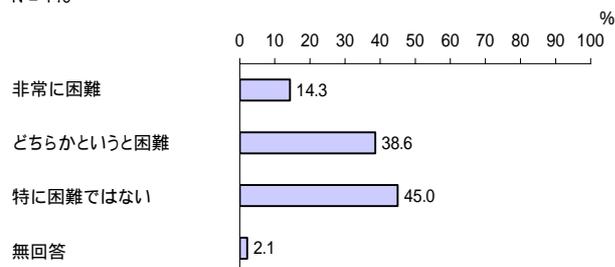
(3) 親族・知人に預ける場合の困難度 (就学前児童：問 16-2 小学生：問 13-2)

就学前児童では、「非常に困難」と「どちらかという困難」をあわせた親族・知人に預けることが困難な人の割合が 52.9%、「特に困難ではない」人の割合が 45.0%となっています。

小学生では、親族・知人に預けることが困難な人の割合が 38.0%、「特に困難ではない」人の割合が 61.0%となっています。

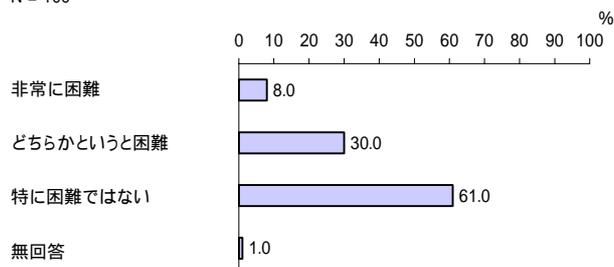
【就学前児童】

N = 140



【小学生】

N = 100



7. 留守家庭児童会の利用状況・利用意向

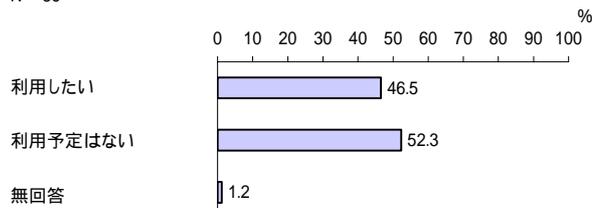
留守家庭児童会の利用状況を見ると、全体で1割弱に留まっているものの、家庭類型5分類(現状)別では“ひとり親の家庭”、“フルタイム共働きの家庭”が他に比べ利用が高くなっています。また、留守家庭児童会に今後希望することについて、「利用できる学年を延長する」の割合が5割を超えており、今後も一層の充実が求められます。

(1) 小学校入学以降の留守家庭児童会の利用意向(就学前児童:問17)

就学前児童では、「利用したい」の割合が46.5%、「利用予定はない」の割合が52.3%となっています。

【就学前児童】

N = 86

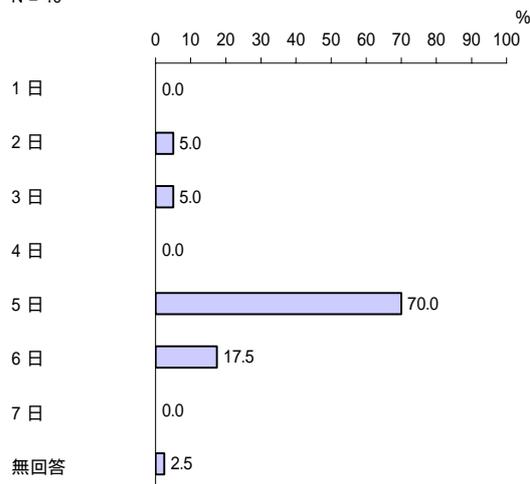


利用希望日数

就学前児童では、「5日」の割合が70.0%と最も高く、次いで「6日」の割合が17.5%となっています。

【就学前児童】

N = 40

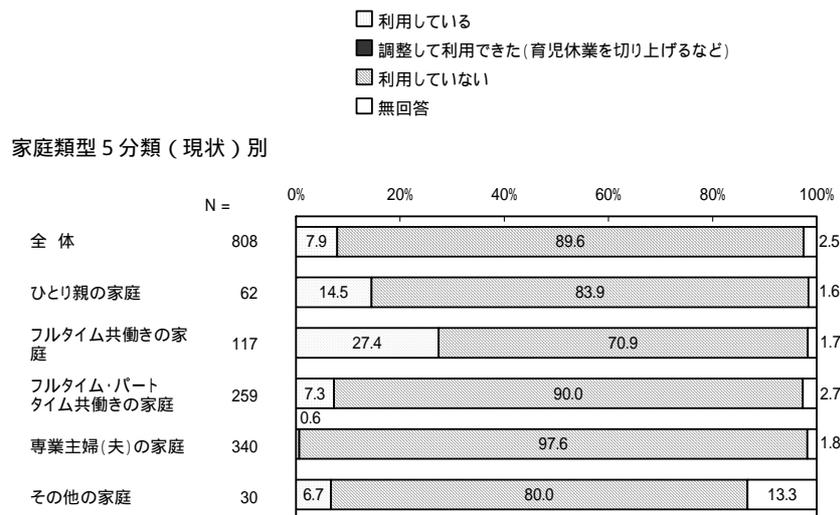


(2) 留守家庭児童会の利用状況(小学生:問10)

小学生では、「利用している」の割合が7.9%、「利用していない」の割合が89.6%となっています。

小学生の家庭類型5分類(現状)別で見ると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭で「利用している」の割合が高くなっています。

【小学生】

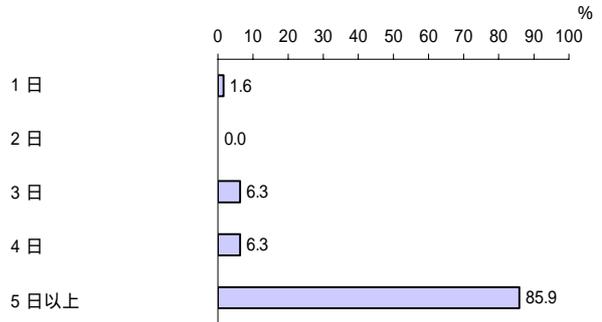


(3) 留守家庭児童会の利用日数 (小学生 : 問 10-1)

小学生では、「5日以上」の割合が85.9%と最も高くなっています。

【小学生】

N = 64

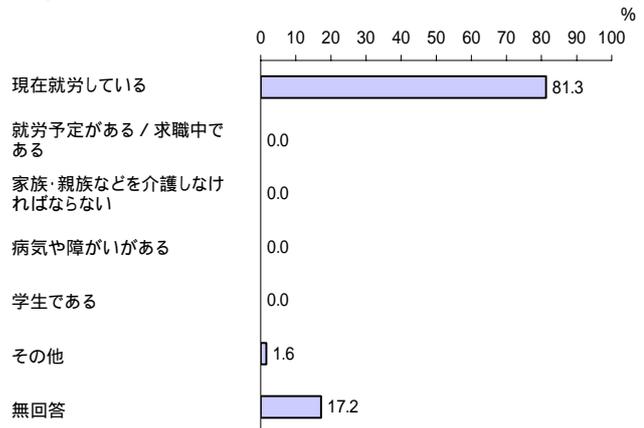


(4) 留守家庭児童会を利用している理由 (小学生 : 問 10-1)

小学生では、「現在就労している」の割合が81.3%となっています。

【小学生】

N = 64

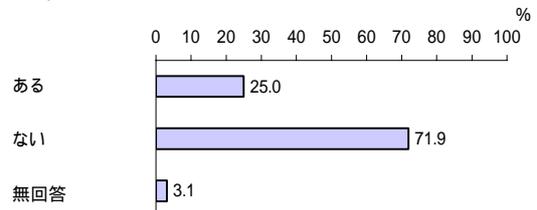


(5) 土曜日の留守家庭児童会の利用状況 (小学生 : 問 10-1)

小学生では、「ある」の割合が25.0%、「ない」の割合が71.9%となっています。

【小学生】

N = 64



(6) 土曜日に留守家庭児童会を利用していない理由 (小学生：問 10-2)

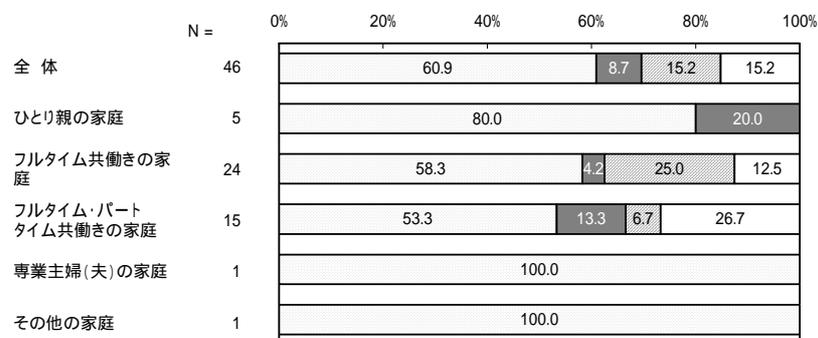
小学生では、「その他」を除くと、「土曜日は子どもの世話をする者がいるから」の割合が60.9%となっています。

小学生の家庭類型5分類(現状)別でみると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭、フルタイム・パートタイム共働きの家庭で「土曜日は子どもの世話をする者がいるから」の割合が5割を超えています。

【小学生】

- 土曜日は子どもの世話をする者がいるから
- 留守家庭児童会が開所していないから
- ▨ 留守家庭児童会の開所時間が短いから
- 利用料が別途かかるから
- ▨ その他
- 無回答

家庭類型5分類(現状)別



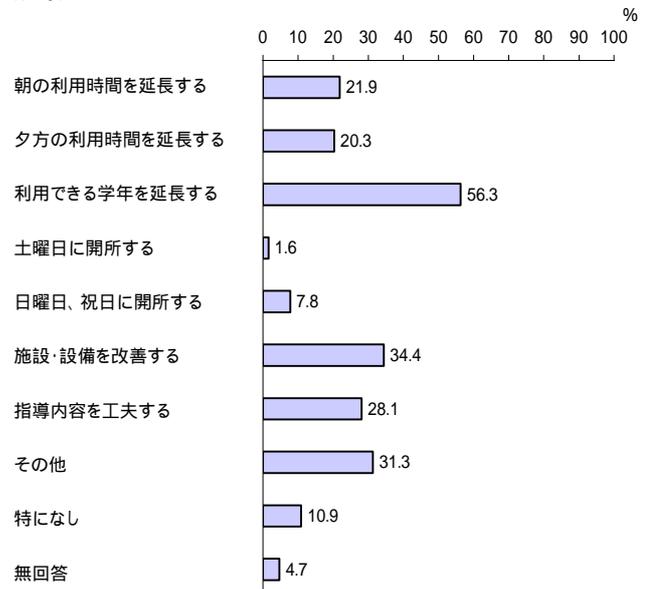
(7) 留守家庭児童会に今後希望すること (小学生：問 10-3)

小学生では、「利用できる学年を延長する」の割合が56.3%と最も高く、次いで「施設・設備を改善する」の割合が34.4%、「指導内容を工夫する」の割合が28.1%となっています。

その他意見として、「安心できる人員配置」「指導員をたくさん配置して、子どもを手厚く見守ってほしい」「校外での活動などが規制されているので、戻してほしい」などがあります。

【小学生】

N = 64



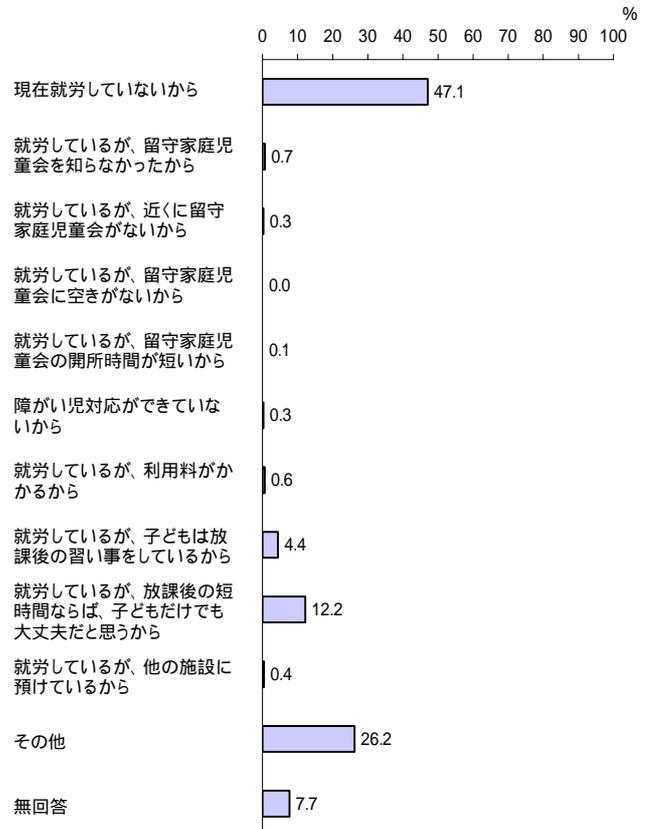
(8) 留守家庭児童会を利用していない理由 (小学生：問 10-4)

小学生では、「その他」を除くと、「現在就労していないから」の割合が47.1%と最も高く、次いで「就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思うから」の割合が12.2%となっています。

その他意見として、「対象年齢ではないから」「就労しているが子どもが帰る前に帰宅するから」「行事、役員が大変だから」「預ける時間が短すぎて、他の施設に預けているから」などがあります。

【小学生】

N = 724

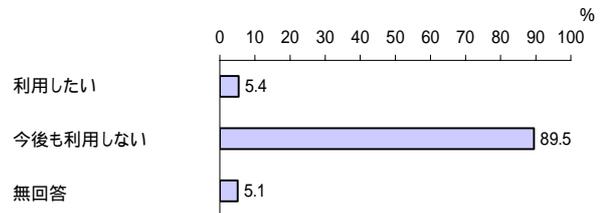


(9) 留守家庭児童会の今後の利用意向 (小学生 : 問 10-5)

小学生では、「利用したい」の割合が 5.4%、「今後も利用しない」の割合が 89.5%となっています。

【小学生】

N = 724

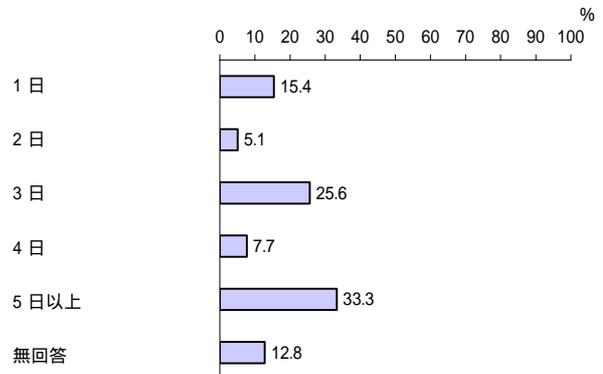


(10) 留守家庭児童会の利用希望日数 (小学生 : 問 10-5)

小学生では、「5 日以上」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「3 日」の割合が 25.6%、「1 日」の割合が 15.4%となっています。

【小学生】

N = 39



(11) 土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童会の利用意向 (小学生 : 問 10-5)

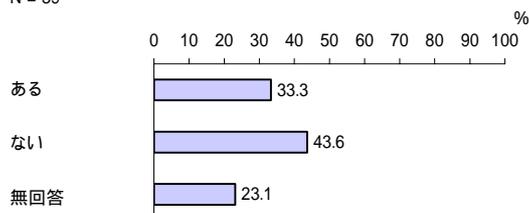
土曜日の利用については、小学生では、「ある」の割合が 33.3%、「ない」の割合が 43.6%となっています。

日曜日・祝日の利用については、小学生では、「ある」の割合が 5.1%、「ない」の割合が 59.0%となっています。

【小学生】

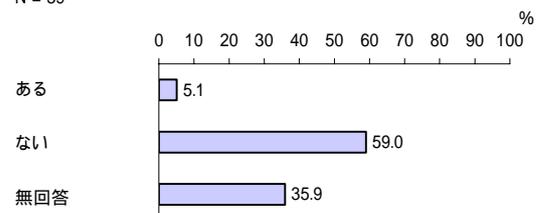
< 土曜日 >

N = 39



< 日曜日・祝日 >

N = 39

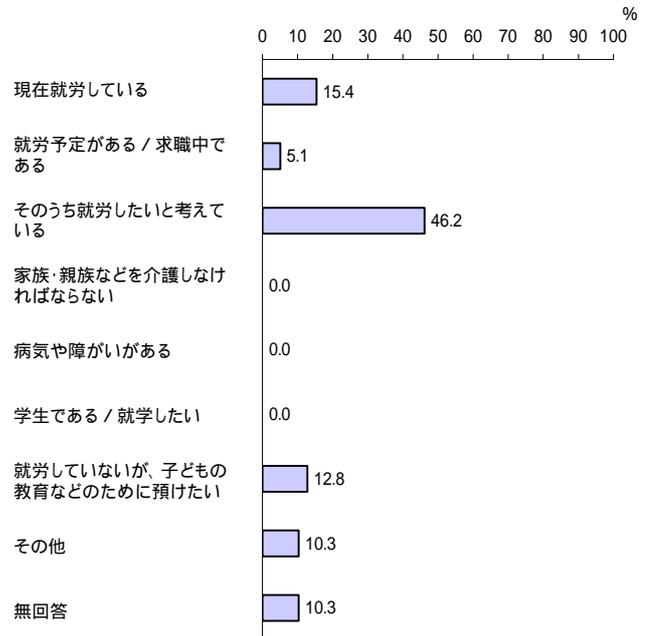


(12) 今後、留守家庭児童会を利用したい理由 (小学生：問 10-6)

小学生では、「そのうち就労したいと考えている」の割合が 46.2%と最も高く、次いで「現在就労している」の割合が 15.4%、「就労していないが、子どもの教育などのために預けたい」の割合が 12.8%となっています。

【小学生】

N = 39



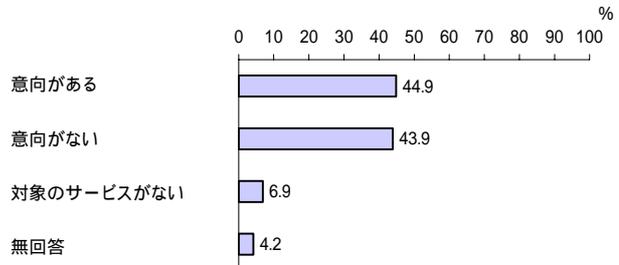
(13) 放課後子ども教室の利用意向 (小学生：問 10-7)

放課後子ども教室の利用意向

小学生では、「意向がある」の割合が 44.9%、「意向がない」の割合が 43.9%となっています。

【小学生】

N = 808

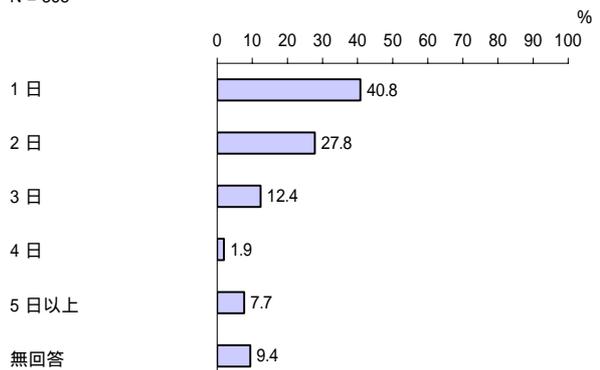


1 週間の利用希望日数

小学生では、「1日」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「2日」の割合が 27.8%、「3日」の割合が 12.4%となっています。

【小学生】

N = 363



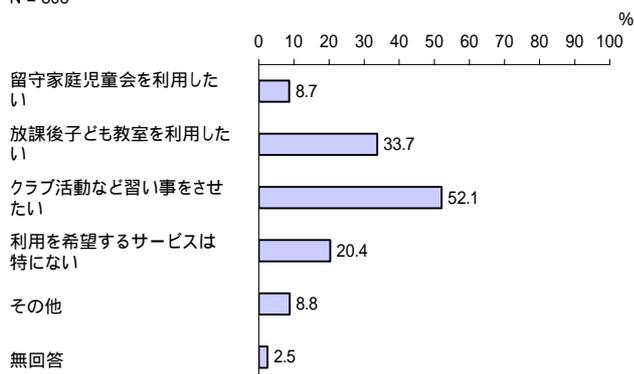
(14) 小学4年生以降の放課後の過ごし方の意向 (小学生：問10-8)

小学生では、「クラブ活動など習い事をさせたい」の割合が52.1%と最も高く、次いで「放課後子ども教室を利用したい」の割合が33.7%、「利用を希望するサービスは特にない」の割合が20.4%となっています。

留守家庭児童会を何年生まで利用したいかについては、「6年生」の割合が75.7%と最も高く、次いで「4年生」の割合が15.7%となっています。

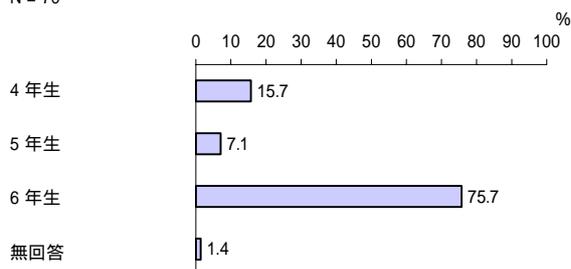
【小学生】

N = 808



留守家庭児童会を何年生まで利用したいか

N = 70



8 . ベビーシッターの利用状況

ベビーシッターについては、現在「利用している」の割合が、就学前児童、小学生ともにごくわずかとなっています。さらに、今後の利用意向についても、9割以上が無回答となっていますが、今後、多様化する保育ニーズに対し対応できるようベビーシッターのサービス内容等についての普及・啓発が必要です。

(1) ベビーシッターを利用する目的 (就学前児童:問 18 小学生 : 問 14)

就学前児童では、「保育施設等の利用で足りない時間を補う目的で利用している(朝・夕等)」「子どもの病気・ケガ等の緊急時に利用している」がともに4件、「その他」が2件、「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」が1件となっています。

小学生では、「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」「その他」がともに2件となっています。

(2) ベビーシッターの利用頻度 (就学前児童:問 18-1 小学生 : 問 14-1)

ベビーシッターの1か月あたりの利用回数については、就学前児童では、「1~2日」が4件、「11日以上」が1件となっています。

小学生では、回答がありませんでした。

1回当たりの利用時間については、就学前児童では、「2~4時間未満」が4件、「4~6時間未満」が3件、「8~10時間未満」が2件、「10時間以上」が1件となっています。

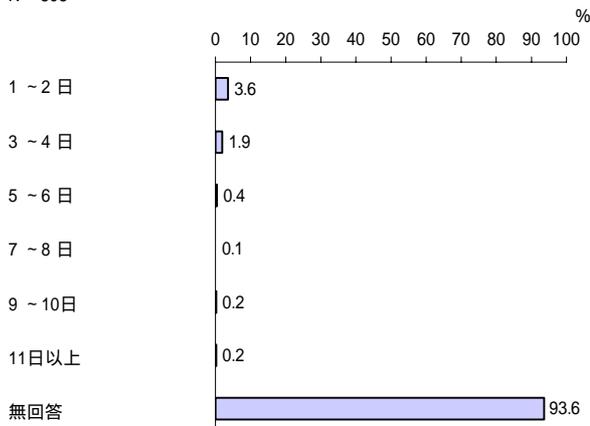
小学生で、「2~4時間未満」が1件となっています。

(3) 今後の利用意向 (小学生 : 問 14-2)

小学生で、「1~2日」の割合が3.6%と最も高く、次いで「3~4日」の割合が1.9%、「5~6日」の割合が0.4%となっています。

【小学生】

N = 808



9. ファミリーサポートセンターの利用状況

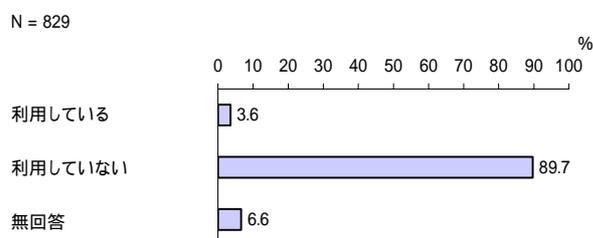
ファミリーサポートセンターについては、現在「利用している」の割合が、就学前児童、小学生ともにごくわずかとなっています。さらに、今後の利用意向についても、8割以上が無回答となっています。今後、サービス提供をする中で、ファミリーサポートセンターのサービス内容や仕組みについての普及・啓発が必要です。

(1) ファミリーサポートセンターの利用状況 (就学前児童:問 19 小学生:問 15)

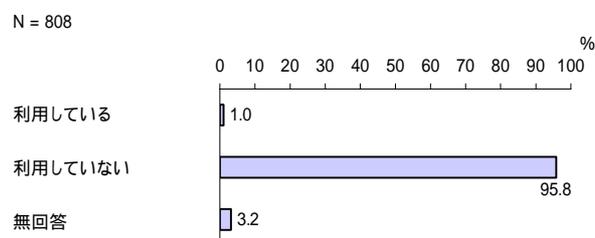
就学前児童では、「利用している」の割合が3.6%、「利用していない」の割合が89.7%となっています。

小学生では、「利用している」の割合が1.0%、「利用していない」の割合が95.8%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



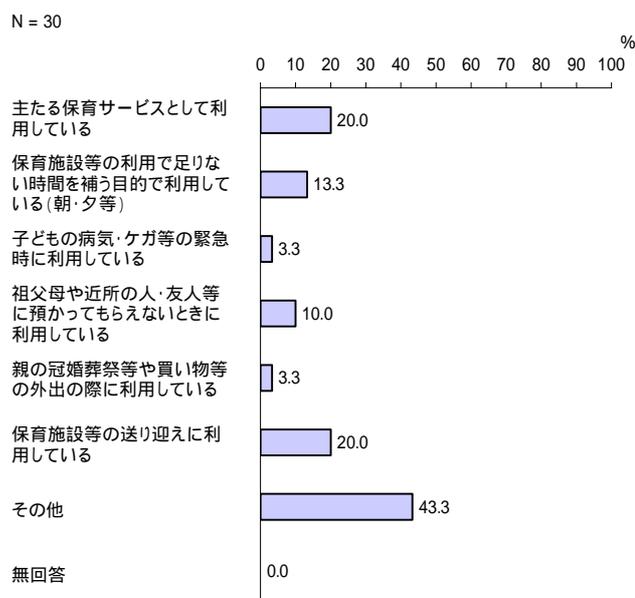
(2) ファミリーサポートセンターの利用目的 (就学前児童:問 19-1 小学生:問 15-1)

就学前児童では、「主たる保育サービスとして利用している」「保育施設等の送り迎えに利用している」の割合がともに20.0%と最も高く、次いで「保育施設等の利用で足りない時間を補う目的で利用している(朝・夕等)」の割合が13.3%となっています。

その他意見として、「登録しているが、まだ利用する機会がない」「上の子の参観日や個人面談の時など」があります。

小学生では、「留守家庭児童会等の利用で足りない時間を補う目的で利用している(朝・夕等)」「学校等の送り迎えに利用している」がともに4件、「主たる預かりサービスとして利用している」「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」「その他」がそれぞれ1件となっています。

【就学前児童】



(3) ファミリーサポートセンターの利用頻度 (就学前児童:問 19-2 小学生:問 15-2)

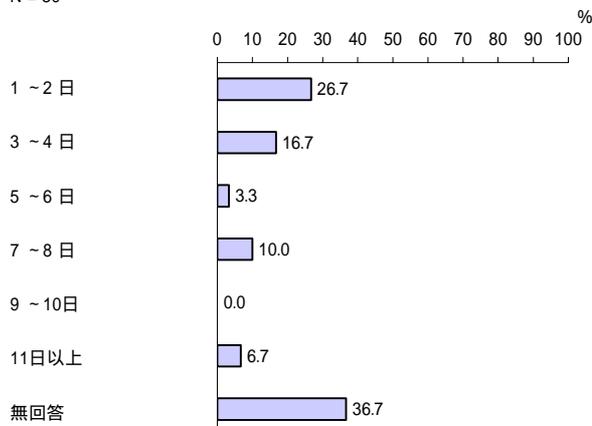
1 か月当たりの利用日数

就学前児童では、「1~2日」の割合が26.7%と最も高く、次いで「3~4日」の割合が16.7%、「7~8日」の割合が10.0%となっています。

小学生では、8件の回答があり、「1~2日」が3件、「3~4日」「9~10日」がともに2件、「11日以上」が1件となっています。

【就学前児童】

N = 30



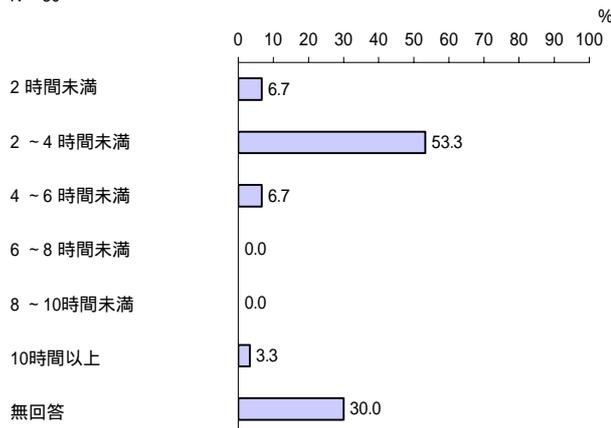
1 回当たりの利用時間

就学前児童では、「2~4時間未満」の割合が53.3%と最も高くなっています。

小学生では、「2~4時間未満」が5件、「2時間未満」が2件、「4~6時間未満」が1件となっています。

【就学前児童】

N = 30



(4) ファミリーサポートセンターの利用日数・回数の増加 (就学前児童:問 19-3 小学生:問 15-3)

1 か月当たりの利用希望日数

就学前児童では、「1~2日」「7~8日」「11日以上」がそれぞれ2件となっています。

小学生では、「5~6日」「9~10日」がともに1件となっています。

1 回当たりの利用希望時間

就学前児童では、「2~4時間未満」が3件、「4~6時間未満」「10時間以上」がともに1件となっています。

小学生では、「2~4時間未満」「4~6時間未満」がともに1件となっています。

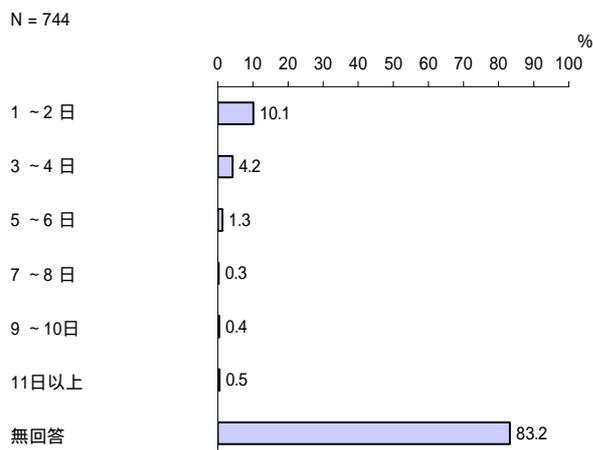
(5) 今は利用していない人のファミリーサポートセンターの利用意向(就学前児童:問19-4 小学生:問15-4)

1か月当たりの利用希望日数

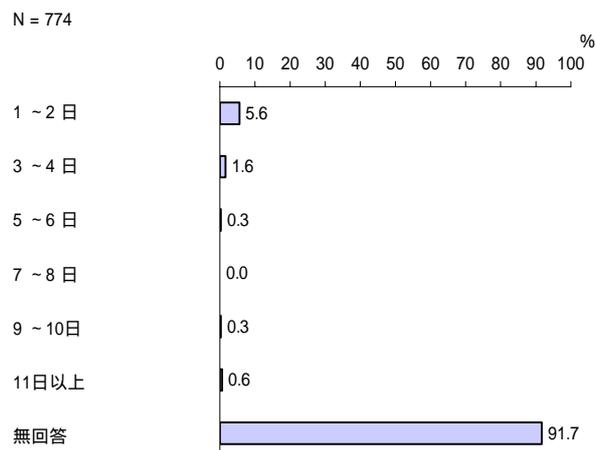
就学前児童では、「1～2日」の割合が10.1%と最も高くなっています。

小学生では、「1～2日」の割合が5.6%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

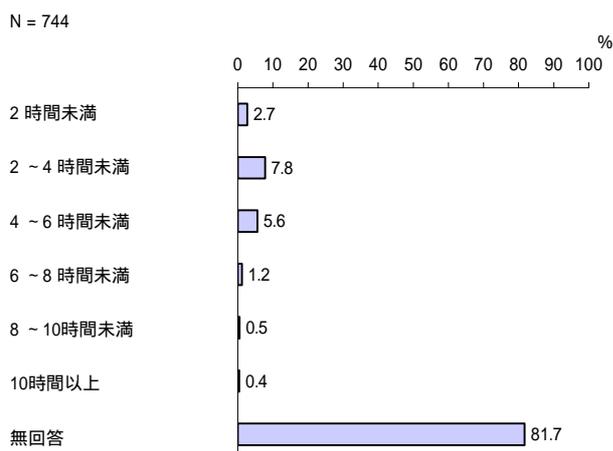


1回当たりの利用希望時間

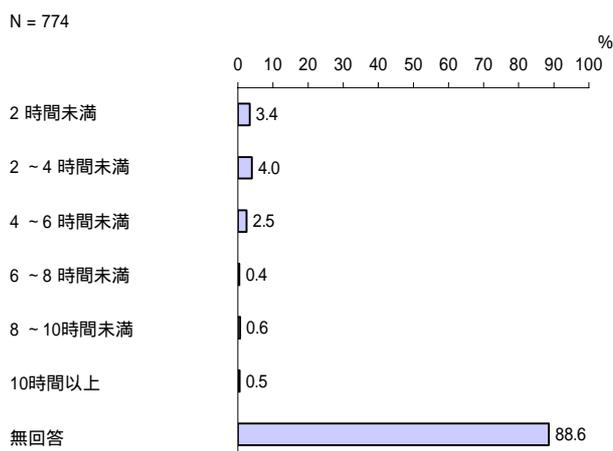
就学前児童では、「2～4時間未満」の割合が7.8%と最も高くなっています。

小学生では、「2～4時間未満」の割合が4.0%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】



10. 地域子育て支援拠点事業の利用状況

地域子育て支援拠点事業の利用状況を見ると、「利用していない」の割合が7割強となっています。今後の利用意向についても、「特にない」の割合が6割を超えています。これは、利用していない理由の「特に理由はない」の割合が最も高くなっていることから、地域子育て支援拠点事業のサービス内容が周知されていない可能性があります。

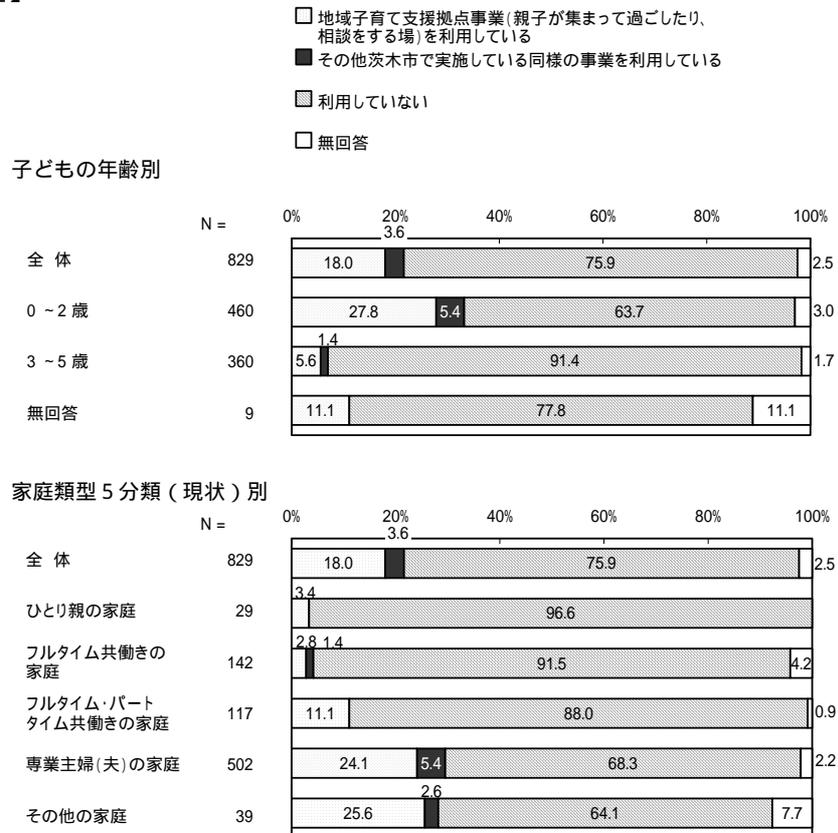
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前児童：問20）

就学前児童では、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）を利用している」の割合が18.0%、「その他茨木市で実施している同様の事業を利用している」の割合が3.6%、「利用していない」の割合が75.9%となっています。

就学前児童の子どもの年齢別でみると、3～5歳に比べ0～2歳で「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）を利用している」の割合が高くなっています。

就学前児童の家庭類型5分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べ専業主婦（夫）で「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）を利用している」の割合が高くなっています。

【就学前児童】

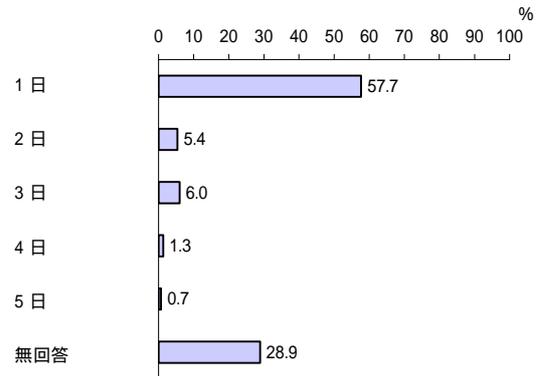


地域子育て支援拠点事業 1週あたりの利用日数

就学前児童では、「1日」の割合が57.7%と最も高くなっています。

【就学前児童】

N = 149

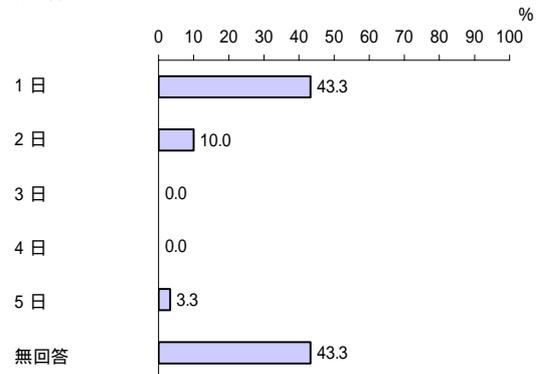


茨木市で実施している同様の事業 1週あたりの利用日数

就学前児童では、「1日」の割合が43.3%、「2日」の割合が10.0%となっています。

【就学前児童】

N = 30

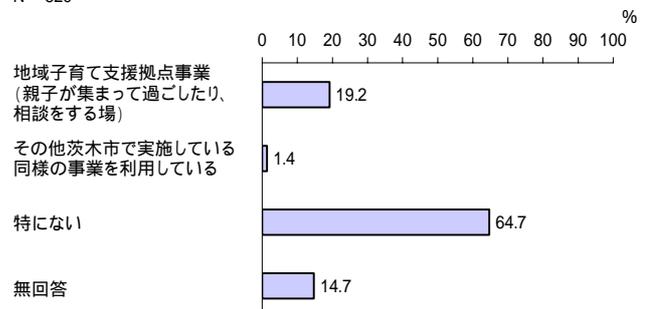


(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向 (就学前児童：問20-1)

就学前児童では、「特にない」の割合が64.7%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をする場)」の割合が19.2%、「その他茨木市で実施している同様の事業を利用している」の割合が1.4%となっています。

【就学前児童】

N = 829



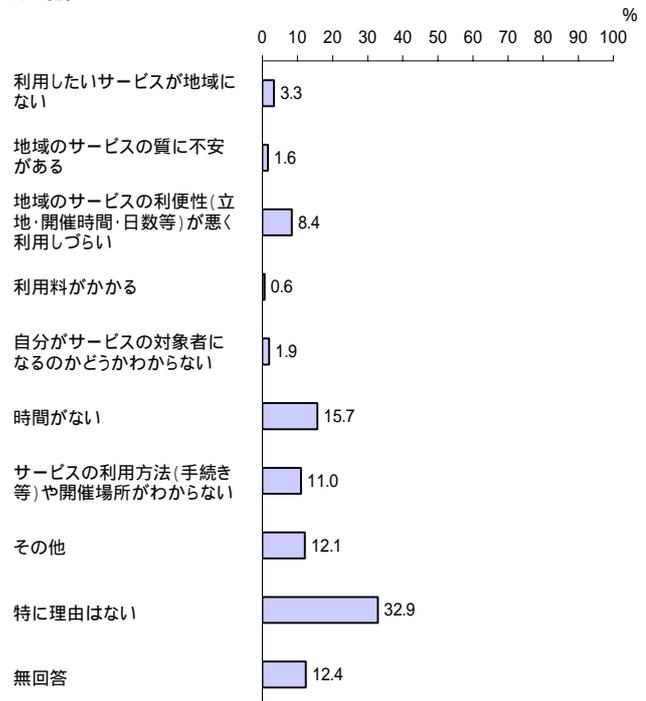
(3) 地域子育て支援拠点事業を利用していない理由 (就学前児童：問 20-2)

就学前児童では、「特に理由はない」の割合が32.9%と最も高く、次いで「時間がない」の割合が15.7%、「サービスの利用方法(手続き等)や開催場所がわからない」の割合が11.0%となっています。

その他意見として、「以前つどいの広場を利用していたが、入園を際に利用できる時間がなくなった」「保健所でいろいろ相談にのってもらえるから」「幼稚園に通っているのも特に必要ないから」などがあります。

【就学前児童】

N = 629



11. 育児休業制度の利用状況等

育児休業制度の利用状況を見ると、「利用しなかった」の割合が8割弱となっており、利用の低さが課題となっています。また、利用した人でも、育児休業明けの保育サービスの利用について、「育児休業期間を調整せずに利用できた」の割合が3割強にとどまっており、育児休業明けにスムーズに就労へ復帰できていない現状がうかがえます。

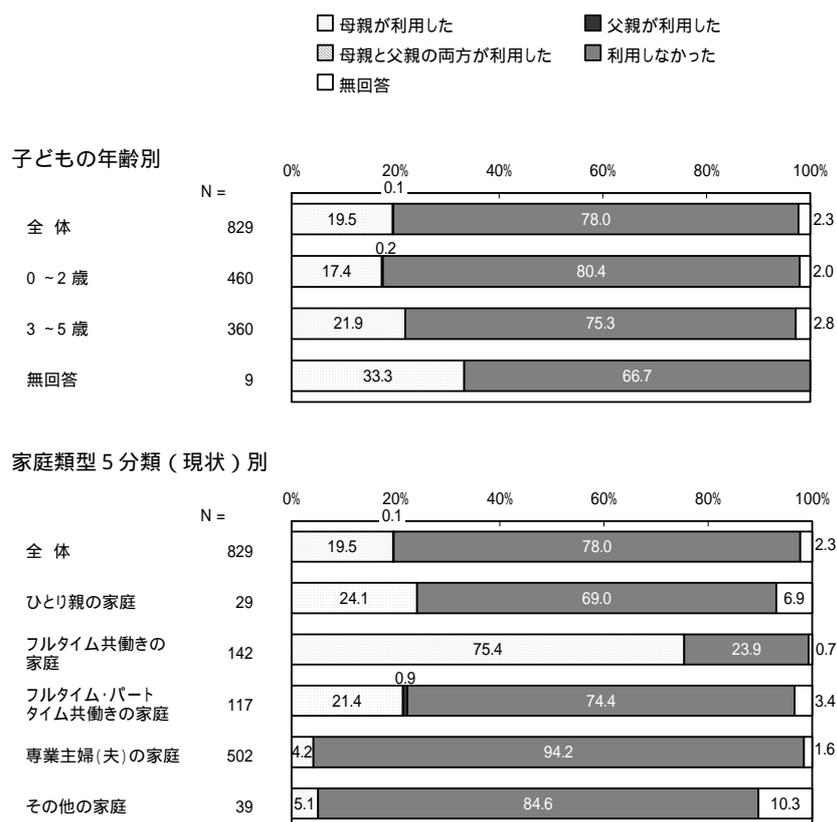
(1) 育児休業制度の利用状況（就学前児童：問43）

就学前児童では、「利用しなかった」の割合が78.0%と最も高く、次いで「母親が利用した」の割合が19.5%となっています。

就学前児童の子どもの年齢別でみると、大きな差異は見られません。

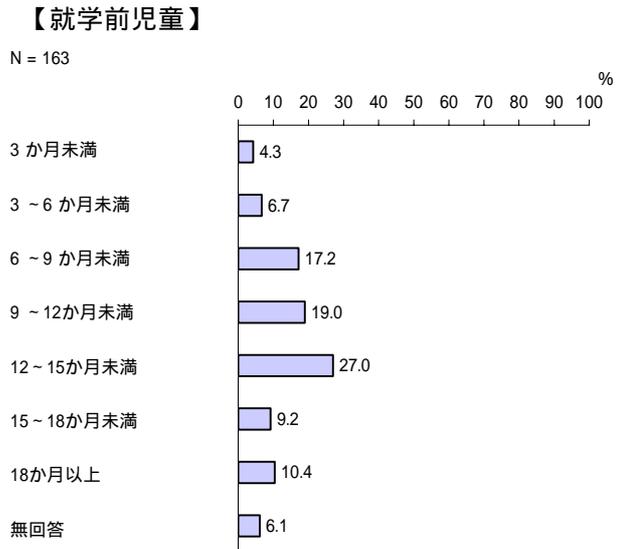
就学前児童の家庭類型5分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭で「母親が利用した」の割合が高くなっています。

【就学前児童】



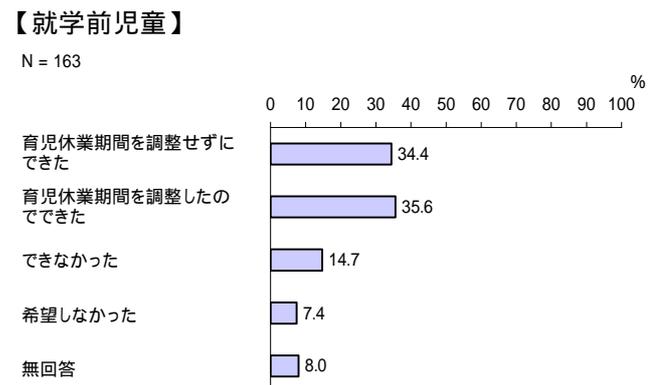
(2) 育児休業から復帰したときの子どもの月齢 (就学前児童 : 問 43-1)

就学前児童では、「12～15か月未満」の割合が27.0%と最も高く、次いで「9～12か月未満」の割合が19.0%、「6～9か月未満」の割合が17.2%となっています。



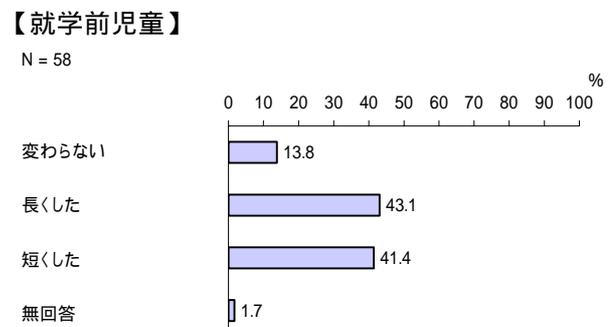
(3) 育児休業明けに希望した保育サービスの利用状況 (就学前児童 : 問 43-2)

就学前児童では、「育児休業期間を調整したのでできた」の割合が35.6%と最も高く、次いで「育児休業期間を調整せずにできた」の割合が34.4%、「できなかった」の割合が14.7%となっています。



(4) 保育サービスを確実に受けられた場合の育児休業期間 (就学前児童 : 問 43-3)

就学前児童では、「長くした」の割合が43.1%と最も高く、次いで「短くした」の割合が41.4%、「変わらない」の割合が13.8%となっています。

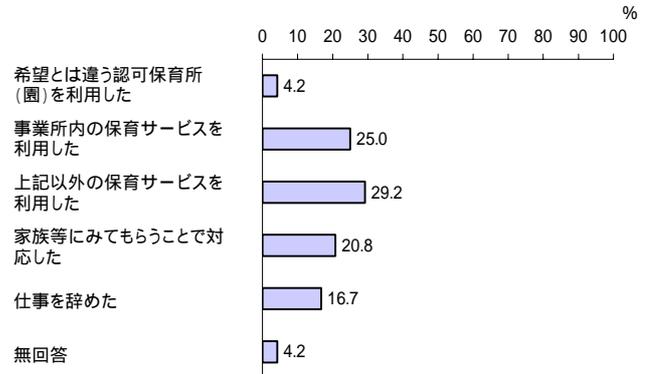


(5) 希望する保育サービスを利用できなかったときの対応 (就学前児童 : 問 43-4)

就学前児童では、「上記以外の保育サービスを利用した」の割合が 29.2%と最も高く、次いで「事業所内の保育サービスを利用した」の割合が 25.0%、「家族等にみてもらうことで対応した」の割合が 20.8%となっています。

【就学前児童】

N = 24



「上記以外の保育サービス」とは、「認可保育所(園)」「事業所内の保育サービス」以外の保育サービスを指します。

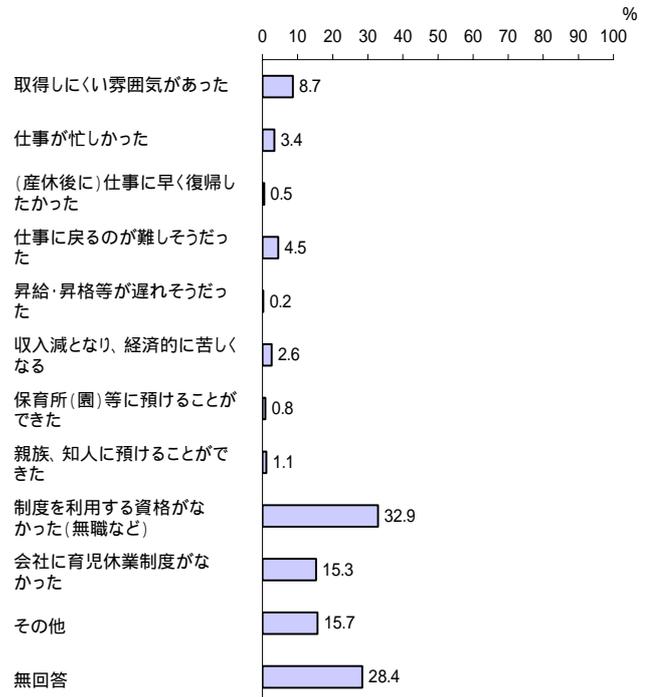
(6) 母親の育児休業を取得しなかった理由 (就学前児童 : 問 43-5)

就学前児童では、「制度を利用する資格がなかった(無職など)」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「会社に育児休業制度がなかった」の割合が 15.3%となっています。

その他意見として、「子育てに専念したいため、自ら離職した」などがあります。

【就学前児童】

N = 645

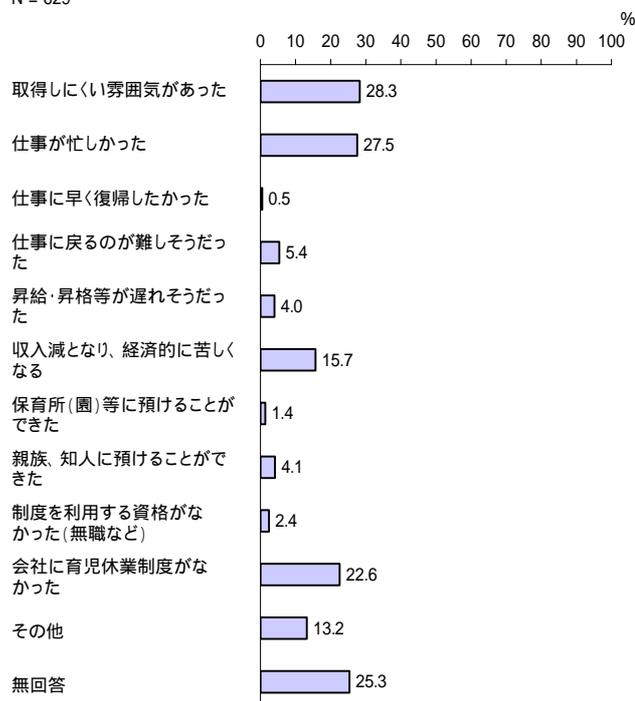


(7) 父親の育児休業を取得しなかった理由 (就学前児童：問 43-6)

就学前児童では、「取得しにくい雰囲気があった」の割合が 28.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」の割合が 27.5%、「会社に育児休業制度がなかった」の割合が 22.6%となっています。

【就学前児童】

N = 629

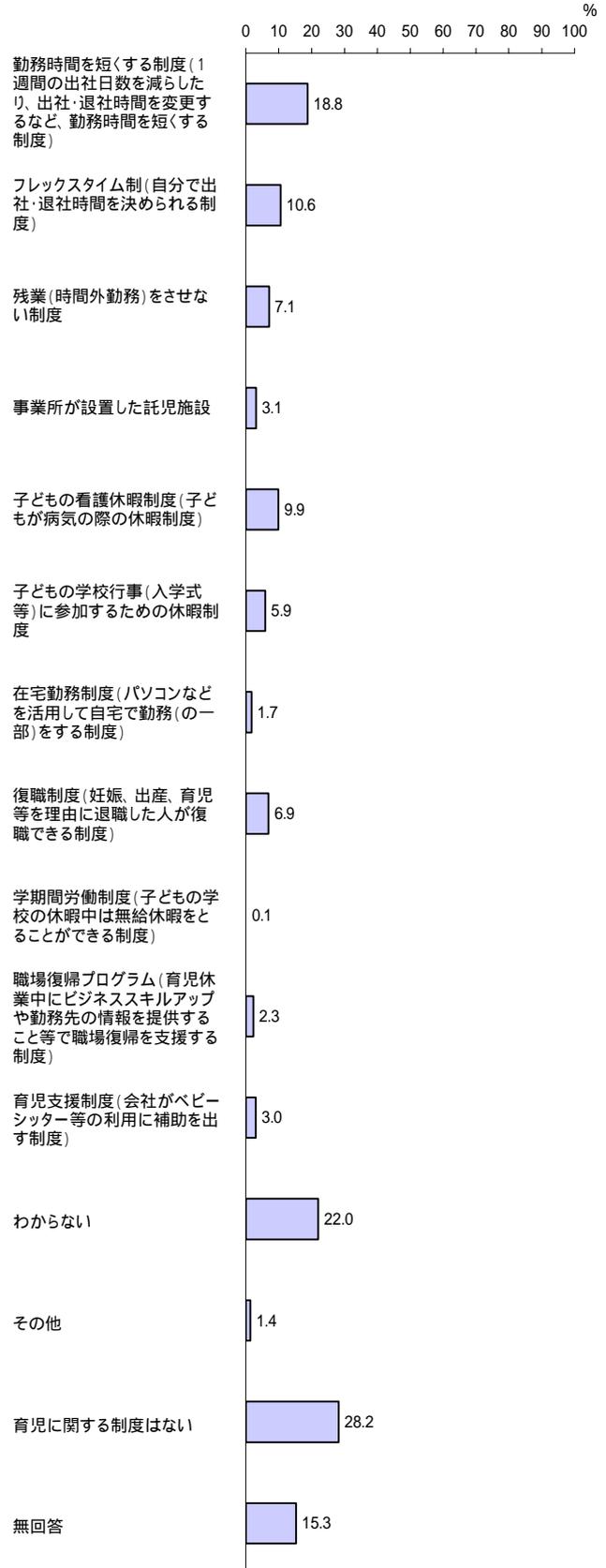


(8) 勤務先にある育児休業以外の育児のための制度 (就学前児童 : 問 44)

就学前児童では、「育児に関する制度はない」の割合が28.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が22.0%、「勤務時間を短くする制度(1週間の出勤日数を減らしたり、入社・退社時間を変更するなど、勤務時間を短くする制度)」の割合が18.8%となっています。

【就学前児童】

N = 829



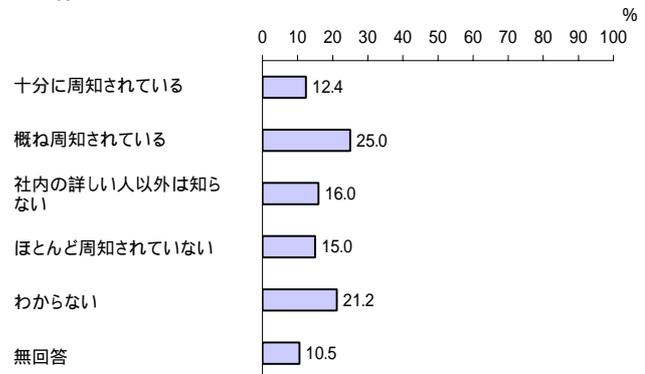
(9)勤務先の育児支援制度の周知状況・利用のしやすさ・満足度(就学前児童:問44-1)

周知状況

就学前児童では、「概ね周知されている」の割合が25.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が21.2%、「社内の詳しい人以外は知らない」の割合が16.0%となっています。

【就学前児童】

N = 468

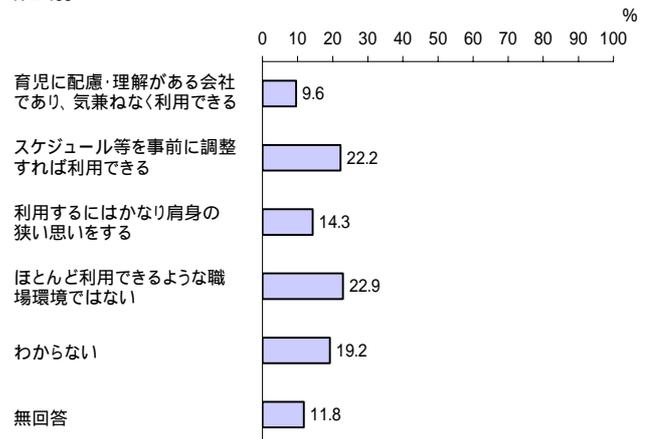


利用しやすさ

就学前児童では、「ほとんど利用できるような職場環境ではない」の割合が22.9%と最も高く、次いで「スケジュール等を事前に調整すれば利用できる」の割合が22.2%、「わからない」の割合が19.2%となっています。

【就学前児童】

N = 468

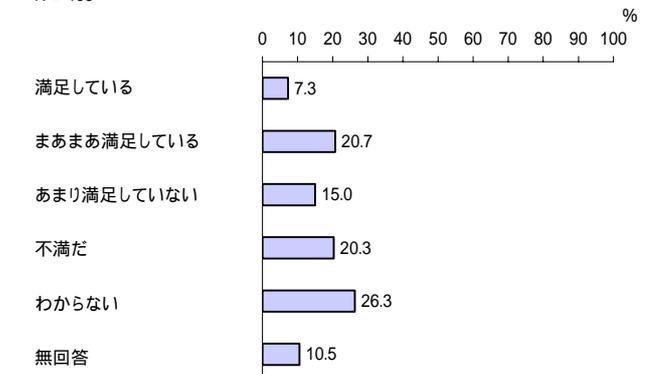


満足度

就学前児童では、「わからない」の割合が26.3%と最も高く、次いで「まあまあ満足している」の割合が20.7%、「不満だ」の割合が20.3%となっています。

【就学前児童】

N = 468



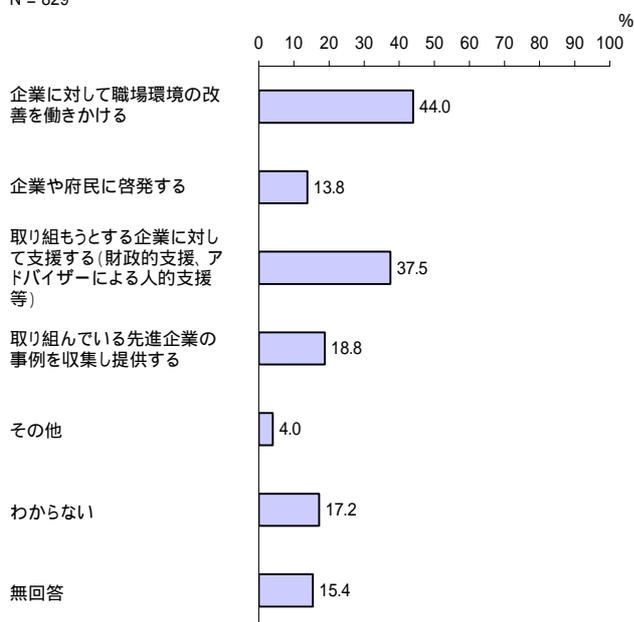
(10) 勤務先での育児休業制度等が進むための行政の取り組み
(就学前児童：問 45 小学生：問 40)

就学前児童では、「企業に対して職場環境の改善を働きかける」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「取り組もうとする企業に対して支援する(財政的支援、アドバイザーによる人的支援等)」の割合が 37.5%、「取り組んでいる先進企業の事例を収集し提供する」の割合が 18.8%となっています。

小学生では、「企業に対して職場環境の改善を働きかける」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「取り組もうとする企業に対して支援する(財政的支援、アドバイザーによる人的支援等)」の割合が 39.4%、「取り組んでいる先進起業の事例を収集し提供する」の割合が 19.1%となっています。

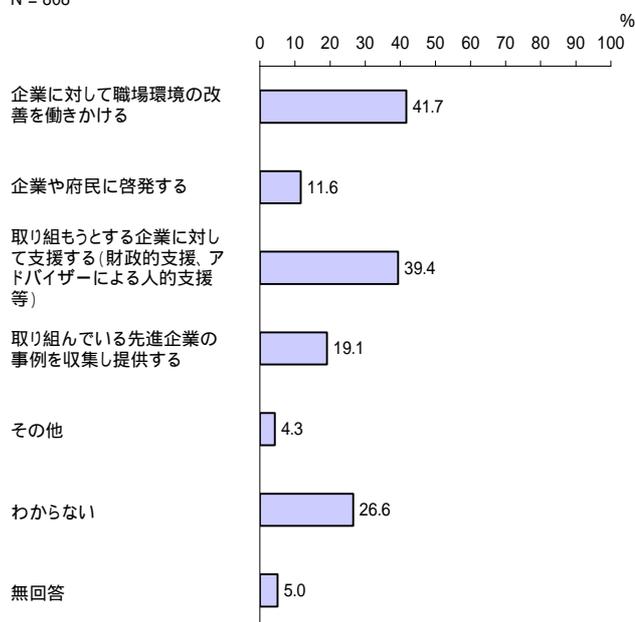
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



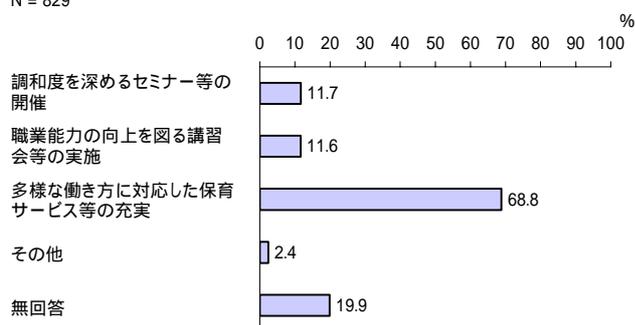
(11) 地域において、仕事と生活の調和の為に必要、あるいは効果があると思われるもの
(就学前児童：問 46 小学生：問 41)

就学前児童では、「多様な働き方に対応した保育サービス等の充実」の割合が 68.8%と最も高く、次いで「調和度を深めるセミナー等の開催」の割合が 11.7%、「職業能力の向上を図る講習会等の実施」の割合が 11.6%となっています。

小学生では、「多様な働き方に対応した保育サービス等の充実」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「職業能力の向上を図る講習会等の実施」の割合が 23.5%、「調和度を深めるセミナー等の開催」の割合が 11.8%となっています。

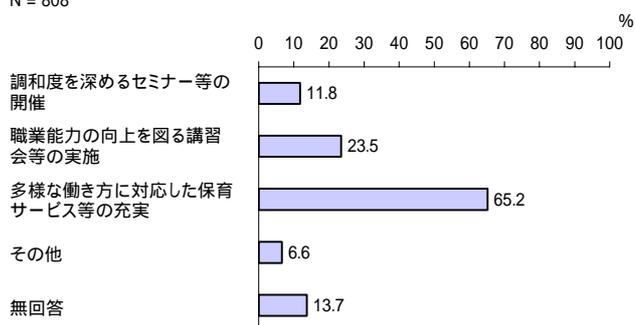
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



12. 子どものふだんの過ごし方

時間帯ごとの子どもの過ごし方をみると、小学生の平日 16 時から 18 時で、「家や公園などで友達と過ごす」の割合が高くなっています。また、子ども同士が交流できる場についての要望として、「子どもが放課後などに集まって子ども同士で自主活動などができる場」を望んでいます。さらに、参加したことはないが今後参加していきたい活動については、「スポーツ活動」「体験活動（ものづくり体験等）」「野外活動（キャンプ等）」の割合が高くなっています。以上の結果から、体験活動を通じ、子ども同士が交流できる場への参加、場所の確保を求めていることがうかがえます。

（1）時間帯ごとの子どもの過ごし方（小学生：問 21）

小学生では、平日 14～18 時を除く時間帯、および休日で「保護者や祖父母等家族親族等（大人）と過ごす」の割合が高く、4 割を超えています。

また、平日 16～18 時で「家や公園などで友達と過ごす」「学習塾や習い事」の割合が、休日で「クラブ活動や地域活動（子ども会活動、スポーツ活動）」の割合が高くなっています。

【小学生】N = 808

単位：%

	学校にいる (授業、遊び)	留守家庭児童会で 過ごす	放課後子ども教室で 過ごす	保護者や祖父母等 家族親族等(大人)と 過ごす	兄弟姉妹等家族親族 等(子ども)と過ごす	ベビーシッターなど と過ごす	家や公園などで 友達と過ごす
平日14～16時	64.6	5.6	0.1	3.0	1.0	-	7.9
平日16～18時	0.1	4.0	0.1	6.6	6.2	-	35.9
平日18～20時	0.4	0.1	0.1	45.8	14.4	-	0.5
平日20時以降	0.2	-	-	58.8	13.9	-	0.2
休日	0.1	0.1	-	46.4	10.8	-	5.1

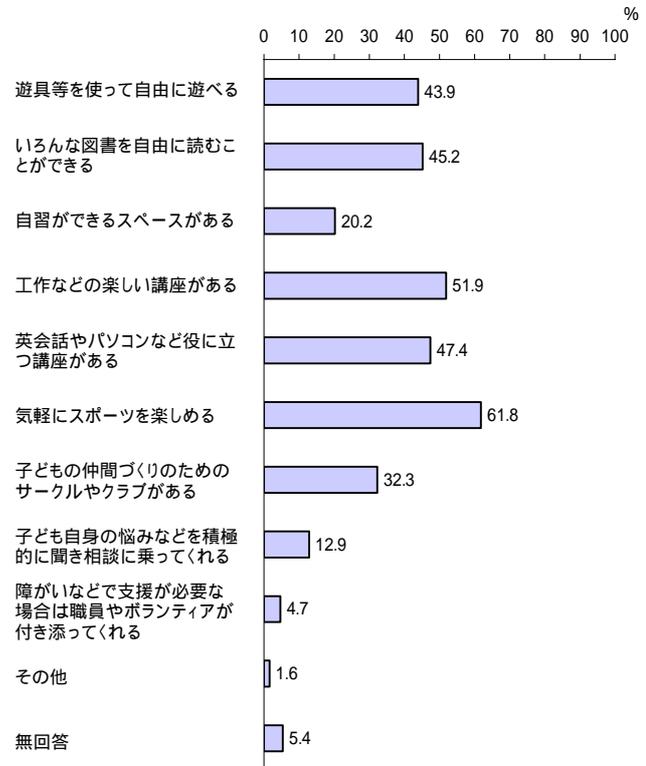
	公共の施設にいる	クラブ活動や地域 活動(子ども会活動、 スポーツ活動)	学習塾や習い事	家で勉強する	家でひとりで過ごす (勉強以外)	その他	無回答
平日14～16時	-	-	1.2	5.7	0.4	0.9	9.7
平日16～18時	-	1.5	18.9	7.7	1.0	1.4	16.7
平日18～20時	-	1.1	7.3	10.9	1.4	1.4	16.7
平日20時以降	-	0.1	0.7	5.0	0.9	4.3	15.8
休日	0.1	12.6	1.9	0.5	0.2	2.1	20.0

(2) 利用してみたい公共施設での企画・サービス (小学生：問 22)

小学生では、「気軽にスポーツを楽しむ」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「工作などの楽しい講座がある」の割合が 51.9%、「英会話やパソコンなど役に立つ講座がある」の割合が 47.4%となっています。

【小学生】

N = 808

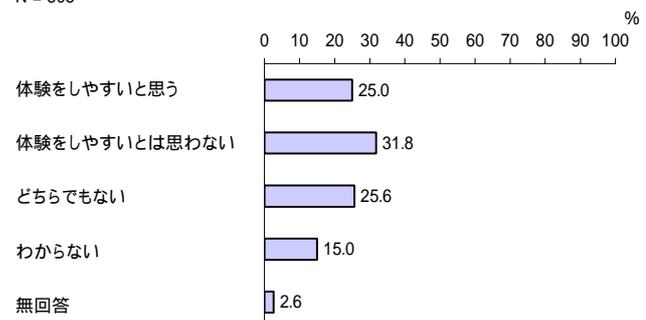


(3) 地域の環境が自然・社会・文化等の体験をしやすい環境であるか (小学生：問 23)

小学生では、「体験をしやすいとは思わない」の割合が 31.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」の割合が 25.6%、「体験をしやすいと思う」の割合が 25.0%となっています。

【小学生】

N = 808



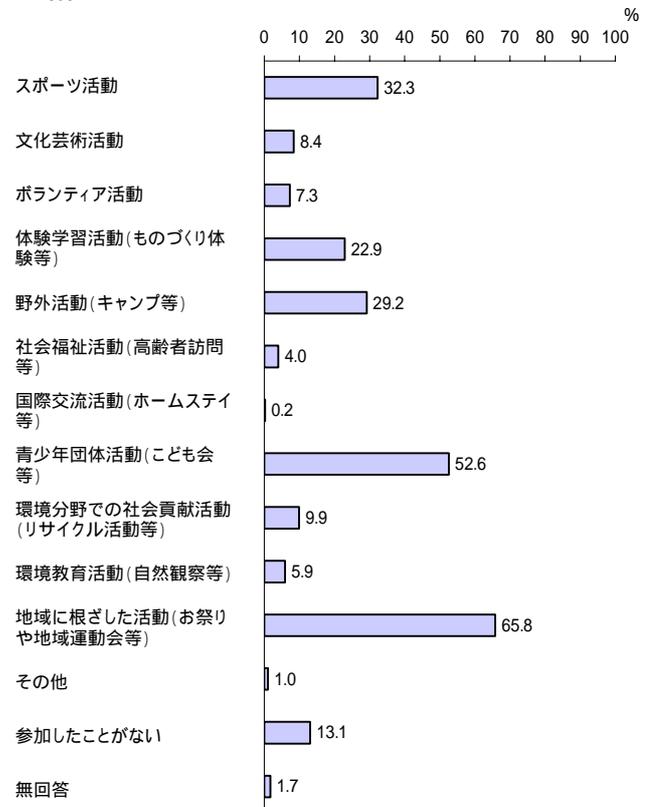
(4) 参加したことがある活動はどれか (小学生：問 24)

小学生では、「地域に根ざした活動(お祭りや地域運動会等)」の割合が 65.8%と最も高く、次いで「青少年団体活動(こども会等)」の割合が 52.6%、「スポーツ活動」の割合が 32.3%となっています。

一方、「参加したことがない」の割合が 13.1%となっています。

【小学生】

N = 808

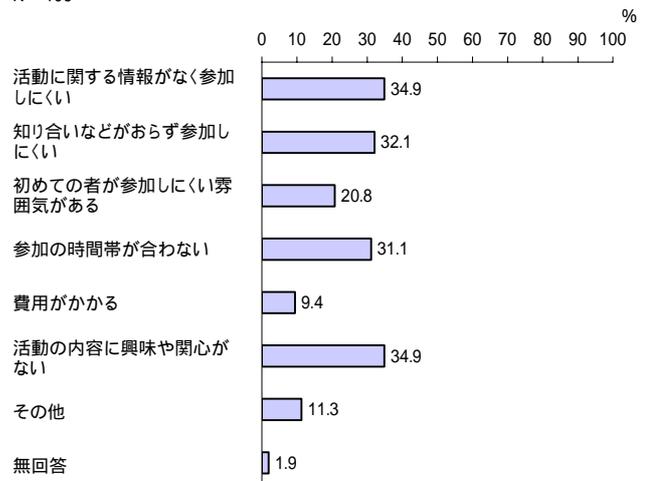


(5) 参加したことがない理由 (小学生：問 24-1)

小学生では、「活動に関する情報がなく参加しにくい」「活動の内容に興味や関心がない」の割合がともに 34.9%、次いで「知り合いなどがおらず参加しにくい」の割合が 32.1%となっています。

【小学生】

N = 106

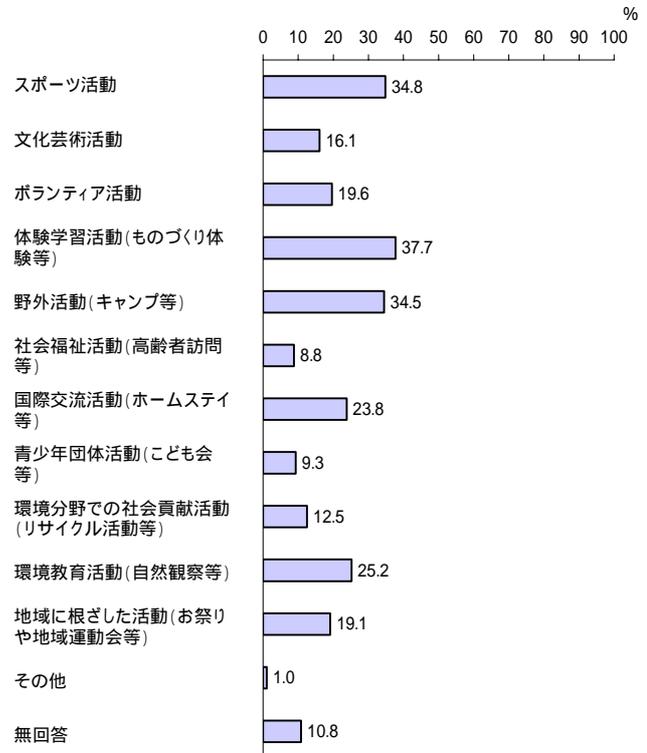


(6) 参加したことはないが今後参加していきたい活動はどれか (小学生：問 24-2)

小学生では、「体験学習活動(ものづくり体験等)」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「スポーツ活動」の割合が 34.8%、「野外活動(キャンプ等)」の割合が 34.5%となっています。

【小学生】

N = 808

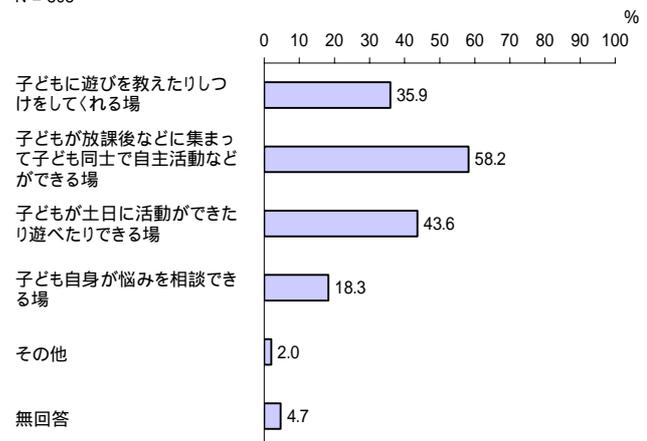


(7) 子ども同士が交流できる場ができた場合、どのようなものが望ましいか (小学生：問 25)

小学生では、「子どもが放課後などに集まって子ども同士で自主活動などができる場」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「子どもが土日に活動ができたり遊べたりできる場」の割合が 43.6%、「子どもに遊びを教えたりしつけをしてくれる場」の割合が 35.9%となっています。

【小学生】

N = 808

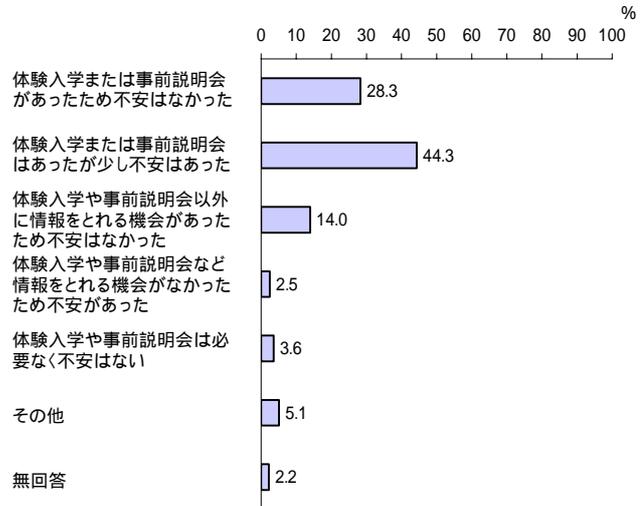


(8) 幼稚園・保育所から小学校に入学する際、不安があったか (小学生：問 26)

小学生では、「体験入学または事前説明会はあったが少し不安はあった」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「体験入学または事前説明会があったため不安はなかった」の割合が 28.3%、「体験入学や事前説明会以外に情報をとれる機会があったため不安はなかった」の割合が 14.0%となっています。

【小学生】

N = 808

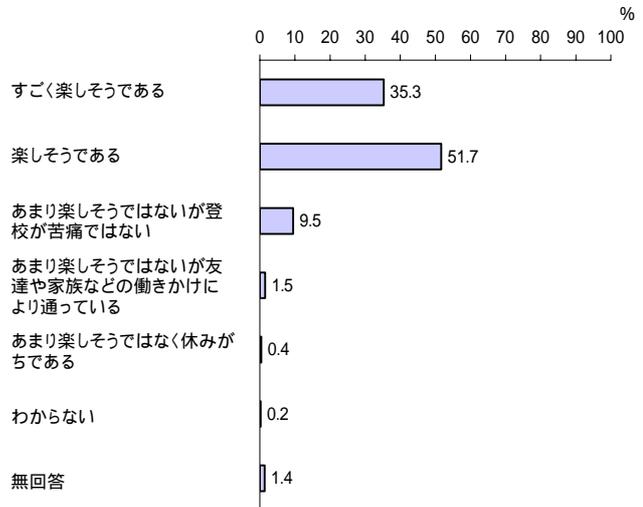


(9) 学校に行くのが楽しそうか (小学生：問 27)

小学生では、「楽しそうである」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「すごく楽しそうである」の割合が 35.3%となっています。

【小学生】

N = 808



13. 子育てについて

子育て支援サービスの認知度・利用状況・今後の利用意向をみると、全体的に認知度が利用状況に影響しており、「保育所（園）や幼稚園の園庭等の解放」「茨木市が発行する子育て支援情報誌（子育てハンドブック）」が認知度、利用状況ともに高くなっています。また、今後の利用意向については、就学前児童では、「保健医療センターの情報・相談サービス」「家庭教育セミナー・保護者のための講座など」「青少年センター」「子育て総合相談窓口（子育て支援総合センター）」、小学生では、「家庭教育セミナー・保護者のための講座など」「教育研究所・教育相談」「青少年センター・野外活動センター」が、利用状況に対し、今後の利用意向が特に高く、事業に対する期待感や重要度を感じていることがうかがわれます。

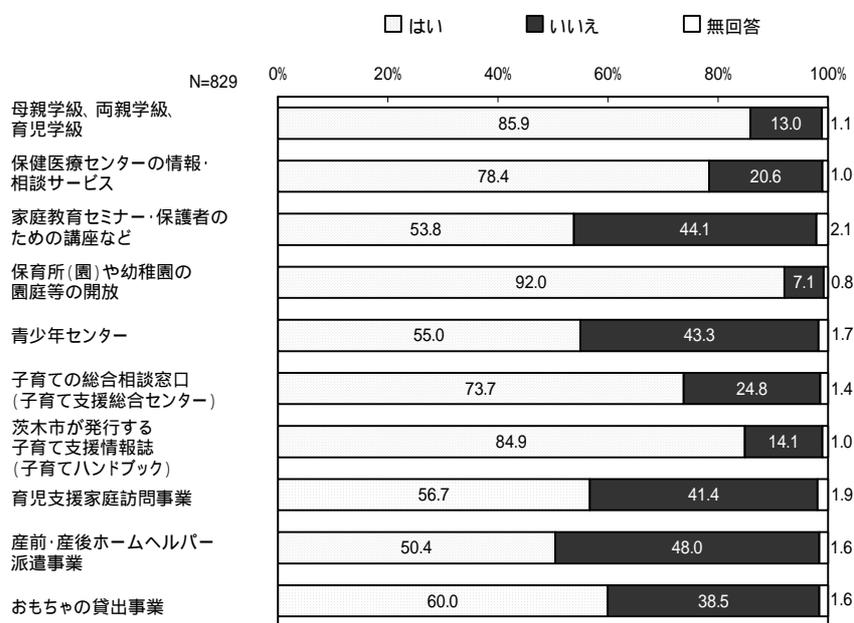
(1) 子育て支援サービスの認知度・利用状況・今後の利用意向 (就学前児童：問 21 小学生：問 16)

認知度

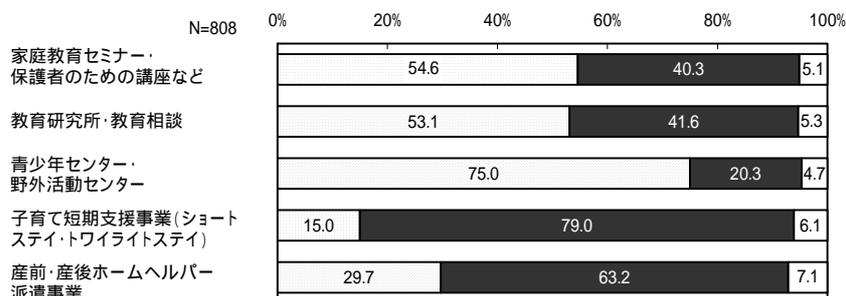
子育て支援サービスを知っているかについては、就学前児童では、「母親学級、両親学級、育児学級」「保育所（園）や幼稚園の園庭等の開放」「茨木市が発行する子育て支援情報誌（子育てハンドブック）」で「はい」の割合が高く、8割を超えています。一方、「産前・産後ホームヘルパー派遣事業」で「いいえ」の割合が高く、約5割となっています。

小学生では、「子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）」「産前・産後ホームヘルパー派遣事業」で「いいえ」の割合が高く、特に「子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）」で約8割となっています。

【就学前児童】



【小学生】

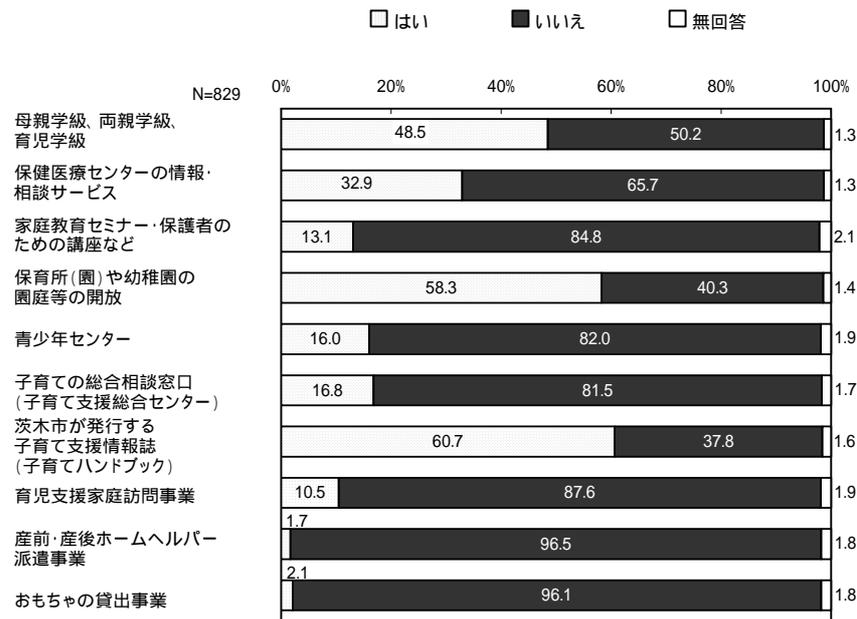


利用状況

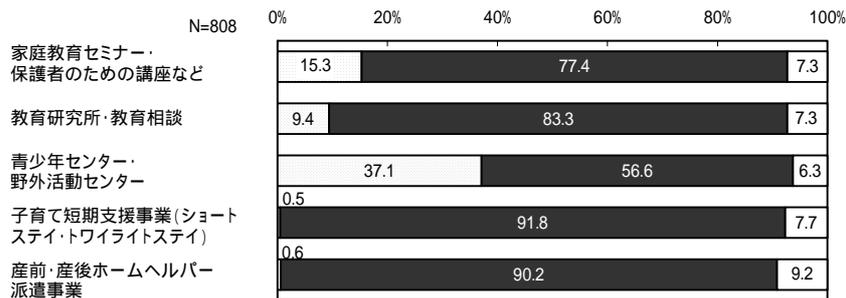
子育て支援サービスを利用したことがあるかについては、就学前児童では、「保育所（園）や幼稚園の園庭等の開放」「茨木市が発行する子育て支援情報誌（子育てハンドブック）」で「はい」の割合が高く、約 6 割となっています。一方、「産前・産後ホームヘルパー派遣事業」「おもちゃの貸出事業」で「いいえ」の割合が高く、9 割を超えています。

小学生では、「青少年センター・野外活動センター」で「はい」の割合が高く、約 4 割となっています。一方、「子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）」「産前・産後ホームヘルパー派遣」で「いいえ」の割合が高く、9 割を超えています。

【就学前児童】



【小学生】

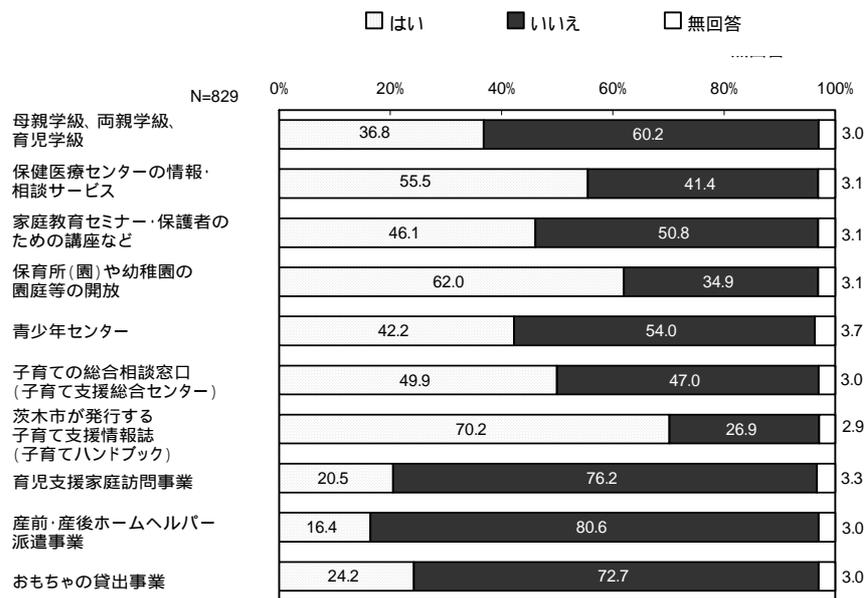


今後の利用意向

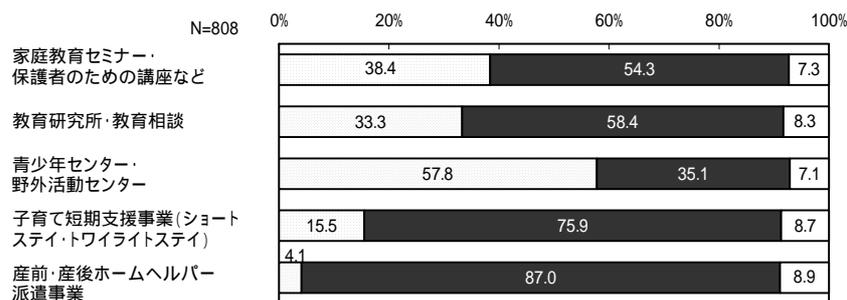
子育て支援サービスを今後利用したいかについては、就学前児童では、「保育所（園）や幼稚園の園庭等の開放」「茨木市が発行する子育て支援情報誌（子育てハンドブック）」で「はい」の割合が高く、6割を超えています。一方、「育児支援家庭訪問事業」「産前・産後ホームヘルパー派遣事業」「おもちゃの貸出事業」で「いいえ」の割合が高く、7割を超えています。

小学生では、「青少年センター・野外活動センター」で「はい」の割合が高く、約6割となっています。一方、「産前・産後ホームヘルパー派遣事業」で「いいえ」の割合が高く、約9割となっています。

【就学前児童】



【小学生】

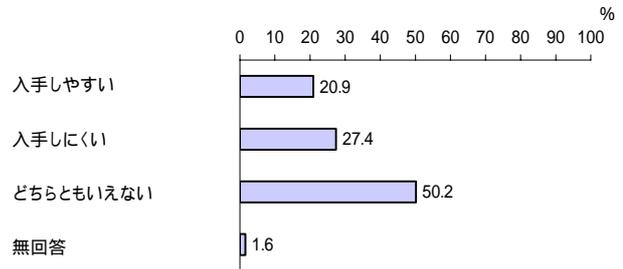


(2) 子育て支援サービスの情報の入手のしやすさについて (就学前児童：問 21-1)

就学前児童では、「どちらともいえない」の割合が 50.2%と最も高く、次いで「入手しにくい」の割合が 27.4%、「入手しやすい」の割合が 20.9%となっています。

【就学前児童】

N = 829



(3) 子育ての際に感じること (就学前児童：問 22)

就学前児童では、「楽しいと感じることの方が多い」の割合が 63.0%と最も高く、次いで「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」の割合が 29.0%となっています。

就学前児童の保育サービスの利用の有無別でみると、大きな差異は見られません。

就学前児童の家庭類型 5 分類 (現状) 別でみると、他の家庭類型に比べひとり親の家庭で「楽しいと感じることの方が多い」の割合が低くなっています。

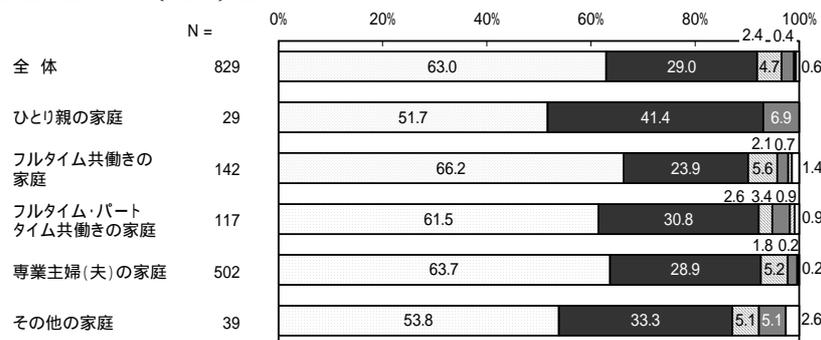
【就学前児童】

- 楽しいと感じることの方が多い
- 楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい
- 辛いと感じることの方が多い
- わからない
- その他
- 無回答

保育サービスの利用の有無別



家庭類型 5 分類 (現状) 別



(4) どのような支援・対策が有効と感じるか (就学前児童：問 22-1)

就学前児童では、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」の割合が 44.6%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」の割合が 36.6%、「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」の割合が 36.4%となっています。

就学前児童の家庭類型 5 分類（現状）別でみると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭で「保育サービスの充実」「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」の割合が高く、専業主婦（夫）の家庭で「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」「子どもの教育環境」「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」の割合が高くなっています。

家庭類型 5 分類（現状）別

単位：%

	有効回答数(件)	地域における子育て支援の充実(一時預かり、育児相談など)	保育サービスの充実	子育て支援のネットワークづくり	地域における子どもの活動拠点の充実(青少年センターなど)	訪問型の支援サービスの充実	健やかな妊娠・出産に対する支援
就学前児童	522	36.4	30.3	14.2	14.2	1.5	18.0
ひとり親の家庭	15	20.0	46.7	-	6.7	-	6.7
フルタイム共働きの家庭	94	28.7	57.4	8.5	9.6	2.1	16.0
フルタイム・パートタイム共働きの家庭	72	33.3	37.5	6.9	12.5	2.8	15.3
専業主婦(夫)の家庭	320	40.9	20.3	18.1	16.9	1.3	20.0
その他の家庭	21	23.8	23.8	14.3	4.8	-	14.3

	子どもの教育環境	子育てしやすい住居・まちの環境面での充実	仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備	子どもを対象にした犯罪・事故の軽減	支援を要する子どもに対する支援	その他	無回答
就学前児童	35.2	44.6	36.6	29.5	5.2	3.8	3.3
ひとり親の家庭	40.0	40.0	53.3	26.7	-	-	13.3
フルタイム共働きの家庭	34.0	27.7	63.8	20.2	2.1	3.2	5.3
フルタイム・パートタイム共働きの家庭	23.6	31.9	52.8	23.6	6.9	4.2	9.7
専業主婦(夫)の家庭	37.2	51.3	25.0	33.4	5.6	4.1	0.6
その他の家庭	47.6	66.7	23.8	33.3	9.5	4.8	4.8

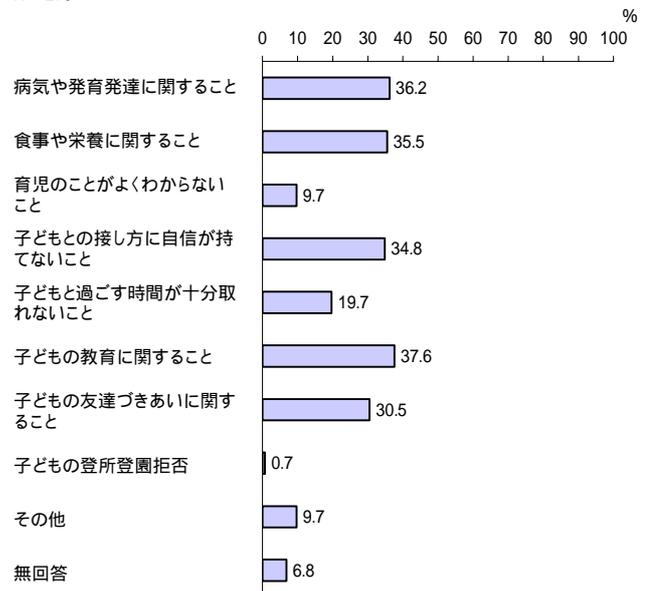
(5) 日常悩んでいること、気になることは何か (就学前児童：問 22-2)

子どもに関する事

就学前児童では、「子どもの教育に関する事」の割合が37.6%と最も高く、次いで「病気や発育発達に関する事」の割合が36.2%、「食事や栄養に関する事」の割合が35.5%となっています。

【就学前児童】

N = 279

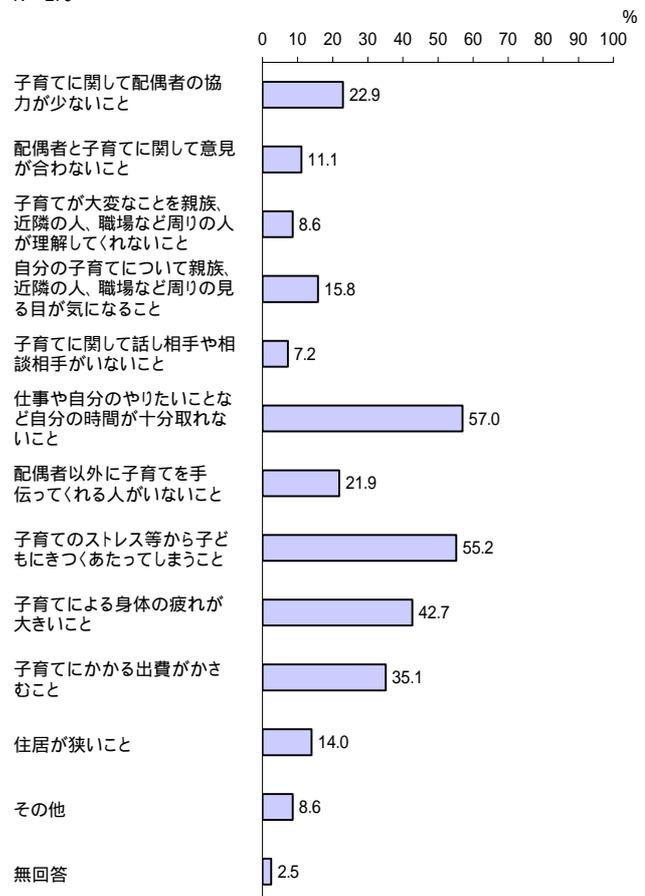


自分に関する事

就学前児童では、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」の割合が57.0%と最も高く、次いで「子育てのストレス等から子どもにきつくあたってしまうこと」の割合が55.2%、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」の割合が42.7%となっています。

【就学前児童】

N = 279

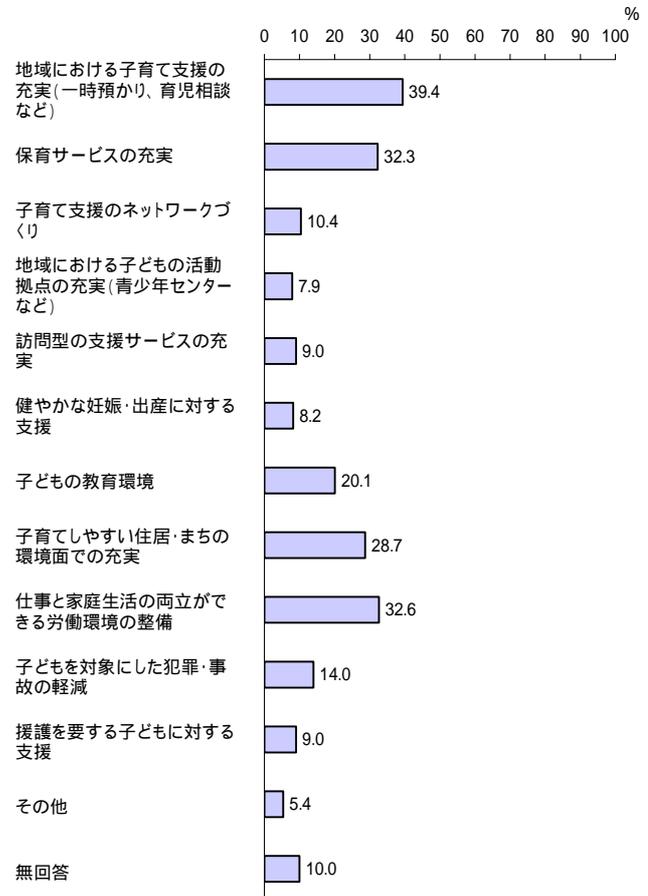


(6) 子育てのつらさを感じた際、それを解消する為に必要な支援・対策
(就学前児童：問 22-3)

就学前児童では、「地域における子育て支援の充実(一時預かり、育児相談など)」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」の割合が 32.6%、「保育サービスの充実」の割合が 32.3%となっています。

【就学前児童】

N = 279



(7) 子育ての際の相談相手 (就学前児童：問23)

就学前児童では、「親や家族」の割合が90.3%と最も高く、次いで「近所の人、友人・知人」の割合が76.2%、「保育所(園)や幼稚園」の割合が31.0%となっています。

就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、他の家庭類型に比べフルタイム共働きの家庭で「保育所(園)や幼稚園」の割合が高く、フルタイム・パートタイム共働きの家庭、専業主婦(夫)の家庭で「近所の人、友人・知人」の割合が高くなっています。

家庭類型5分類(現状)別

単位：%

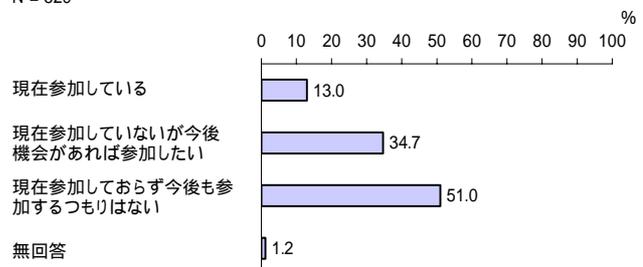
	有効回答数(件)	親や家族	近所の人、友人・知人	子育てのための施設	保育所(園)や幼稚園	行政機関(市役所)、子育て支援総合センター、保健所、保健医療センターなどの相談窓口(育児相談など)	自ら育児書、インターネットを調べる	相談すべきことはない	相談相手がいない	その他	無回答
就学前児童	829	90.3	76.2	4.6	31.0	6.4	27.1	0.2	0.4	1.3	0.4
ひとり親の家庭	29	86.2	65.5	-	48.3	10.3	6.9	-	-	3.4	-
フルタイム共働きの家庭	142	85.2	69.7	1.4	62.7	-	28.2	-	0.7	2.1	0.7
フルタイム・パートタイム共働きの家庭	117	90.6	81.2	1.7	49.6	1.7	24.8	-	-	0.9	-
専業主婦(夫)の家庭	502	92.4	79.1	6.2	18.1	9.2	29.7	0.2	0.4	1.2	-
その他の家庭	39	84.6	56.4	7.7	12.8	5.1	12.8	2.6	-	-	5.1

(8) 子育てサークル等、自主的に参加しているか (就学前児童：問24)

就学前児童では、「現在参加しておらず今後も参加するつもりはない」の割合が51.0%と最も高く、次いで「現在参加していないが今後機会があれば参加したい」の割合が34.7%、「現在参加している」の割合が13.0%となっています。

【就学前児童】

N = 829

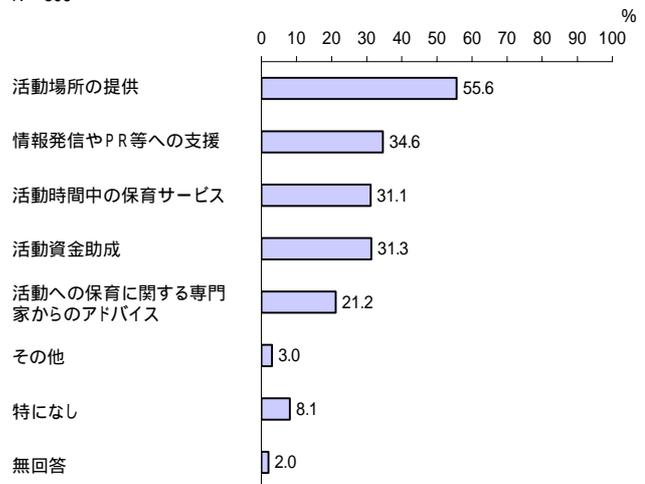


(9) 自主活動にあたり、行政に行って欲しいこと (就学前児童 : 問 24-1)

就学前児童では、「活動場所の提供」の割合が 55.6% と最も高く、次いで「情報発信や P R 等への支援」の割合が 34.6%、「活動資金助成」の割合が 31.3% となっています。

【就学前児童】

N = 396

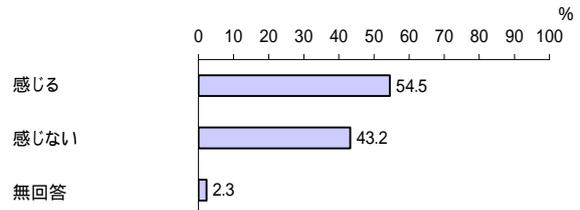


(10) 子育てが地域の人に (もしくは社会で) 支えられていると感じるか (就学前児童 : 問 25)

就学前児童では、「感じる」の割合が 54.5%、「感じない」の割合が 43.2% となっています。

【就学前児童】

N = 829



14. 子どもの健康について

かかりつけ医師の有無をみると、就学前児童、小学生ともに「いる」と回答した方が7割を超えています。また、子どものけがや急病の際の相談相手について、「相談相手がいない」の割合がごくわずかであり、今後も継続して子どもの健康に対するサポートをしていく必要があります。

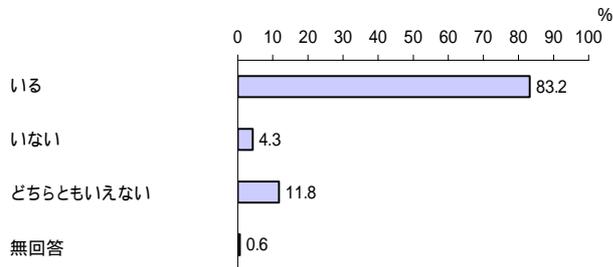
(1) かかりつけの医師はいるか (就学前児童：問26 小学生：問17)

就学前児童では、「いる」の割合が83.2%、「いない」の割合が4.3%となっています。

小学生では、「いる」の割合が73.9%、「いない」の割合が7.2%となっています。

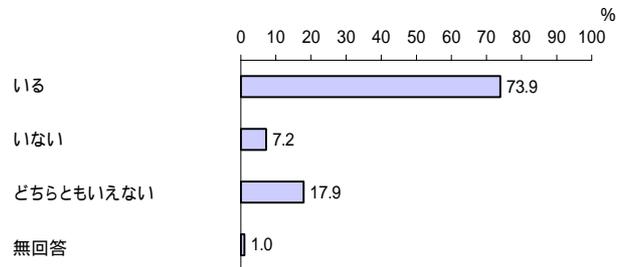
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



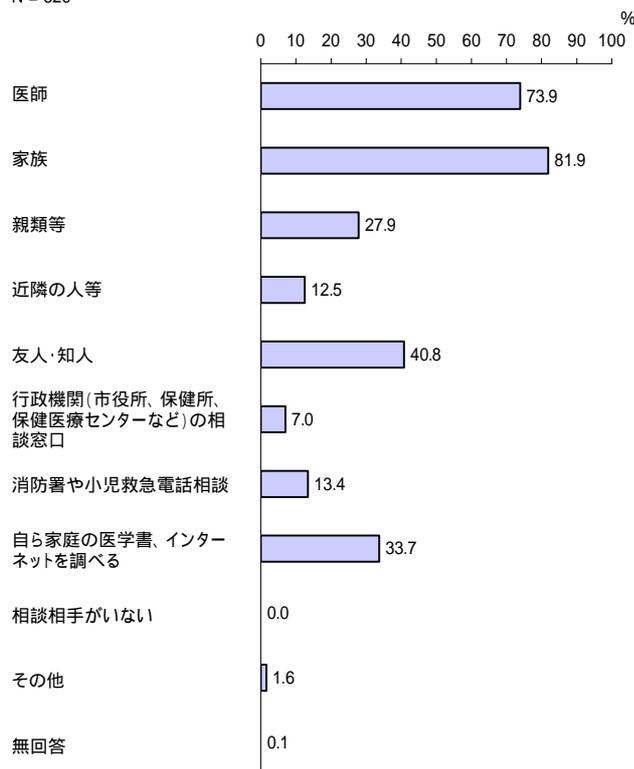
(2) 子どものけがや急病の際の相談相手について (就学前児童：問27 小学生：問18)

就学前児童では、「家族」の割合が81.9%と最も高く、次いで「医師」の割合が73.9%、「友人・知人」の割合が40.8%となっています。

小学生では、「医師」の割合が74.0%と最も高く、次いで「家族」の割合が69.6%、「友人・知人」の割合が40.0%となっています。

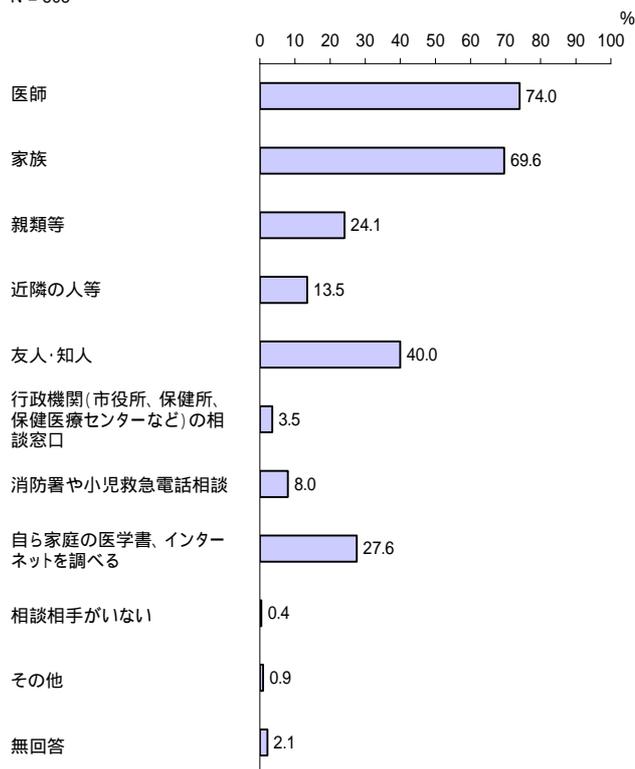
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808

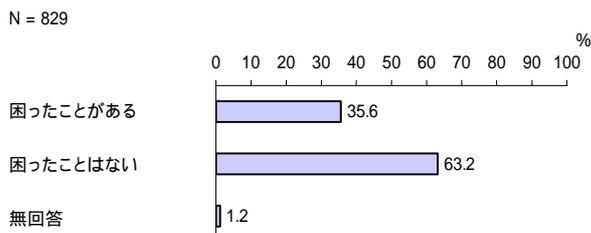


(3) 子どものけがや急病の際、医療機関が見つからず困った事があるか
 (就学前児童：問 28 小学生：問 19)

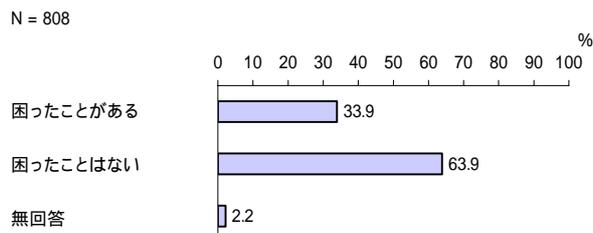
就学前児童では、「困ったことがある」の割合が 35.6%、「困ったことはない」の割合が 63.2% となっています。

小学生では、「困ったことがある」の割合が 33.9%、「困ったことはない」の割合が 63.9% となっています。

【就学前児童】



【小学生】

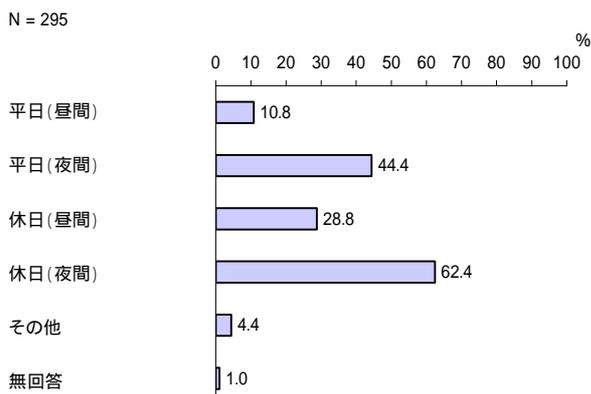


(4) いつ困ったか (就学前児童：問 28-1 小学生：問 19-1)

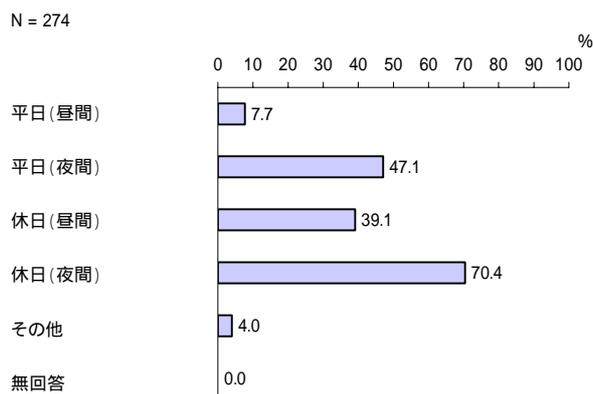
就学前児童では、「休日(夜間)」の割合が 62.4%と最も高く、次いで「平日(夜間)」の割合が 44.4%、「休日(昼間)」の割合が 28.8%となっています。

小学生では、「休日(夜間)」の割合が 70.4%と最も高く、次いで「平日(夜間)」の割合が 47.1%、「休日(昼間)」の割合が 39.1%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



15. 子どもの食生活について

朝ごはんのとり方をみると、就学前児童、小学生ともに、「毎日食べる」の割合が高くなっているものの、1割近くの方が「毎日食べる」と回答していない現状となっています。また、健康的な食生活が身についているかについても、「思わない、わからない」と回答している方が、就学前児童で2割、小学生では1割と回答しており、今後も食生活の重要性について啓発する必要があります。

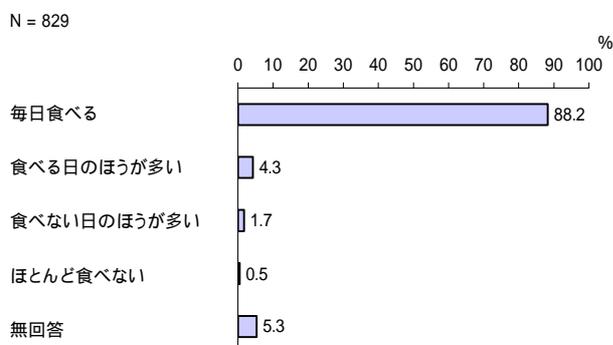
(1) 食生活について (就学前児童：問 29 小学生：問 20)

朝ごはんを食べますか

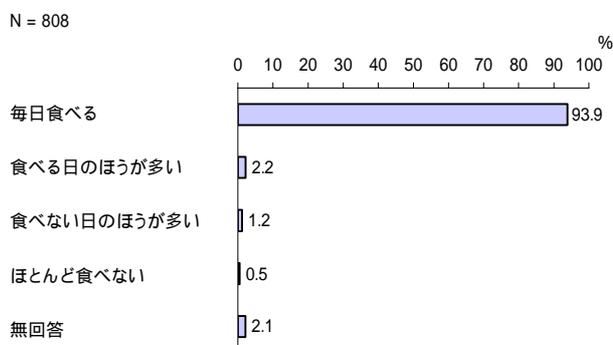
就学前児童では、「毎日食べる」の割合が88.2%と最も高くなっています。

小学生では、「毎日食べる」の割合が93.9%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】

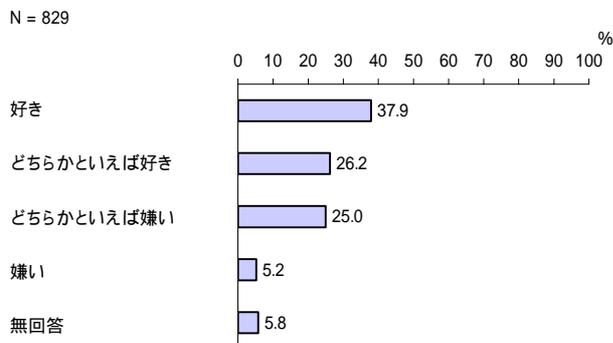


野菜は好きですか

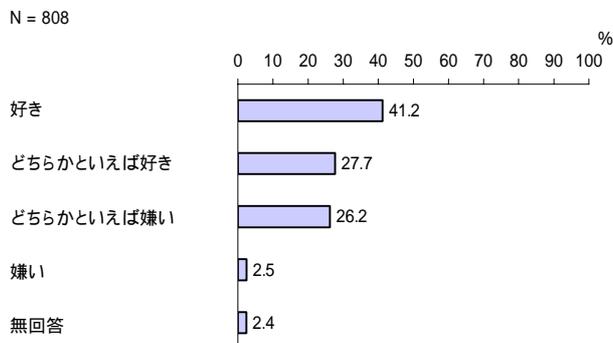
就学前児童では、「好き」と「どちらかといえば好き」をあわせた野菜を好きな人の割合が64.1%、「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」をあわせた野菜を嫌いな人の割合が30.2%となっています。

小学生では、同様に、野菜を好きな人の割合が68.9%、野菜を嫌いな人の割合が28.7%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

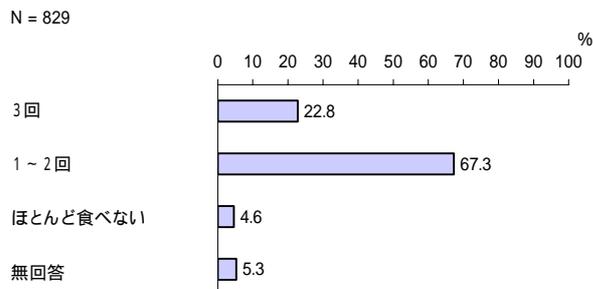


野菜は1日3食のうち何回食べますか

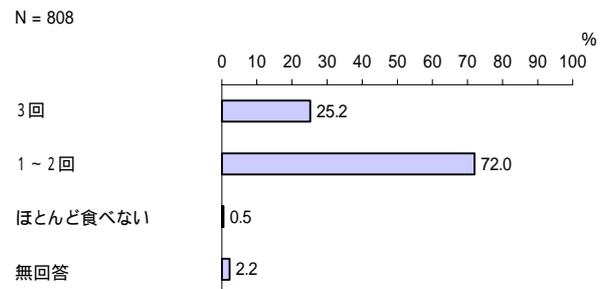
就学前児童では、「1~2回」の割合が67.3%と最も高く、次いで「3回」の割合が22.8%となっています。

小学生では、「1~2回」の割合が72.0%と最も高く、次いで「3回」の割合が25.2%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

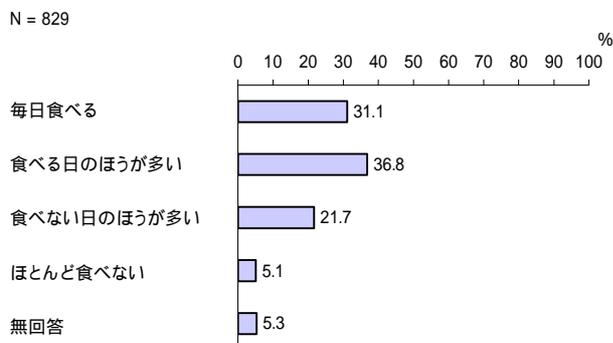


果物は食べますか

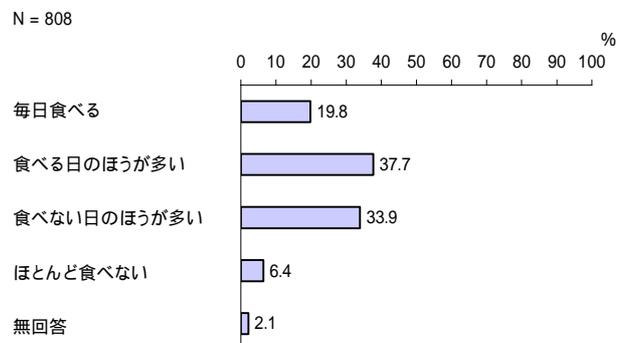
就学前児童では、「食べる日のほうが多い」の割合が36.8%と最も高く、次いで「毎日食べる」の割合が31.1%、「食べない日のほうが多い」の割合が21.7%となっています。

小学生では、「食べる日のほうが多い」の割合が37.7%と最も高く、次いで「食べない日のほうが多い」の割合が33.9%、「毎日食べる」の割合が19.8%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

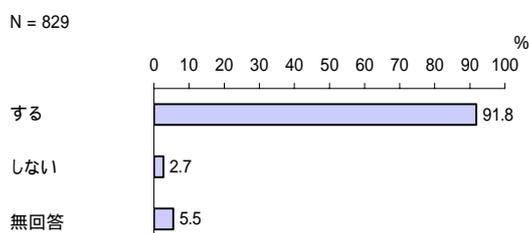


1日1回は家族と一緒に食事をしますか

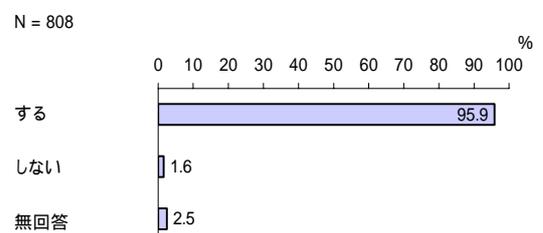
就学前児童では、「する」の割合が91.8%、「しない」の割合が2.7%となっています。

小学生では、「する」の割合が95.9%、「しない」の割合が1.6%となっています。

【就学前児童】



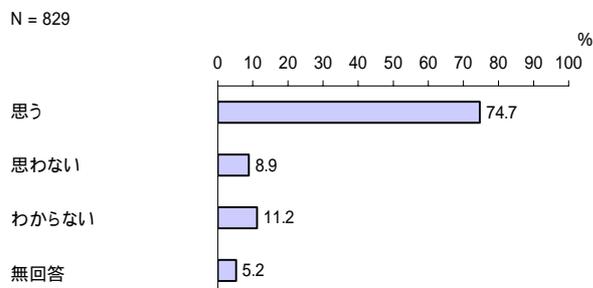
【小学生】



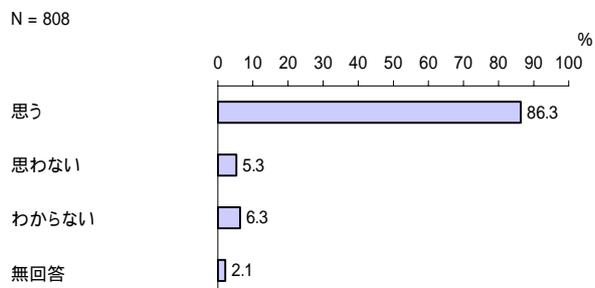
(2) 健康的な食生活が身についているか(就学前児童：問 29-1 小学生：問 20-1)

就学前児童では、「思う」の割合が74.7%、「思わない」の割合が8.9%となっています。
小学生では、「思う」の割合が86.3%、「思わない」の割合が5.3%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



16. 子育てを支援する生活環境の整備について

地域の子どもの遊び場に関する満足度をみると、「満足していない」「どちらとも思えない」が、就学前児童、小学生ともに約7割となっています。また、地域の子どもの遊び場について、日頃感じることは、「雨の日に遊べる場所がない」「思い切り遊ぶための十分な広さがない」「遊具などの種類が充実していない」などの割合が高くなっています。

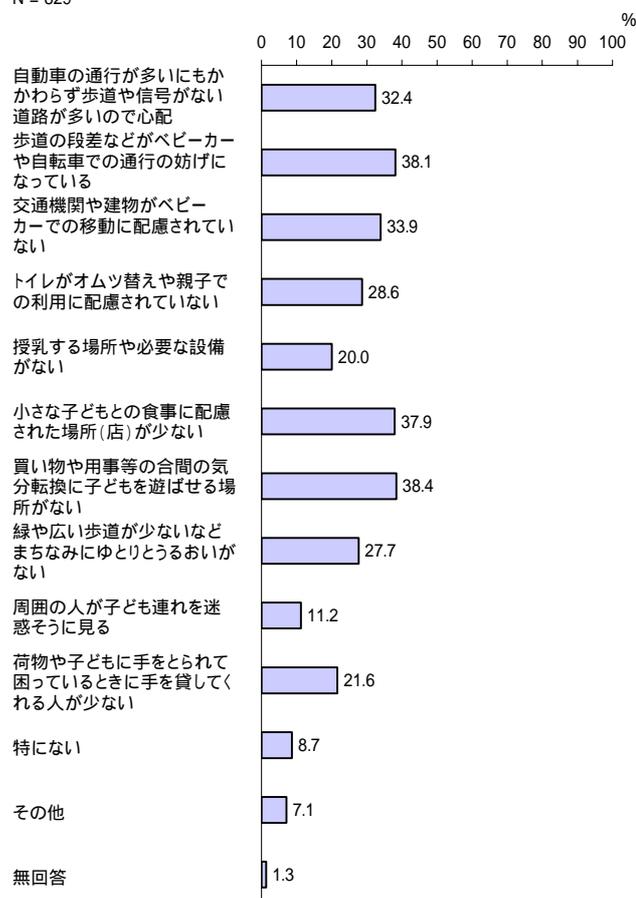
また、地域において子育て支援する生活環境のために、必要・効果があると思われるものとしては、「放課後子ども教室」の割合が半数を超えて回答されています。

(1) 子どもと外出の際、困ること・困ったことはあるか (就学前児童：問30)

就学前児童では、「買い物や用事等の合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」の割合が38.4%と最も高く、次いで「歩道の段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている」の割合が38.1%、「小さな子どもとの食事に配慮された場所(店)が少ない」の割合が37.9%となっています。

【就学前児童】

N = 829



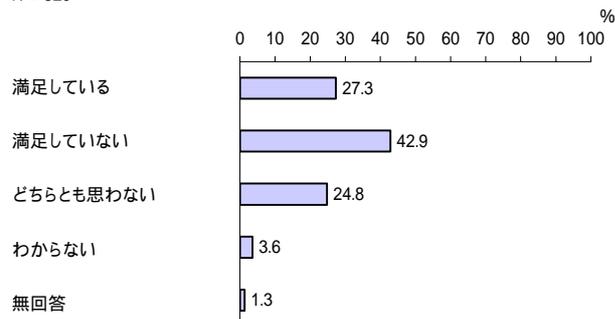
(2) 地域の子どもの遊び場に関する満足度 (就学前児童：問31 小学生：問28)

就学前児童では、「満足している」の割合が27.3%と最も高く、次いで「満足していない」の割合が42.9%、「どちらとも思わない」の割合が24.8%となっています。

小学生では、「満足している」の割合が24.1%と最も高く、次いで「満足していない」の割合が50.7%、「どちらとも思わない」の割合が20.9%となっています。

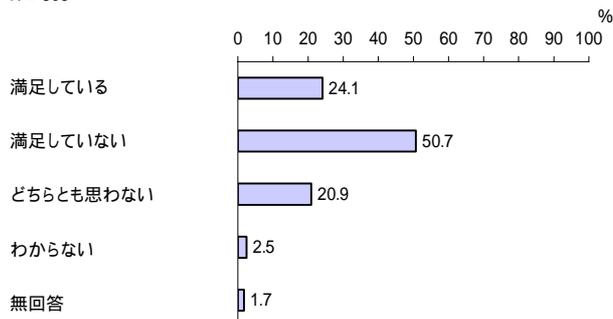
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



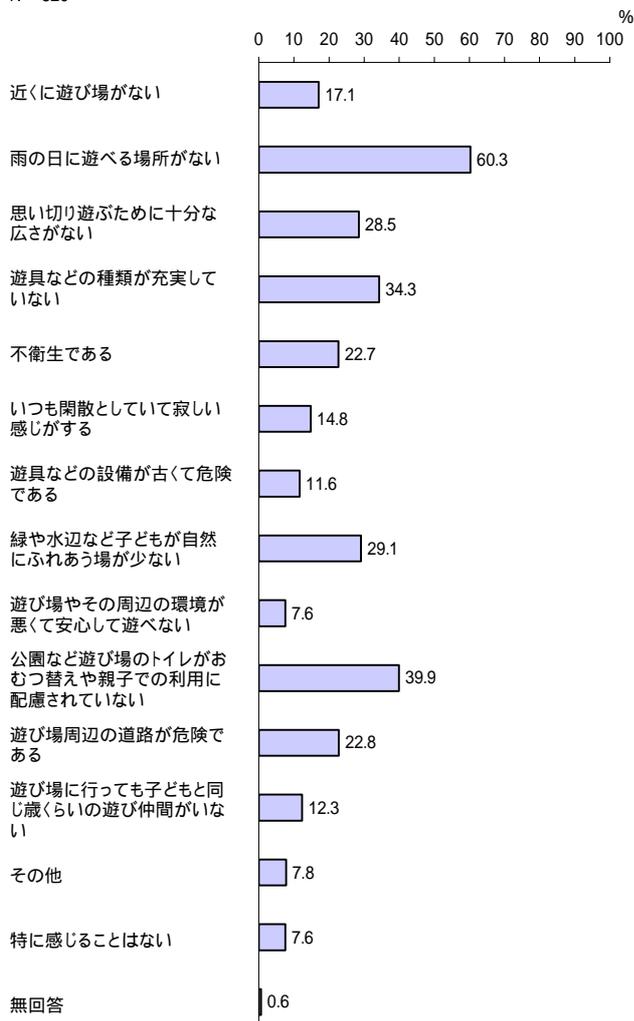
(3) 地域の子どもの遊び場について、日頃感じること
(就学前児童：問 32 小学生：問 29)

就学前児童では、「雨の日に遊べる場所がない」の割合が 60.3%と最も高く、次いで「公園など遊び場のトイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」の割合が 39.9%、「遊具などの種類が充実していない」の割合が 34.3%となっています。

小学生では、「雨の日に遊べる場所がない」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「思い切り遊ぶために十分な広さがない」の割合が 47.5%、「遊具などの種類が充実していない」の割合が 26.5%となっています。

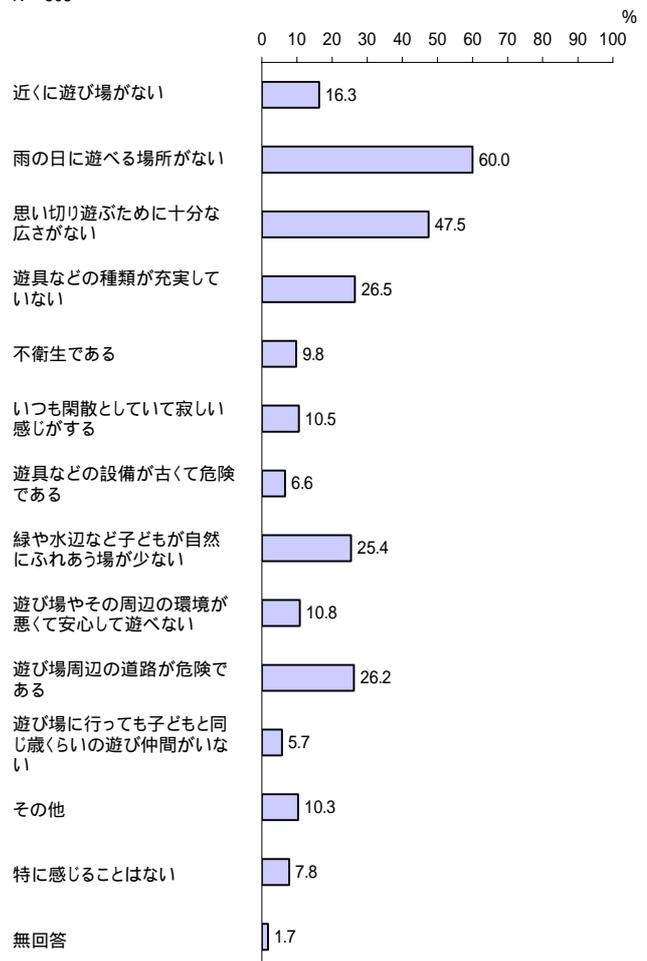
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



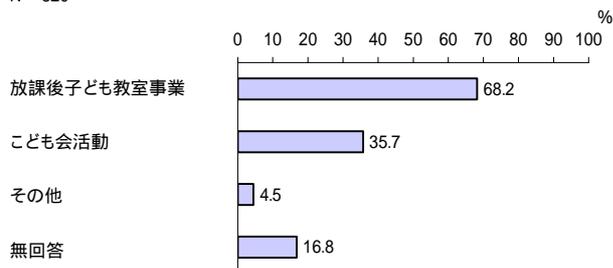
(4) 地域において子育て支援する生活環境のために、必要・効果があると思われるもの
(就学前児童：問 33 小学生：問 30)

就学前児童では、「放課後子ども教室事業」の割合が 68.2%、「こども会活動」の割合が 35.7% となっています。

小学生では、「放課後子ども教室事業」の割合が 59.8%と最も高く、次いで「こども会活動」の割合が 33.8%、「青少年野外活動センター」の割合が 31.4%となっています。

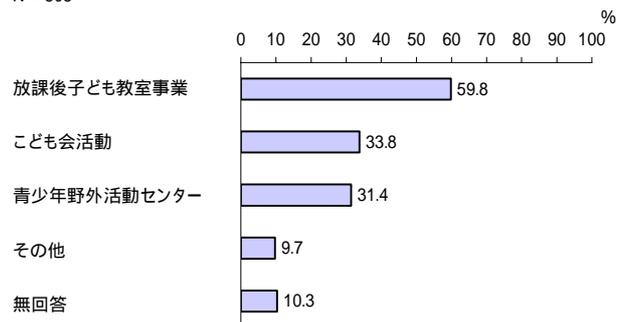
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



17. 子どもの安全確保について

地域の取り組みやサービスをみると、認知度では、小学生での「青色回転灯パトロール事業」を除き、「はい」の割合が就学前児童で5割、小学生で7割を超えています。しかし、協力したことがあるかについては、かなり低い状況となっています。

また、地域で子どもが巻き込まれる事故・犯罪が増加していると感じているかについて、「感じる」の割合が就学前児童で4割、小学生で5割を超えていることから、今後の地域の取り組みやサービスの普及・啓発や充実が必要です。

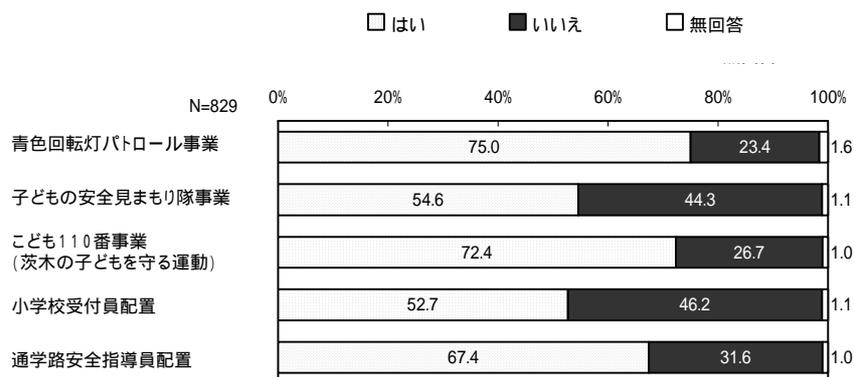
(1) 地域の取り組みやサービスの認知度・協力したもの・今後協力していきたいもの (就学前児童：問34 小学生：問31)

認知度

子どもの安全確保のための取り組み、サービスを知っているかについては、就学前児童では、「青色回転灯パトロール事業」「こども110番事業（茨木の子どもを守る運動）」で「はい」の割合が高く、7割を超えています。

小学生では、「青色回転灯パトロール事業」で「いいえ」の割合が高く、6割を超えています。

【就学前児童】



【小学生】

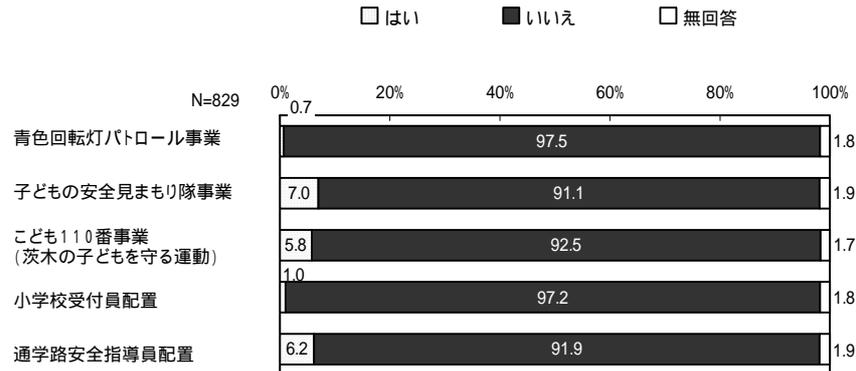


協力したことがあるもの

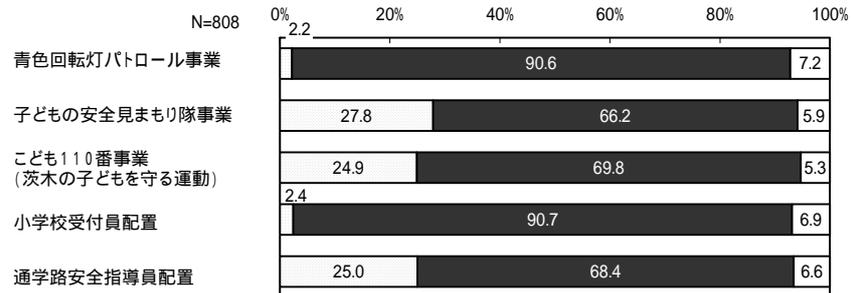
子どもの安全確保のための取組み、サービスに協力したことがあるかについては、就学前児童では、すべての事業で「はい」の割合が低く、1割未満となっています。

小学生では、「子どもの安全見守り隊事業」「こども110番事業(茨木の子どもを守る運動)」「通学路安全指導員配置」で「はい」の割合が高く、2割を超えています。

【就学前児童】



【小学生】

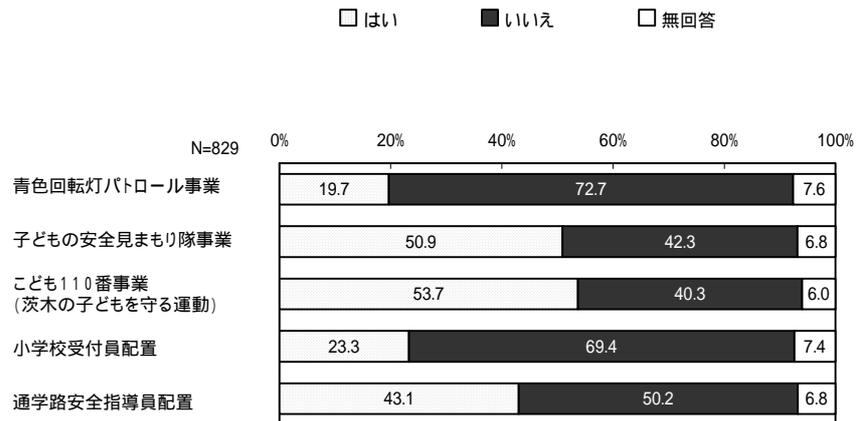


今後協力していきたいもの

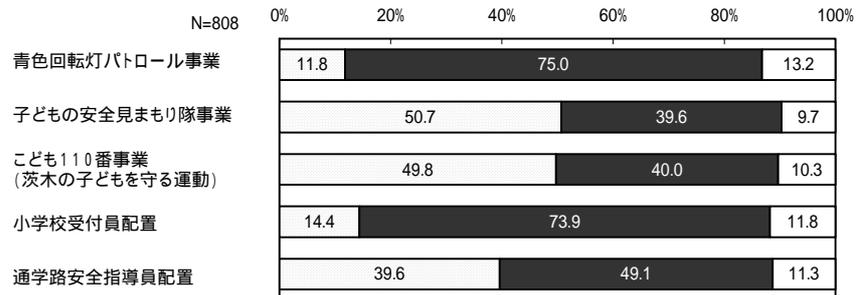
子どもの安全確保のための取組み、サービスに今後協力したいかについては、就学前児童では、「青色回転灯パトロール事業」「小学校受付員配置」で「はい」の割合が低く、約2割となっています。

小学生では、「青色回転灯パトロール事業」「小学校受付員配置」で「はい」の割合が低く、約1割となっています。

【就学前児童】



【小学生】

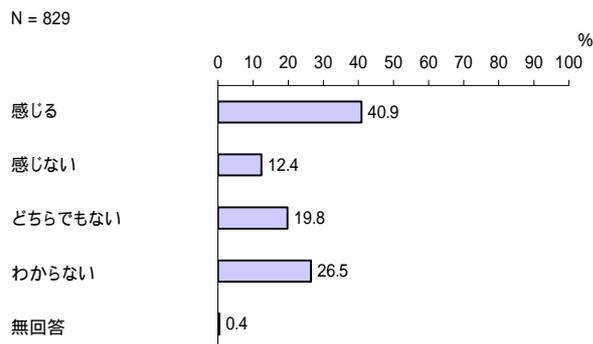


(2) 地域で子どもが巻き込まれる事故・犯罪が増加していると感じるか
(就学前児童：問35 小学生：問32)

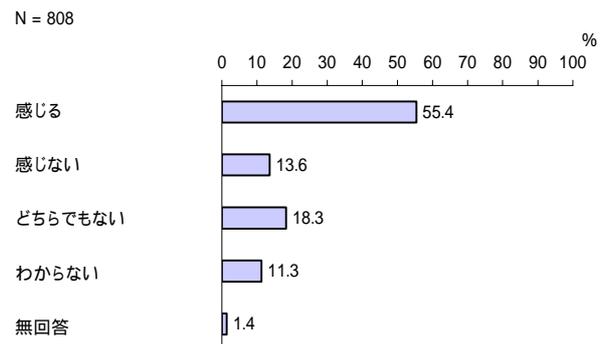
就学前児童では、「感じる」の割合が40.9%と最も高く、次いで「どちらでもない」の割合が19.8%、「感じない」の割合が12.4%となっています。

小学生では、「感じる」の割合が55.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」の割合が18.3%、「感じない」の割合が13.6%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



18. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

「仕事時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度をみると、理想では、就学前児童、小学生ともに、「プライベート時間を優先」と回答している方が2割を超えています。現実においては、「プライベート時間を優先」と回答している方はごくわずかとなっており、理想に比べて現実で「仕事時間を優先」の割合が高くなっています。また、家庭類型（現状）別でみると、“ひとり親家庭”、“フルタイム共働きの家庭”においては、現実において「仕事時間を優先」が特に高くなっており、働き方によっては仕事と生活の調和の状況も相違があることがうかがわれます。

配偶者との家事・育児分担の満足度については、父親が母親に対しては、「満足している」「まあまあ満足している」の割合が6割を超えているものの、母親が父親に対しては、「満足している」「まあまあ満足している」の割合が1割程度低く5割となっています。また、「仕事と生活の調和」または「ワーク・ライフ・バランス」という言葉についても、「知らない」と回答されている方が半数以上いることから、今後も継続して、男性の働き方等を含めた、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の普及・啓発が必要です。

（1）「仕事と生活の調和」又は「ワーク・ライフ・バランス」という言葉についての認知度（就学前児童：問36 小学生：問33）

就学前児童では、「知らない」の割合が67.6%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことはあるが内容はよく知らない」の割合が19.2%となっています。

小学生では、「知らない」の割合が63.5%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことはあるが内容はよく知らない」の割合が20.9%、「言葉を知っており内容も少しは知っている」の割合が10.5%となっています。

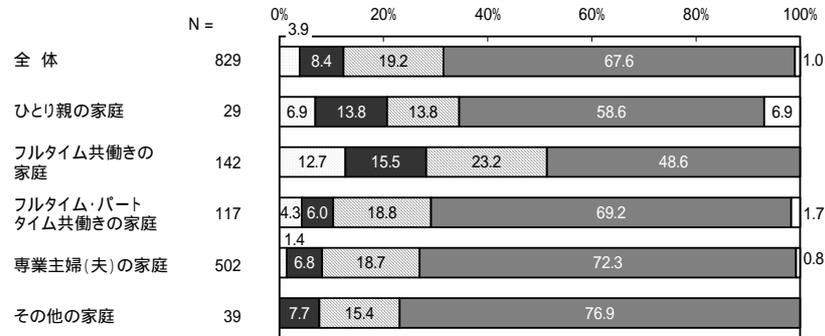
就学前児童の家庭類型5分類（現状）別でみると、フルタイム共働きの家庭で「言葉を知っており内容も詳しく知っている」の割合が高くなっています。

小学生の家庭類型5分類（現状）別でみると、フルタイム共働きの家庭で「言葉を知っており内容も詳しく知っている」「言葉を知っており内容も少しは知っている」の割合が高くなっています。

【就学前児童】

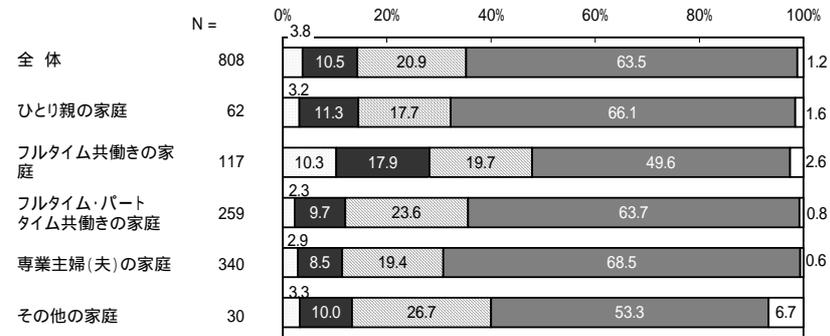
- 言葉を知っており内容も詳しく知っている
- 言葉を知っており内容も少しは知っている
- ▨ 言葉を聞いたことはあるが内容はよく知らない
- 知らない
- 無回答

家庭類型 5 分類（現状）別



【小学生】

家庭類型 5 分類（現状）別



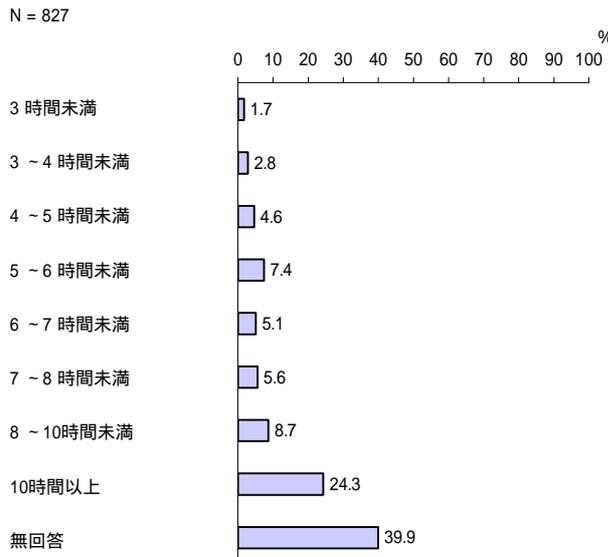
(2) 母親が子どもと一緒に過ごす1日当たりの時間と、その時間の満足度
(就学前児童：問 37(1) 小学生：問 34(1))

子どもと過ごす1日当たりの時間

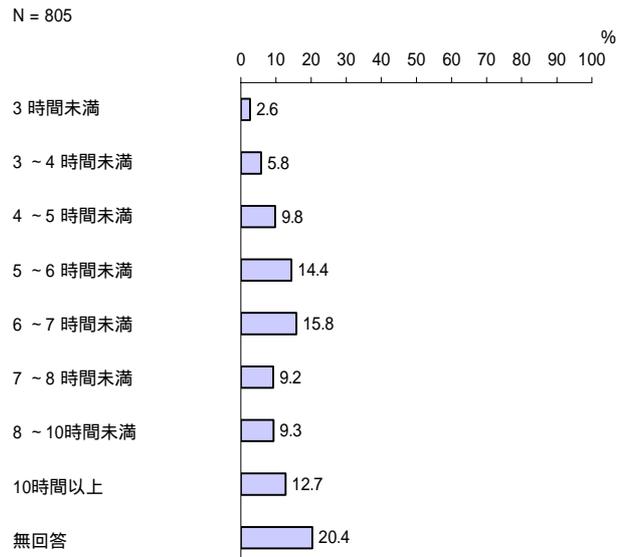
就学前児童では、「10時間以上」の割合が24.3%と最も高くなっています。

小学生では、「6~7時間未満」の割合が15.8%と最も高く、次いで「5~6時間未満」の割合が14.4%、「10時間以上」の割合が12.7%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

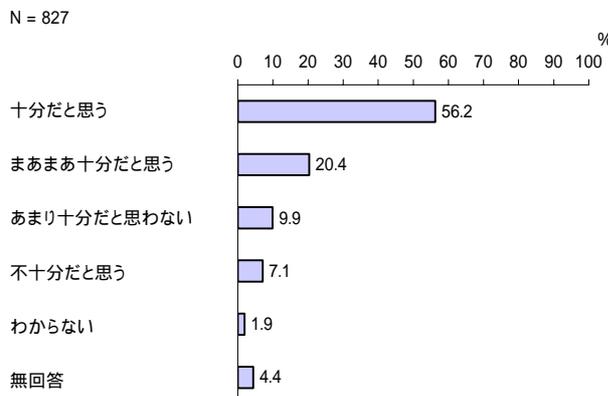


満足度

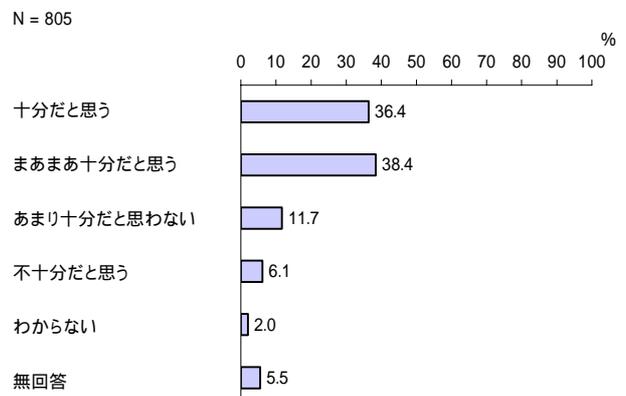
就学前児童では、「十分だと思う」と「まあまあ十分だと思う」をあわせた十分だと思っている人の割合が77.9%、「あまり十分だと思わない」と「不十分だと思う」をあわせた十分ではないと思っている人の割合が17.1%となっています。

小学生では、同様に、十分だと思っている人の割合が74.8%、十分ではないと思っている人の割合が17.8%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



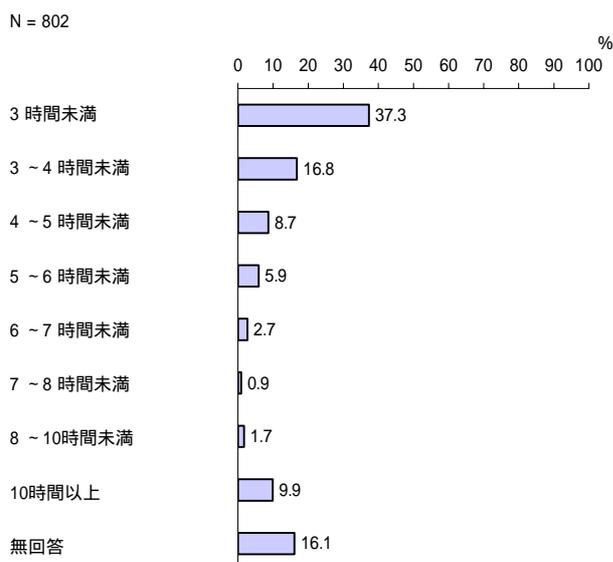
(3) 父親が子どもと一緒に過ごす1日当たりの時間と、その時間の満足度
(就学前児童：問 37(2) 小学生：問 34(2))

子どもと過ごす1日当たりの時間

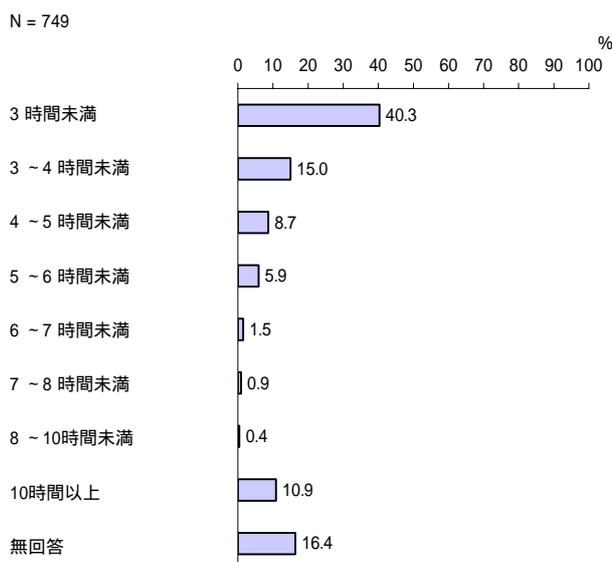
就学前児童では、「3時間未満」の割合が37.3%と最も高く、次いで「3～4時間未満」の割合が16.8%となっています。

小学生では、「3時間未満」の割合が40.3%と最も高く、次いで「3～4時間未満」の割合が15.0%、「10時間以上」の割合が10.9%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

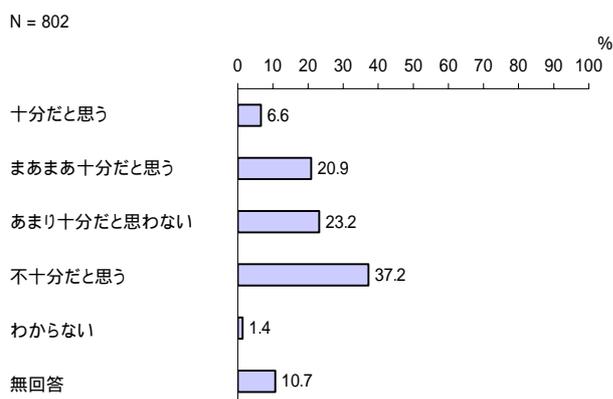


満足度

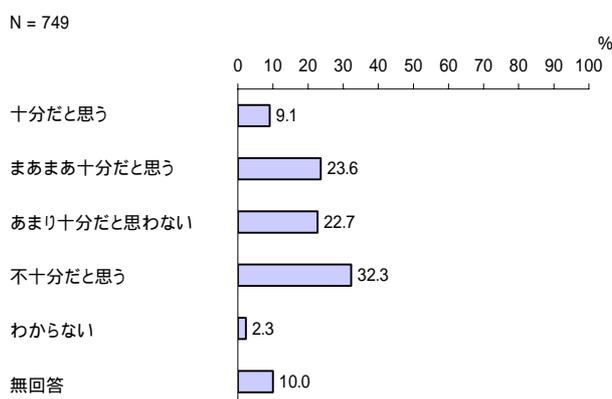
就学前児童では、「十分だと思う」と「まあまあ十分だと思う」をあわせた十分だと思っている人の割合が28.4%、「あまり十分だと思わない」と「不十分だと思う」をあわせた十分ではないと思っている人の割合が61.0%となっています。

小学生では、同様に、十分だと思っている人の割合が32.7%、十分ではないと思っている人の割合が55.0%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



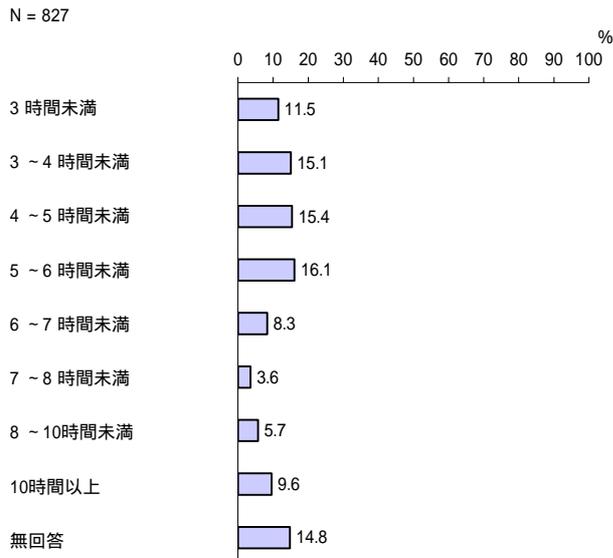
(4) 1日当たりの家事の時間 (就学前児童 : 問 38 小学生 : 問 35)

母 親

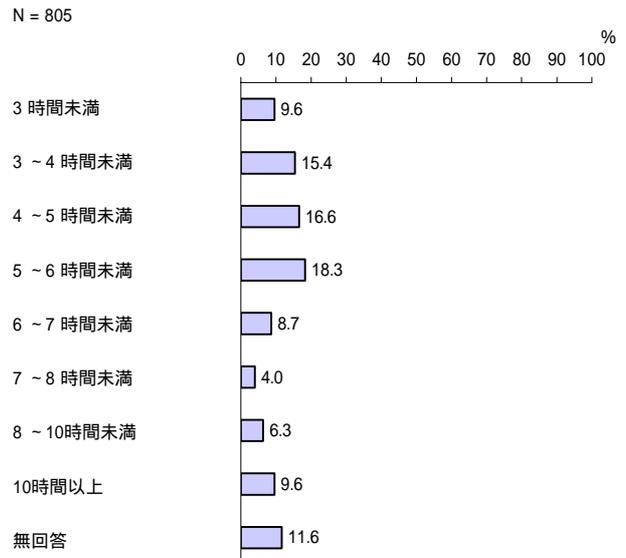
就学前児童では、「5～6時間未満」の割合が16.1%と最も高く、次いで「4～5時間未満」の割合が15.4%、「3～4時間未満」の割合が15.1%となっています。

小学生では、「5～6時間未満」の割合が18.3%と最も高く、次いで「4～5時間未満」の割合が16.6%、「3～4時間未満」の割合が15.4%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

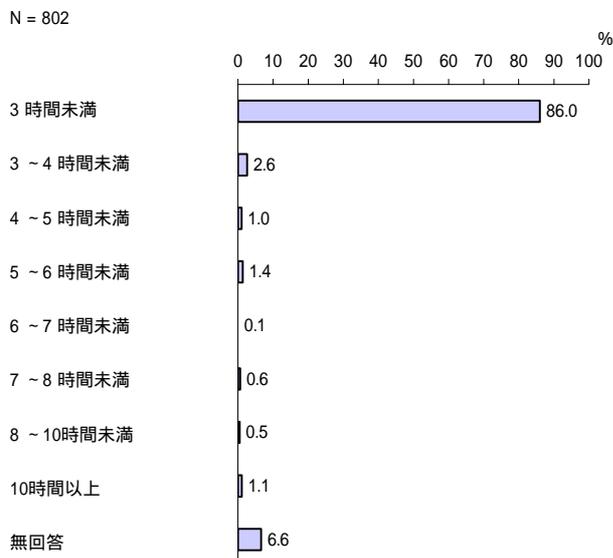


父 親

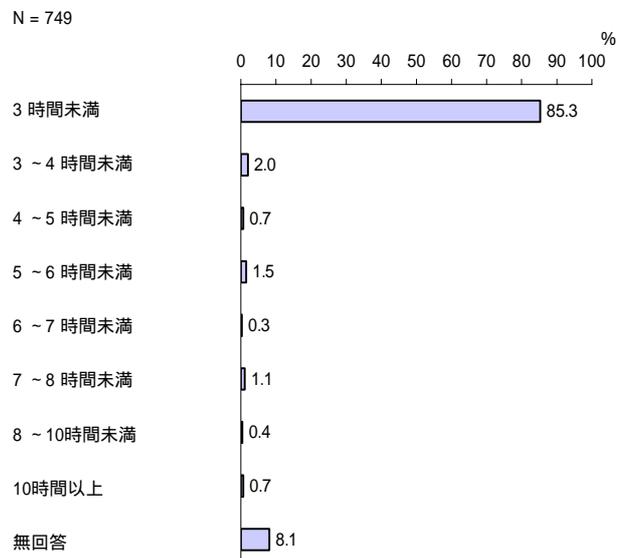
就学前児童では、「3時間未満」の割合が86.0%と最も高くなっています。

小学生では、「3時間未満」の割合が85.3%と最も高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】



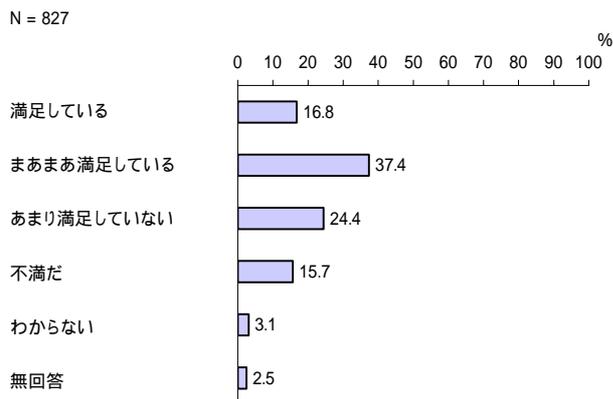
(5) 配偶者との家事・育児分担の満足度(就学前児童：問39 小学生：問36)

母親(配偶者(夫))との家事・育児分担について)

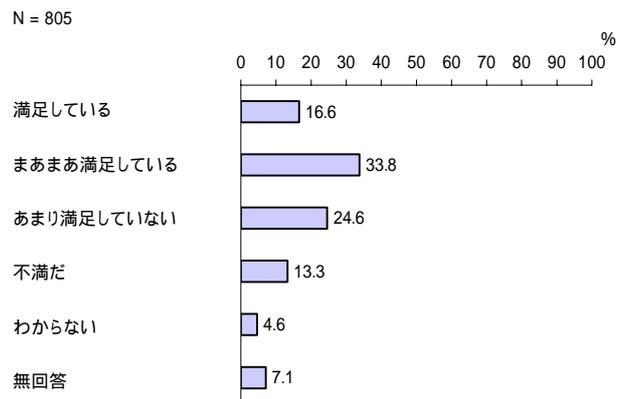
就学前児童では、「満足している」と「まあまあ満足している」をあわせた満足している人の割合が54.2%、「あまり満足していない」と「不満だ」をあわせた満足していない人の割合が40.1%となっています。

小学生では、同様に、満足している人の割合が50.4%、満足していない人の割合が37.9%となっています。

【就学前児童】



【小学生】

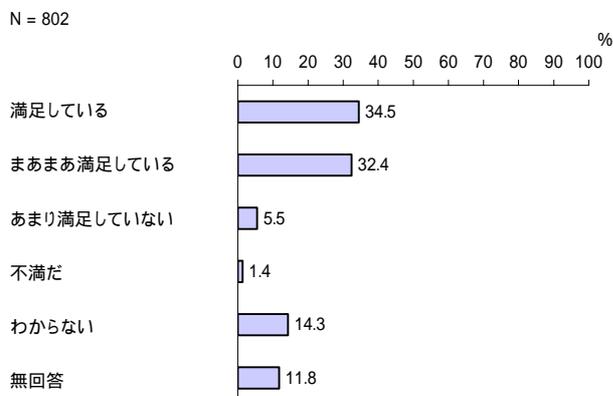


父親(配偶者(妻))との家事・育児分担について)

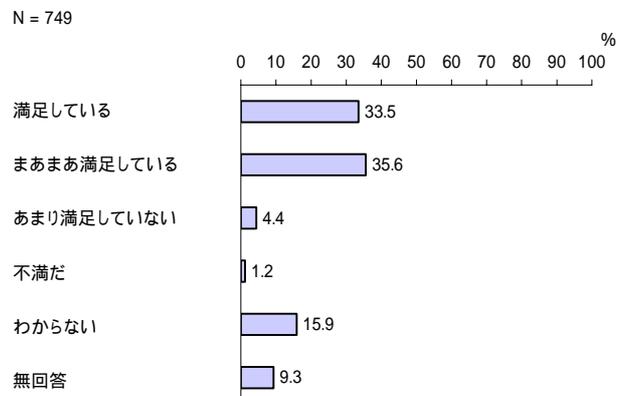
就学前児童では、「満足している」と「まあまあ満足している」をあわせた満足している人の割合が66.9%、「あまり満足していない」と「不満だ」をあわせた満足していない人の割合が6.9%となっています。

小学生では、同様に、満足している人の割合が69.1%、満足していない人の割合が5.6%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



(6)「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度について
(就学前児童：問40 小学生：問37)

現 実

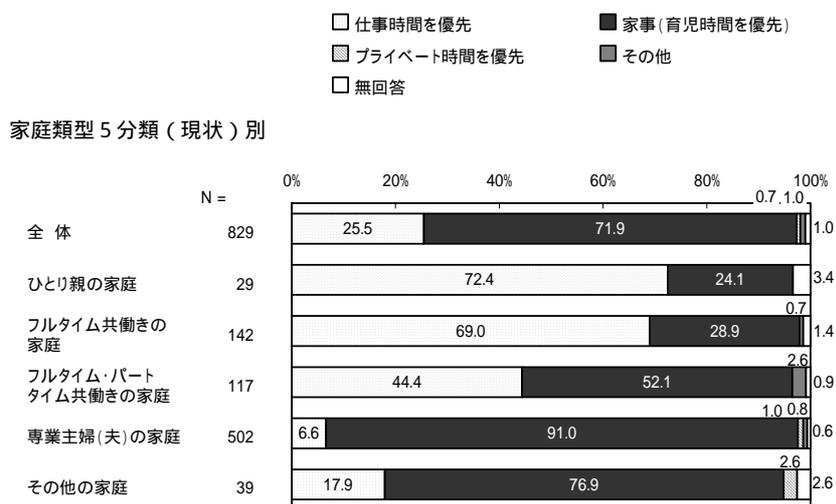
就学前児童では、「家事(育児時間)を優先」の割合が71.9%と最も高く、次いで「仕事時間を優先」の割合が25.5%となっています。

小学生では、「家事(育児時間)を優先」の割合が61.9%と最も高く、次いで「仕事時間を優先」の割合が32.4%となっています。

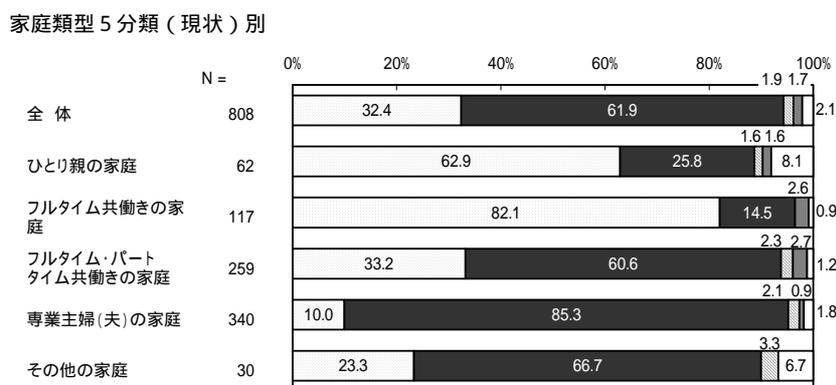
就学前児童の家庭類型5分類(現状)別でみると、ひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭で「仕事時間を優先」の割合が高くなっています。

小学生の家庭類型5分類(現状)別でみると、ひとり親の家庭、フルタイム共働きの家庭で「仕事時間を優先」の割合が高くなっています。

【就学前児童】



【小学生】



希 望

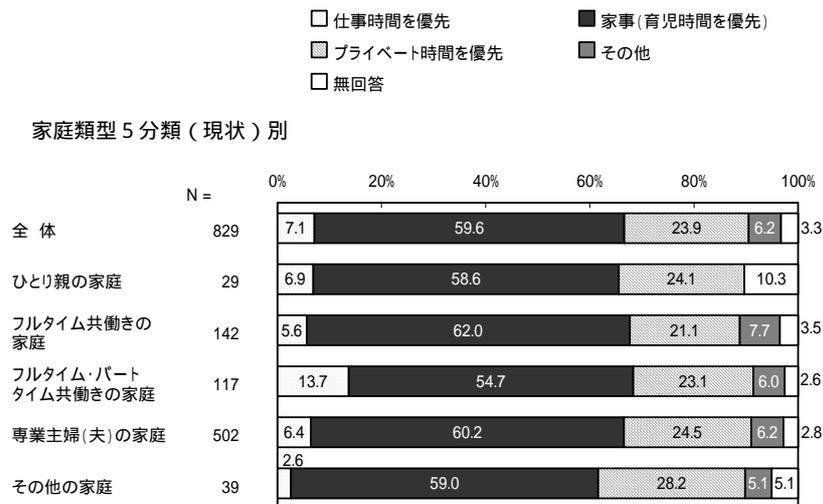
就学前児童では、「家事（育児時間）を優先」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「プライベート時間を優先」の割合が 23.9%となっています。

小学生では、「家事（育児時間）を優先」の割合が 57.1%と最も高く、次いで「プライベート時間を優先」の割合が 25.1%となっています。

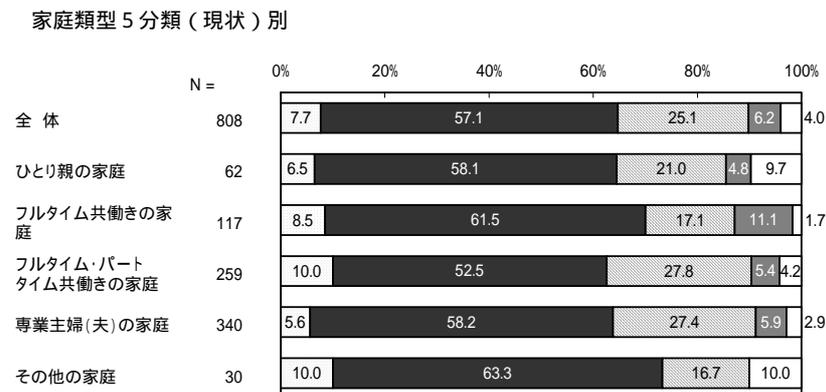
就学前児童の家庭類型 5 分類（現状）別でみると、フルタイム・パートタイム共働きの家庭で「仕事を優先」の割合が高くなっています。

小学生の家庭類型 5 分類（現状）別でみると、大きな差異は見られません。

【就学前児童】



【小学生】



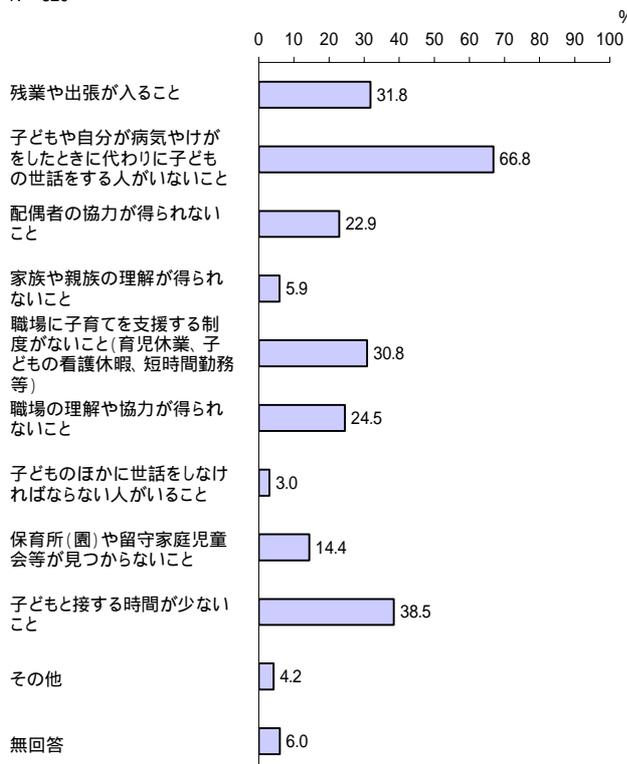
(7) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと思うこと
(就学前児童：問 41 小学生：問 38)

就学前児童では、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもの世話をする人がいないこと」の割合が 66.8%と最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」の割合が 38.5%、「残業や出張が入ること」の割合が 31.8%となっています。

小学生では、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもの世話をする人がいないこと」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」の割合が 36.0%、「残業や出張が入ること」の割合が 29.6%となっています。

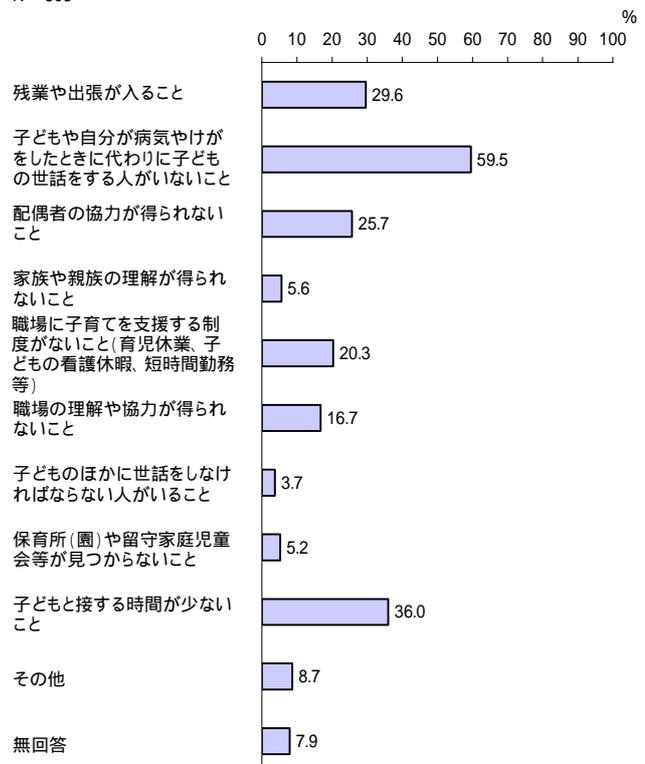
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808

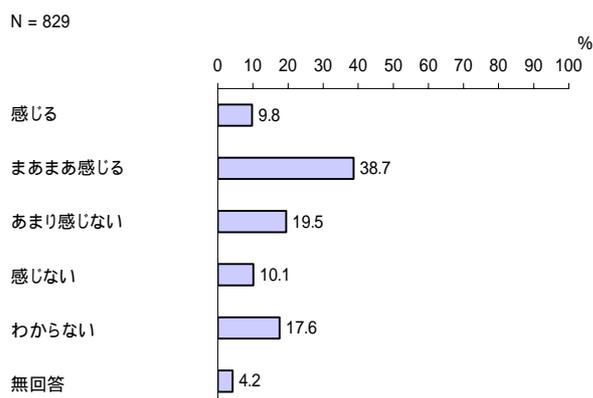


(8) 仕事と生活の調和が図られていると感じるか (就学前児童 : 問 42 小学生 : 問 39)

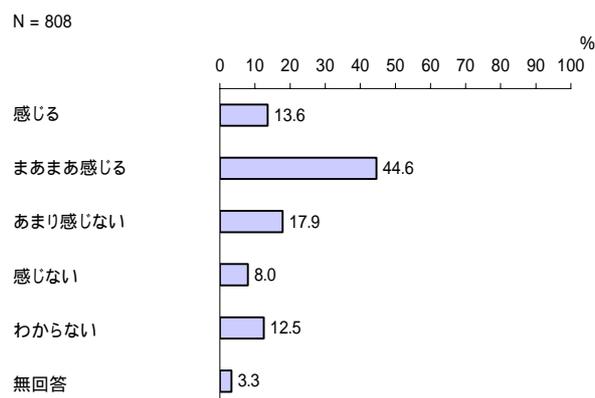
就学前児童では、「感じる」と「まあまあ感じる」をあわせた仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が 48.5%、「あまり感じない」と「感じない」をあわせた仕事と生活の調和が図られていないと感じる人の割合が 29.6%となっています。

小学生では、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が 58.2%、仕事と生活の調和が図られていないと感じる人の割合が 25.9%となっています。

【就学前児童】



【小学生】



19. 行政サービスへの要望について

行政サービスへの要望については、就学前児童、小学生ともに、同様な傾向がでており、「親子が安心して集まれる公園等の屋外の施設を整備する」「安心して子どもが医療機関（小児緊急など）を利用できる体制を整備する」「子育て世帯への経済的援助の拡大（育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充等）」の支援策に対する取組みが求められています。

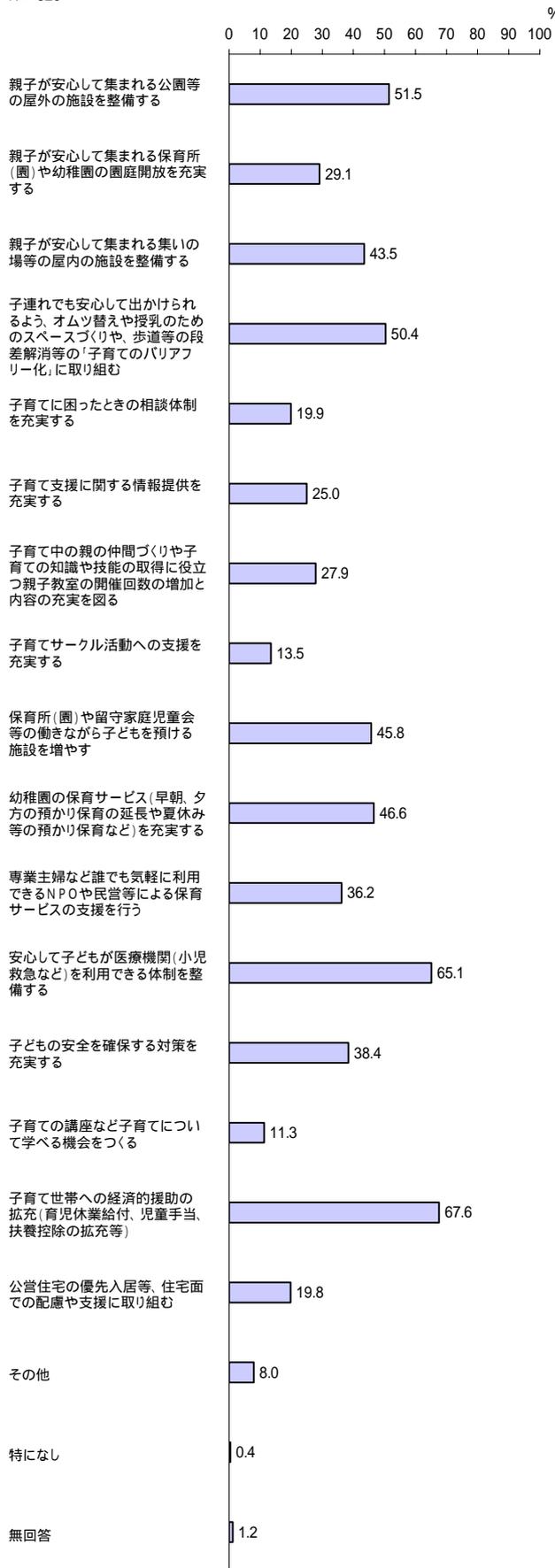
（１）行政に対して、今後どのような支援策の充実を図って欲しいか
（就学前児童：問 47 小学生：問 42）

就学前児童では、「子育て世帯への経済的援助の拡充（育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充等）」の割合が 67.6%と最も高く、次いで「安心して子どもが医療機関（小児救急など）を利用できる体制を整備する」の割合が 65.1%、「親子が安心して集まれる公園等の屋外の施設を整備する」の割合が 51.5%となっています。

小学生では、「安心して子どもが医療機関（小児救急など）を利用できる体制を整備する」の割合が 68.4%と最も高く、次いで「子育て世帯への経済的援助の拡充（育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充等）」の割合が 59.9%、「親子が安心して集まれる公園等の屋外の施設を整備する」の割合が 53.1%となっています。

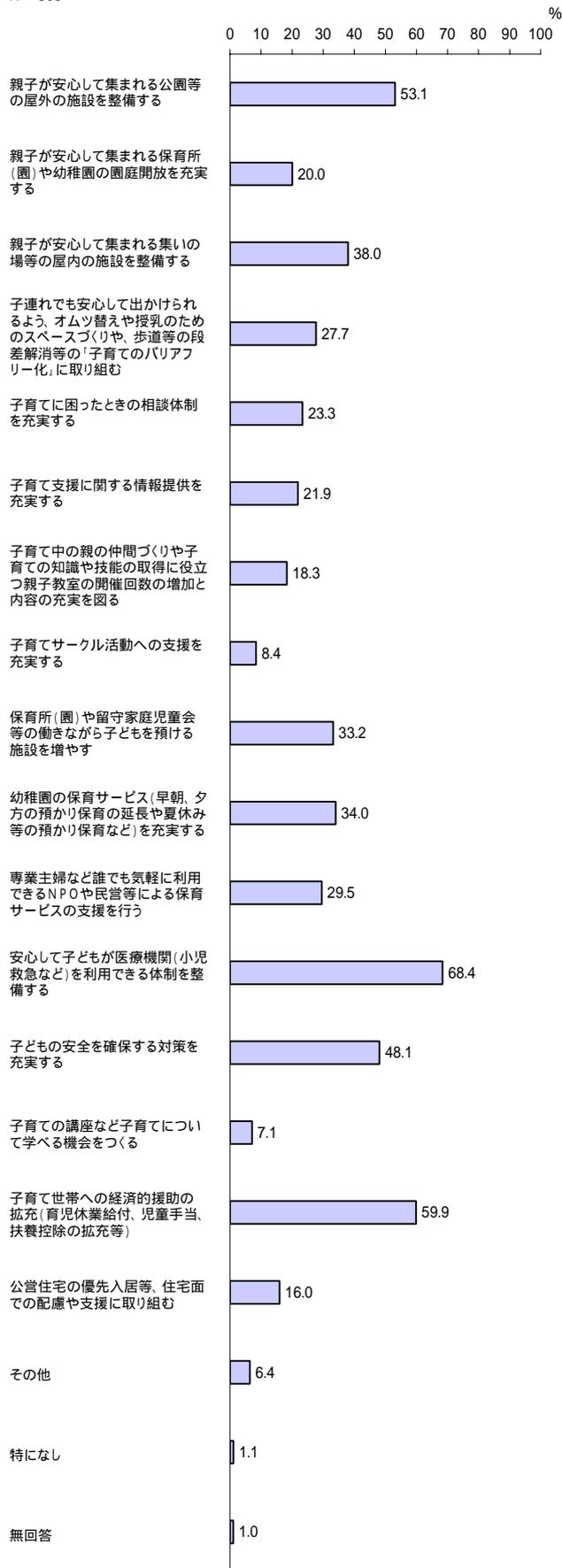
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808



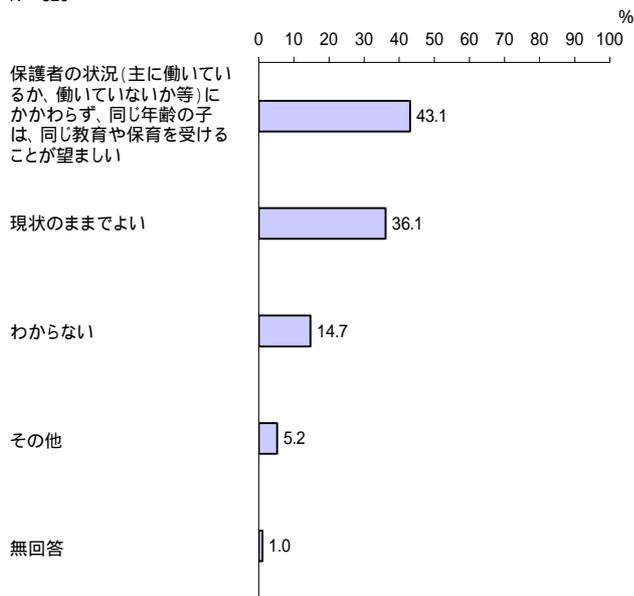
(2) 幼稚園・保育所(園)の今後のありかたについて
(就学前児童：問 48 小学生：問 43)

就学前児童では、「保護者の状況(主に働いているか、働いていないか等)にかかわらず、同じ年齢の子は、同じ教育や保育を受けることが望ましい」の割合が43.1%と最も高く、次いで「現状のままでよい」の割合が36.1%、「わからない」の割合が14.7%となっています。

小学生では、「現状のままでよい」の割合が37.4%と最も高く、次いで「保護者の状況(主に働いているか、働いていないか等)にかかわらず、同じ年齢の子は、同じ教育や保育を受けることが望ましい」の割合が35.6%、「わからない」の割合が20.0%となっています。

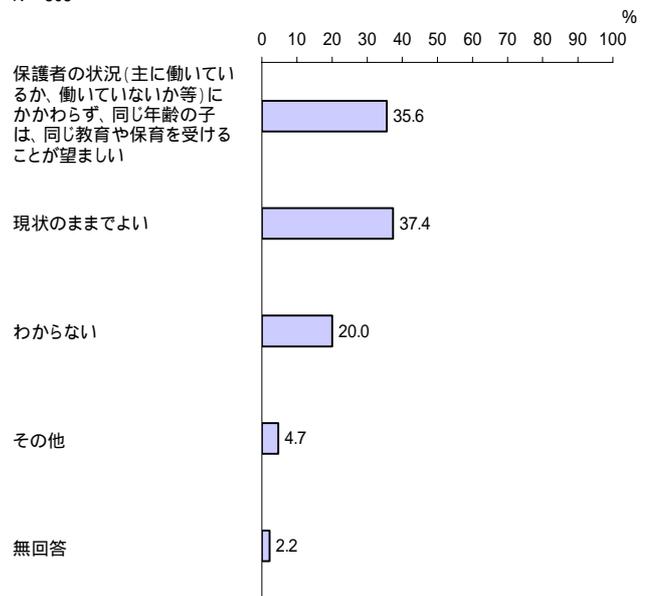
【就学前児童】

N = 829



【小学生】

N = 808

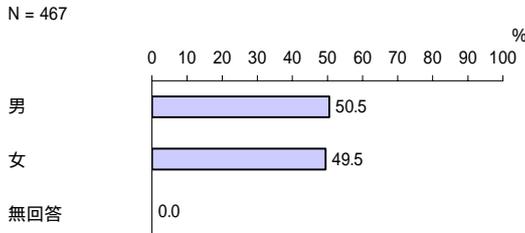


中学生・高校生本人の調査結果

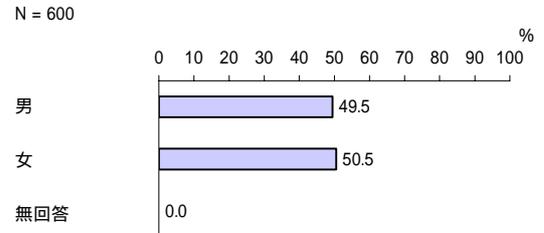
(1) 性別

中学生では、「男」の割合が50.5%、「女」の割合が49.5%となっています。
 高校生では、「男」の割合が49.5%、「女」の割合が50.5%となっています。

【中学生】



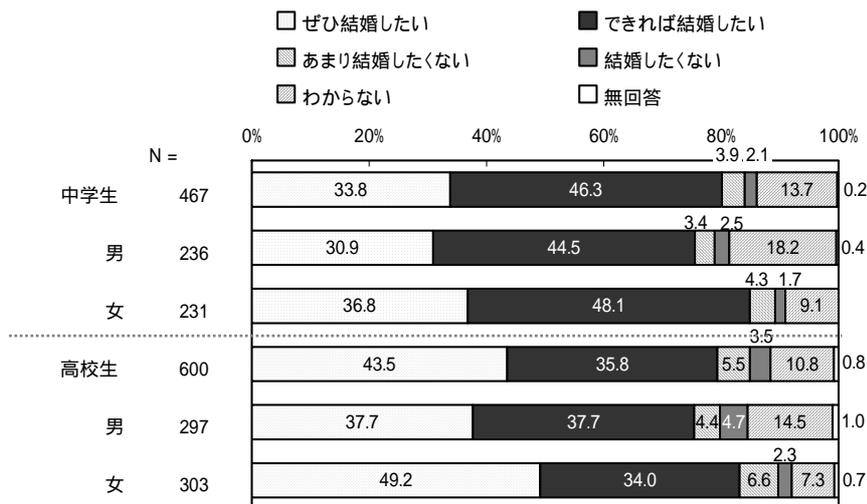
【高校生】



(2) 結婚願望の有無 (問1)

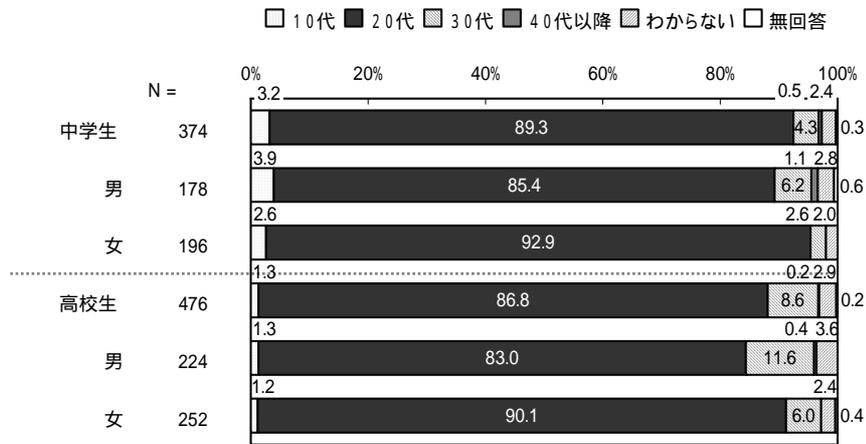
中学生では、「ぜひ結婚したい」と「できれば結婚したい」をあわせた結婚したい人の割合が80.1%、「あまり結婚したくない」と「結婚したくない」をあわせた結婚したくない人の割合が6.0%となっています。

高校生では、結婚したい人の割合が79.3%、結婚したくない人の割合が9.0%となっています。
 性別でみると、中学生、高校生ともに男子に比べ女子で結婚したい人の割合が高くなっています。



結婚したい年齢

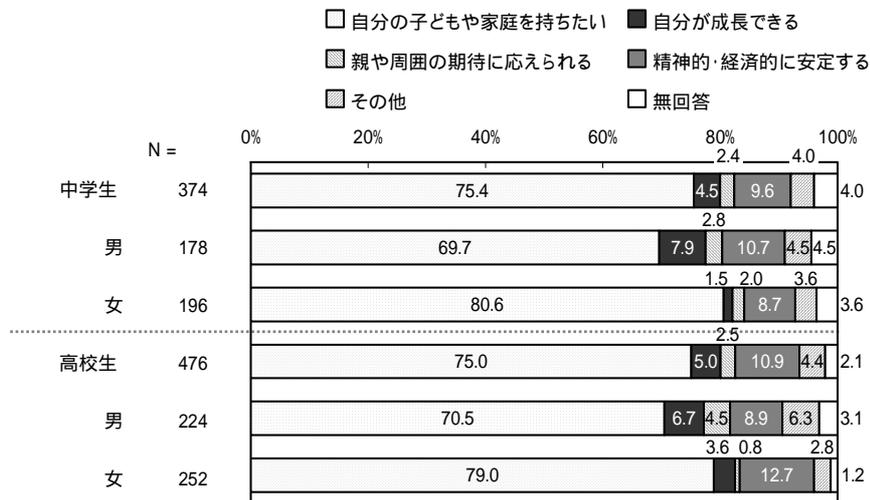
中学生、高校生ともに、「20代」の割合が最も高くなっています。



結婚したい理由

中学生、高校生ともに、「自分の子どもや家庭を持ちたい」の割合が最も高くなっています。

性別で見ると、中学生、高校生ともに男子に比べ女子で「自分の子どもや家庭を持ちたい」の割合が高くなっています。

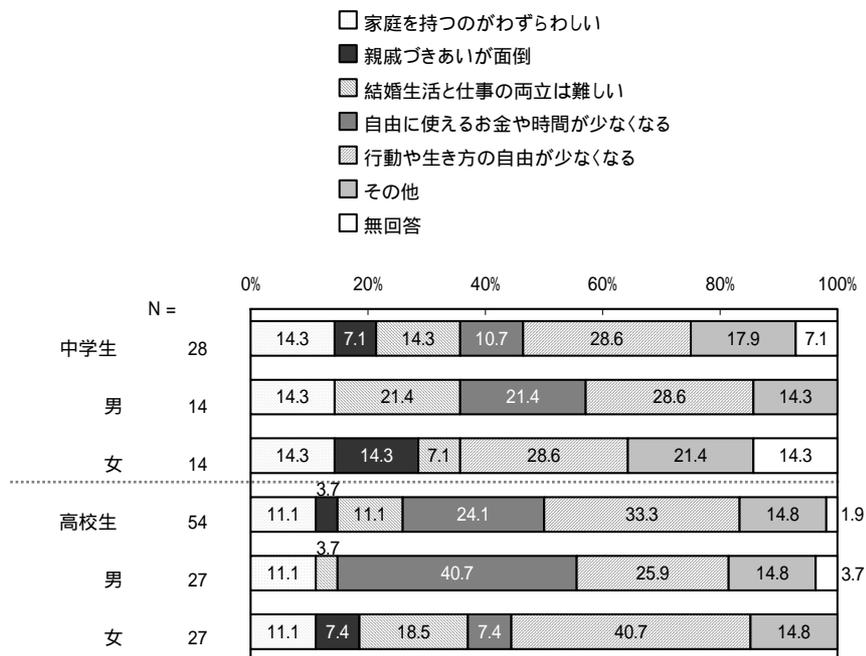


結婚したくない理由

中学生では、「行動や生き方の自由が少なくなる」の割合が 28.6%と最も高く、次いで「家庭を持つのがわずらわしい」「結婚生活と仕事の両立は難しい」の割合がともに 14.3%となっています。

高校生では、「行動や生き方の自由が少なくなる」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「自由に使えるお金や時間が少なくなる」の割合が 24.1%、「結婚生活と仕事の両立は難しい」の割合が 11.1%となっています。

性別でみると、中学生、高校生ともに女子に比べ男子で「自由に使えるお金や時間が少なくなる」の割合が高くなっています。



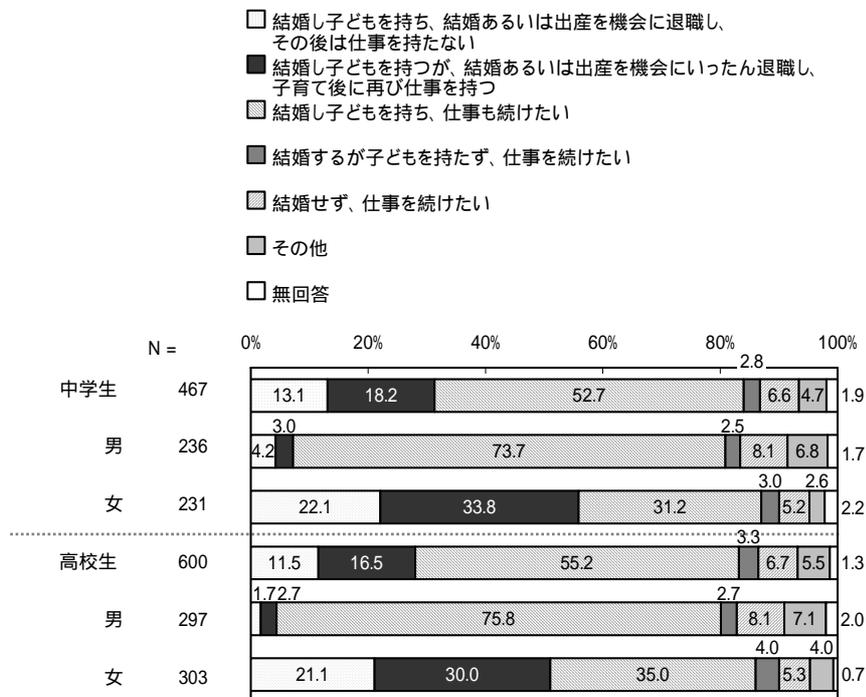
(3) 理想とするライフコース(生き方)はどのようなタイプか(問2)

本人

中学生では、「結婚し子どもを持ち、仕事も続けたい」の割合が52.7%と最も高く、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が18.2%、「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持たない」の割合が13.1%となっています。

高校生では、「結婚し子どもを持ち、仕事も続けたい」の割合が55.2%と最も高く、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が16.5%、「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持たない」の割合が11.5%となっています。

性別で見ると、中学生、高校生ともに男子に比べ女子で「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持たない」「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が高くなっています。

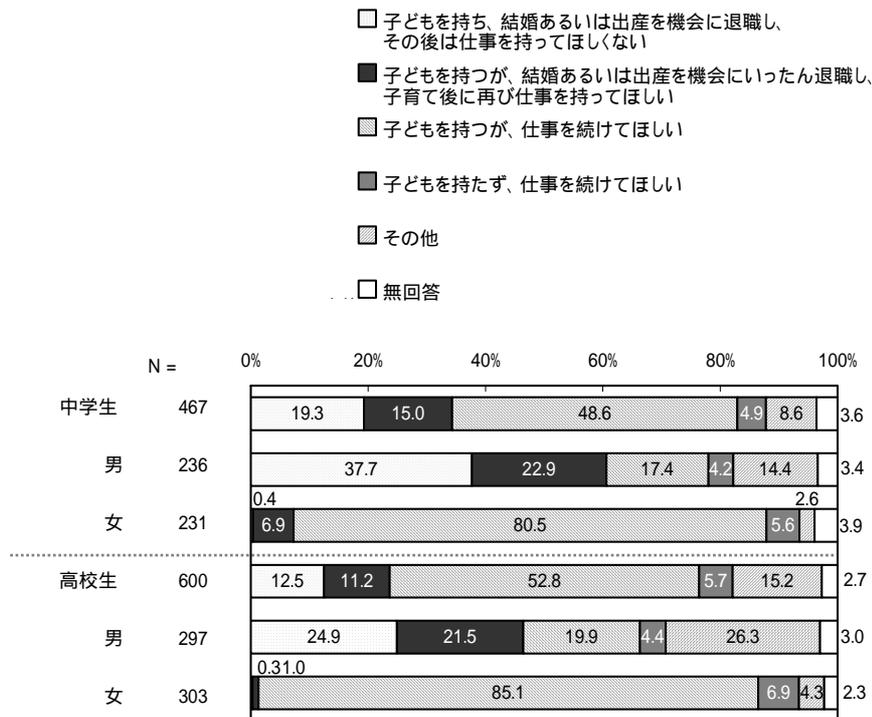


パートナー

中学生では、「子どもを持つが、仕事を続けてほしい」の割合が48.6%と最も高く、次いで「子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持ってほしくない」の割合が19.3%、「子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持ってほしい」の割合が15.0%となっています。

高校生では、「子どもを持つが、仕事を続けてほしい」の割合が52.8%と最も高く、次いで「子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持ってほしくない」の割合が12.5%、「子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持ってほしい」の割合が11.2%となっています。

性別で見ると、中学生、高校生ともに男子で「子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持ってほしくない」「子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持ってほしい」の割合が高くなっており、特に中学生では「子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会に退職し、その後は仕事を持ってほしくない」の割合が約4割となっています。

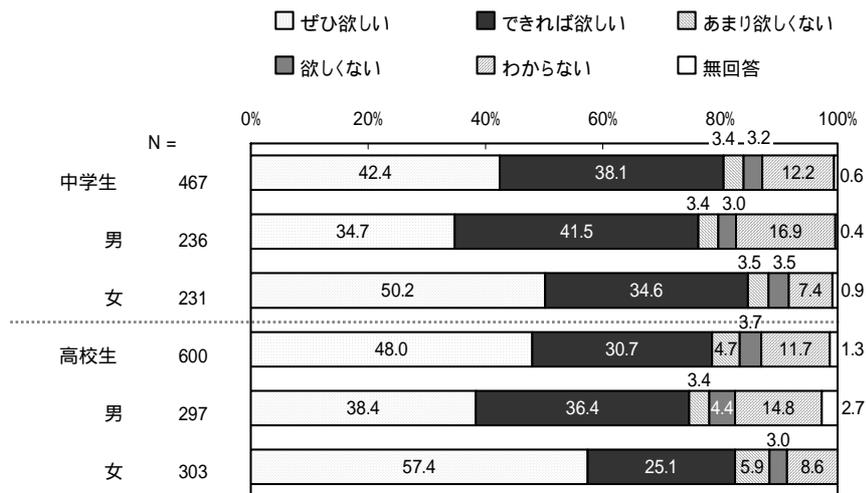


(4) 将来子どもが欲しいか(問3)

中学生では、「ぜひ欲しい」と「できれば欲しい」をあわせた子どもが欲しいと思っている人の割合が80.5%、「あまり欲しくない」と「欲しくない」をあわせた子どもを欲しくないと思っている人の割合が6.6%となっています。

高校生では、子どもが欲しいと思っている人の割合が78.7%、子どもを欲しくないと思っている人の割合が8.4%となっています。

性別でみると、中学生、高校生ともに女子に比べ男子で子どもを欲しいと思っている人の割合が低くなっています。

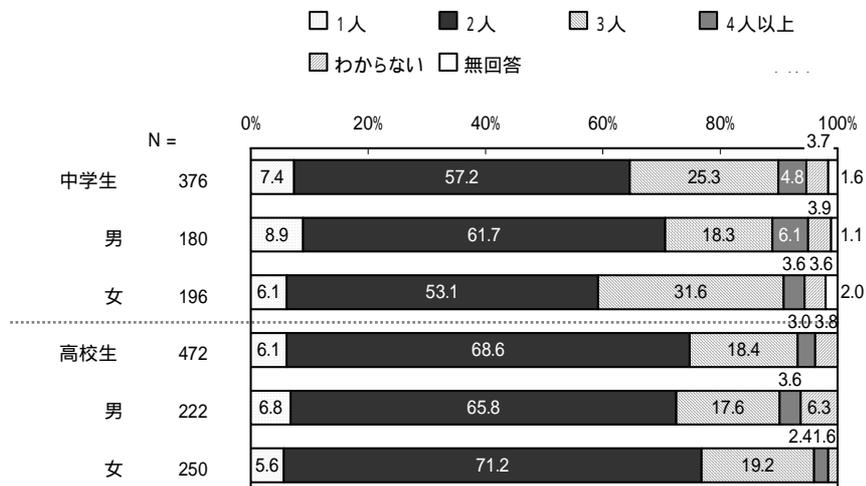


希望する子どもの人数

中学生では、「2人」の割合が57.2%と最も高く、次いで「3人」の割合が25.3%となっています。

高校生では、「2人」の割合が68.6%と最も高く、次いで「3人」の割合が18.4%となっています。

性別でみると、中学生の女子で「3人」の割合が高く、約3割となっています。



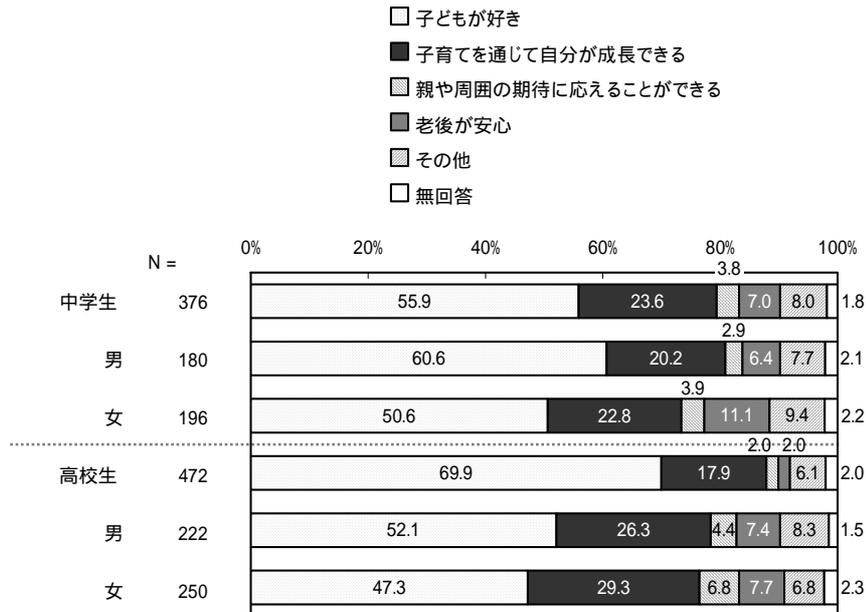
子どもが欲しい理由

中学生では、「子どもが好き」の割合が 60.6%と最も高く、次いで「子育てを通じて自分が成長できる」の割合が 20.2%となっています。

高校生では、「子どもが好き」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「子育てを通じて自分が成長できる」の割合が 26.3%となっています。

その他意見として、「家族は多いほうが楽しいから」「楽しい生活を送りたいから」「子どもの成長がみたい」「子孫を残したいから」などがあります。

性別でみると、中学生の女子で「子どもが好き」の割合が高く、約7割となっています。

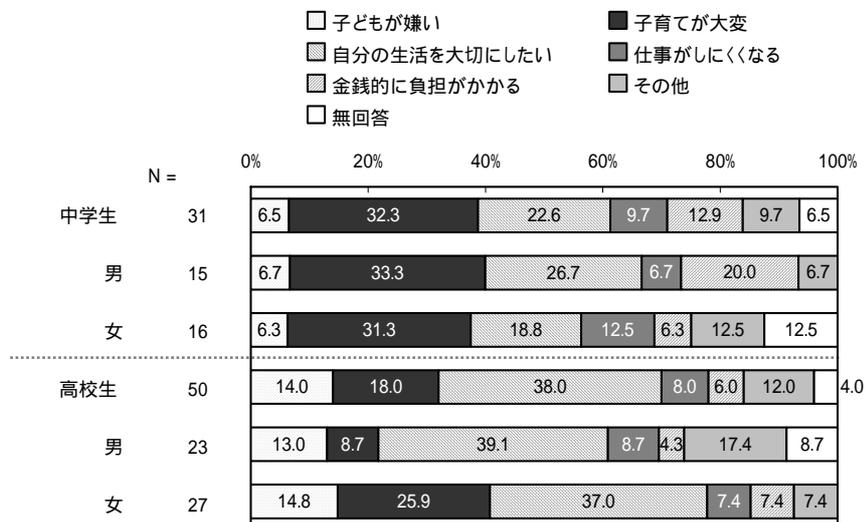


子どもが欲しくない理由

中学生では、「子育てが大変」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「自分の生活を大切にしたい」の割合が 22.6%、「金銭的に負担がかかる」の割合が 12.9%となっています。

高校生では、「自分の生活を大切にしたい」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「子育てが大変」の割合が 18.0%、「子どもが嫌い」の割合が 14.0%となっています。

性別でみると、高校生の男子で「自分の生活を大切にしたい」の割合が高く、約4割となっています。

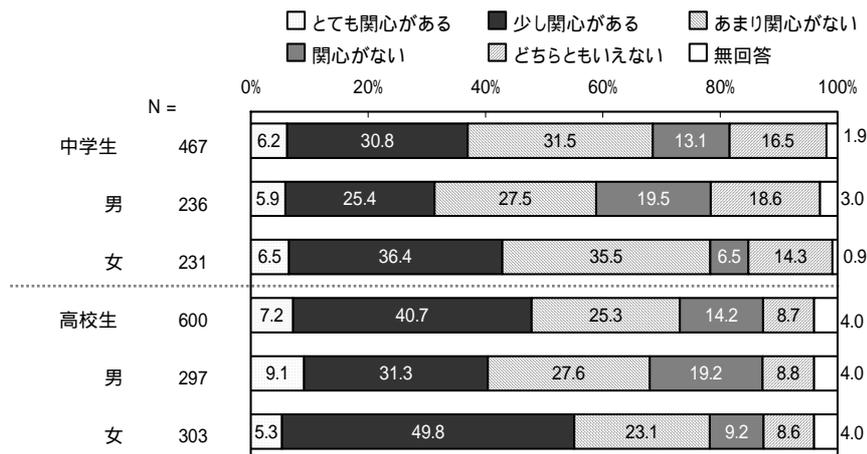


(5) 少子化への関心度 (問 4)

中学生では、「とても関心がある」と「少し関心がある」をあわせた少子化に関心がある人の割合が 37.0%、「あまり関心がない」と「関心がない」をあわせた少子化に関心がない人の割合が 44.6%となっています。

高校生では、少子化に関心がある人の割合が 47.9%、少子化に関心がない人の割合が 39.5%となっています。

性別でみると、高校生の女子で少子化に関心がある人の割合が高く、5割を超えています。

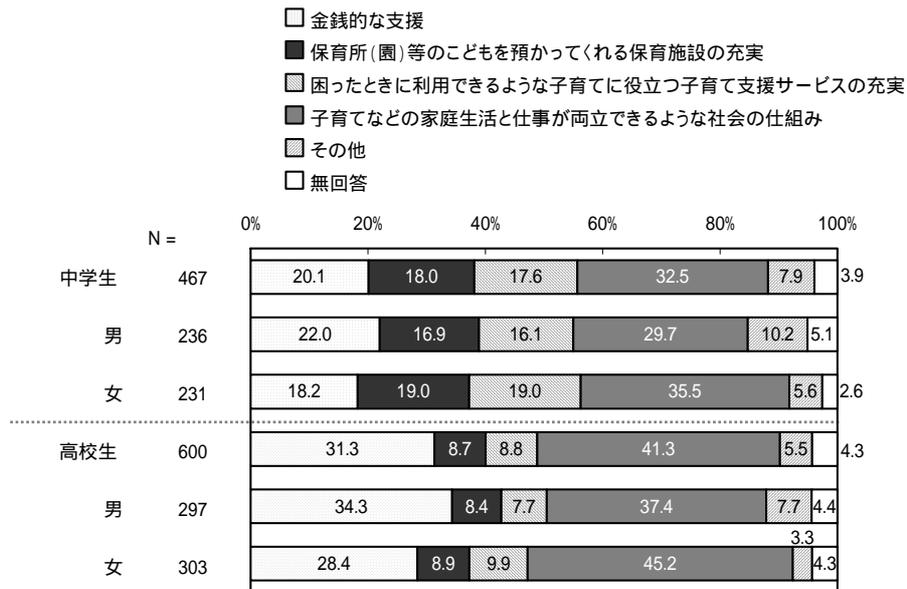


(6) 少子化を解消するための有効な手立て(問5)

中学生では、「子育てなどの家庭生活と仕事が両立できるような社会の仕組み」の割合が32.5%と最も高く、次いで「金銭的な支援」の割合が20.1%、「保育所(園)等のこどもを預かってくれる保育施設の充実」の割合が18.0%となっています。

高校生では、「子育てなどの家庭生活と仕事が両立できるような社会の仕組み」の割合が41.3%と最も高く、次いで「金銭的な支援」の割合が31.3%となっています。

性別でみると、高校生の女子で「子育てなどの家庭生活と仕事が両立できるような社会の仕組み」の割合が高くなっています。

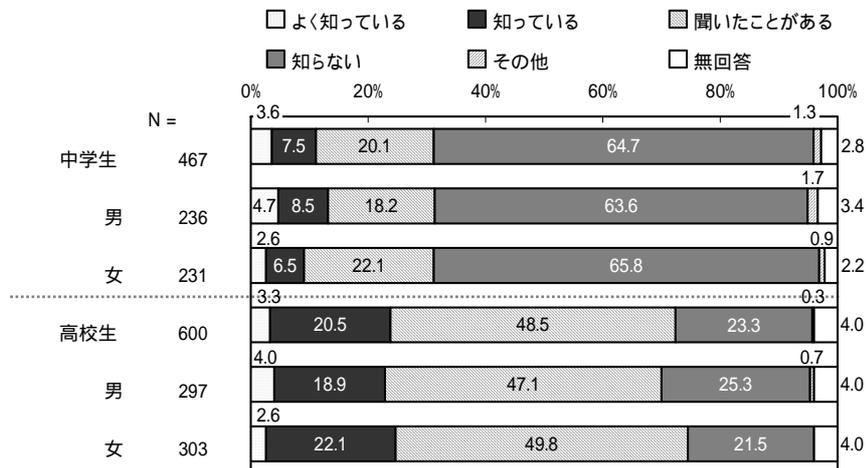


(7) 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)の認知度(問6)

中学生では、「知らない」の割合が64.7%と最も高く、次いで「聞いたことがある」の割合が20.1%となっています。

高校生では、「聞いたことがある」の割合が48.5%と最も高く、次いで「知らない」の割合が23.3%、「知っている」の割合が20.5%となっています。

性別でみると、中学生、高校生ともに大きな差異は見られません。



(8) 幼稚園と保育所(園)の今後のあり方について望ましいと思うこと(問7)

中学生では、「現状のままでよい」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「保護者の状況(主に働いているか、働いていないか等)にかかわらず、同じ年齢の子は、同じ教育や保育を受けることが望ましい」の割合が 34.3%となっています。

高校生では、「現状のままでよい」の割合が 46.3%と最も高く、次いで「保護者の状況(主に働いているか、働いていないか等)にかかわらず、同じ年齢の子は、同じ教育や保育を受けることが望ましい」の割合が 24.0%となっています。

性別でみると、中学生男子で「現状のままでよい」の割合が低くなっています。

